

< 教職課程 >

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁	
免許状取得に必要な 共通科目	日本国憲法	1	
	スポーツ理論	2	
	スポーツ実技Ⅰ	3	
	スポーツ実技Ⅱ	4	
	コミュニケーション英語Ⅰ	5~12	
	コミュニケーション英語Ⅱ	13~20	
	情報処理Ⅰ	21	
	情報処理Ⅱ	22	
教科及び教科の指導法に関する科目	高等学校 (公民)	法学（国際法を含む）	23
		国際関係論（国際政治を含む）	24
		人権と法	25
		社会学概論	26
		家族社会学	27
		経済学概論	28
		現代経済学（国際経済を含む）	29
		哲学	30
		倫理学	31
		心理学	32
		生命倫理	33
		公民科指導法Ⅰ	34
		公民科指導法Ⅱ	35
		高等学校 (福祉)	社会福祉原論Ⅰ
	社会福祉原論Ⅱ		37
	社会保障論Ⅰ		38
	社会保障論Ⅱ		39
	社会福祉教育論		40
	高齢者福祉論Ⅰ		41
	障害者福祉論Ⅰ		42
	子ども家庭福祉論Ⅰ		43
	ソーシャルワーク論Ⅲ		44
	ソーシャルワーク論Ⅴ		45
	地域福祉論Ⅰ		46
	地域福祉論Ⅱ		47
	介護概論	48	
基本介護技術	49		

<教職課程>

区 分		科 目 名	頁
導 教 法 科 に 及 び 関 す る 科 の 目 指	高等学校 (福祉)	介護現場実習	50
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	51
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	52
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	53
		医学概論	54
		介護福祉論	55
		障害者福祉論Ⅱ	56
		福祉科教育法Ⅰ	57
		福祉科教育法Ⅱ	58
に 大 設 学 定 が す 独 る 自 科 目	高等学校 (公民) (福祉)	生涯学習論	59
		教育学	60
		ジェンダー論	61
		文化人類学	62
		地域社会論	63
		道德教育論	64
教 育 の 基 礎 的 理 解 に 関 す る 科 目 等	高等学校 (公民)	教育原理	65
		教職概論	66
		教育法概論	67
		教育心理学	68
		特別支援教育の基礎	69
		教育課程論	70
		総合的な探究の時間の指導法	71
		特別活動論	72
		教育方法・技術論 (ICT活用の理論と実践を含む)	73
		生徒指導論	74
	高等学校 (福祉)	学校カウンセリング	75
		進路指導及びキャリア教育	76
		教育実習事前事後指導	77
		教育実習	78
		教職実践演習 (高等学校)	79

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
特別支援学校教諭  社会福祉学科	障害児教育学	80
	知的障害心理・生理・病理	81
	肢体不自由心理・生理・病理	82
	病弱心理・生理・病理	83
	障害児教育課程論	84
	障害児教育方法論	85
	肢体不自由者教育課程論	86
	肢体不自由教育演習	87
	病弱教育学	88
	視覚障害教育総論	89
	聴覚障害教育総論	90
	障害児の病理と心理Ⅰ	91
	障害児の病理と心理Ⅱ	92
	障害児教育実習事前事後指導	93
	障害児教育実習	94
栄養教諭	栄養教諭論	95
	食生活・食文化論	96
	食教育指導論	97
	教育原理	65
	教職概論	66
	教育法概論	67
	教育心理学	68
	特別支援教育の基礎	69
	教育課程論	70
	道徳教育論	64
	特別活動論	71
	総合的な探求の時間の指導法	72
	教育方法・技術論（ICT活用の理論と実践を含む）	73
	生徒指導論	74
	学校カウンセリング	75
	栄養教育実習事前事後指導	98
	栄養教育実習	99
教職実践演習(栄養教諭)	100	

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
幼稚園教諭	子どもと言葉	101
	子どもと環境	102
	子どもと音楽表現Ⅰ	103
	子どもと音楽表現Ⅱ	104
	子どもと造形表現Ⅰ	105
	子どもと造形表現Ⅱ	106
	子どもと健康	107
	子どもと人間関係	108
	保育内容・人間関係	109
	保育内容・環境Ⅰ	110
	保育内容・環境Ⅱ	111
	保育内容・健康Ⅰ	112
	保育内容・健康Ⅱ	113
	保育内容・言葉	114
	保育内容・表現Ⅰ	115
	保育内容・表現Ⅱ（音楽）	116
	保育内容・表現Ⅱ（造形）	117
	保育内容・表現Ⅱ（言語）	118
	教育原理	119
	幼児教育史	120
	教職概論（幼稚園）	121
	教育法概論	122
	子ども教育心理学	123
	発達心理学	124
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	125
	保育内容総論	126
	保育指導論	127
	保育指導論演習	128
	子ども理解と教育相談	129
	教育実習指導	130
	教育実習	131
	教職・保育実践演習	132
	生涯学習論	133
	児童文化	134
	児童文化演習	135

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
特別支援学校教諭  社会保育学科	障害児支援の基礎理論	136
	知的障害者の心理・生理・病理	137
	肢体不自由者の心理・生理・病理	138
	病弱者の心理・生理・病理	139
	知的障害者教育課程論	140
	知的障害者教育方法論	141
	肢体不自由者教育課程論	142
	肢体不自由者教育方法論	143
	病弱者教育論	144
	重複障害・発達障害の評価	145
	重複障害・発達障害の教育	146
	視覚障害者教育総論	147
	聴覚障害者教育総論	148
	障害児教育実習事前事後指導	149
	障害児教育実習	150

科 目 名	日本国憲法		担当教員名	栞山 茂樹		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	日本国憲法の重要項目について学ぶ。法学の専門的水準の憲法解釈学を身につける。それを通じて、現実の憲法問題について議論できるようになる。					
授 業 の 概 要	憲法とは「国家権力のしくみを定め、コントロールする法」のことである。憲法は社会科の授業で教わるほか、政界・マスコミ等でも話題にのぼるため、一般人にもある程度は知られている。しかしそれが仇となつてか、誤解や俗説も多々見受けられる。本講義ではそこにも注意しながら、法学としての憲法論を学ぶ。 半期 15 回で憲法学の全分野(総論・人権・統治機構)の要点を解説していく。それらを通じて、国家権力と個人の権利・自由の関係について考えるきっかけとしたい。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス、憲法に対する誤解を解く</li> <li>2 憲法総論：国家・憲法・法律</li> <li>3 人権と憲法上の権利</li> <li>4 憲法上の権利の享有主体性：特に外国人</li> <li>5 幸福追求権：自己決定権、プライバシー権</li> <li>6 法の下での平等</li> <li>7 信教の自由と政教分離</li> <li>8 表現の自由</li> <li>9 職業選択・営業の自由</li> <li>10 生存権</li> <li>11 国民主権原理</li> <li>12 国会と国会議員：代表民主制のしくみ</li> <li>13 内閣：議院内閣制の構造と特色</li> <li>14 裁判所：司法権の概念、違憲審査制</li> <li>15 憲法九条</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定参考書を読む。			90分以上	
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関、裁判所等の Web サイトに目を通す。			90分以上	
授 業 の 留 意 点	人権編については私の担当講義「人権と法」で詳しく扱う(そのため、一部内容が重複することをお断りしておく)ので、併せて履修してもらうことを強く望む。そのほか、「法学(国際法を含む)」 「子どもの権利」「教育法概論」も関連が深い。授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。 予習・復習としては、後述の参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。条文を読むことにも慣れてもらいたい。					
学 生 に 対 す る 価 値	期末試験(100%)					
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自ノートをしっかりとること。					
参 考 書 (購 入 任 意)	独習用に以下をすすめる。そのほか、参考文献を適宜紹介する。 ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018) ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第4版』(三省堂、2021)					

科 目 名	スポーツ理論		担当教員名	清水 幸子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>自らのライフスタイルに合った運動習慣を身につけ、継続的に実施することができるようになることである。</p> <p>知識と技能：習得した知識を理解し、自らの人間性と能力を高めることができる。</p> <p>課題解決力：テーマに応じて、自らが課題を発見し、その課題解決に向け主体的に取り組むことができる。</p> <p>論理的思考力：健康に関する様々な問題について情報を収集・分析し、関連する諸領域を幅広く理解することができる。</p>					
授業の概要	<p>生涯にわたり健全で豊かな生活を送るために必要な要素について学習することをねらいとする。自己の体力や健康について振り返りながら課題を発見し、心身ともに健康で豊かな生活を送るための理解を深める。</p> <p>また、今後のからだの変化や生活習慣病の予防、行政の取組、身体活動量の現状と目標について学ぶ。</p> <p>授業は主に講義形式で行なう。</p> <p>また、テーマや課題によってはグループによる話し合いや ICT を活用し、WEB 上のコンテンツから課題を見つけ理解を深める。</p> <p>随時アプリケーションを使用する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス：本講義のねらい</li> <li>2 健康と体力①（健康問題と政策）</li> <li>3 健康と体力②（健康に関連した体力トレーニング）</li> <li>4 健康と運動①（身体の構造・機能と運動）</li> <li>5 健康と運動②（身体の発育発達と運動）</li> <li>6 健康と運動③（身体の加齢変化と運動）</li> <li>7 健康と運動④（生活習慣病予防と運動）</li> <li>8 中間まとめ（日頃の体調について、歩数の振り返り）</li> <li>9 健康と運動⑤（運動習慣について）</li> <li>10 健康生活の実現に向けて①（健康と栄養）</li> <li>11 健康生活の実現に向けて②（健康と休養）</li> <li>12 スポーツの歴史</li> <li>13 将来に向けた準備①（健康年齢の測定）</li> <li>14 将来に向けた準備②（職業病）</li> <li>15 授業の整理とまとめ（質疑応答）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	1週間の身体活動量についてまとめておく。またテーマに応じて関連する情報を収集しておく。			90分	
	復習	講義にて出された課題や運動実践に取り組む。			90分	
授業の留意点	スポーツ、運動、健康に関連するニュース報道、新聞などを媒体としながら情報を収集しておくことが学習成果を上げることになるため情報収集のための予習時間が必要不可欠なものとなる。					
学生に対する評価	<p>提出物 70%、定期試験（レポート） 30%</p> <p>知識と技能：活動内容について深く理解し、事前事後課題を行なっているかを提出物で評価する。</p> <p>課題解決力：テーマに対して、説明することができ、自らの知識、経験を省察することができるかを提出物で評価する。</p> <p>論理的思考力：健康に関する様々な問題について情報を収集・分析し、関連する諸領域を幅広く理解することができるかを提出物及び定期試験で評価する。</p>					
教科書（購入必須）	指定なし。 健康調ベシート（オリジナル教材）、身体活動量チェックシート（オリジナル教材）（※授業時に配布）					
参考書（購入任意）	田口貞善 『健康・運動の科学 -介護と生活習慣病予防のための運動処方』 講談社 ISBN9784062806596					



科 目 名	スポーツ実技 I		担当教員名	清水 幸子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実技
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>この授業での目標は、スポーツの知識や技術向上だけではなく、他者とのコミュニケーションを円滑に図ることができ、在学中のみならず、卒業後も継続してスポーツを楽しみながら、自らの人間性と能力を高めることができるようになることである。</p> <p>基本的なリテラシー：活動内容について理解し、実施する種目に応じて説明することができる。</p> <p>人間性と能力：技術や戦術について他者と相談することや、コミュニケーションを取りながら問題を解決することができる。</p> <p>教養：スポーツを行なう楽しさや技能を身につけることで、多面的な理解を深め、関心を広げることができる。</p>					
授業の概要	<p>スポーツ実践を通して、体力の向上や健康の増進を図ることをねらいとする。</p> <p>スポーツを通してそれぞれの種目特性を探り、技術レベルを高める。</p> <p>またゲームに必要な戦術、ルールなどの理解を深めながら、ゲーム本来の楽しさやグループで行なう楽しさを体験する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 履修ガイダンス：受講上の諸注意など</li> <li>2 ラケットスポーツ実践①（バドミントン）ドライブとハイクリアの練習</li> <li>3 ラケットスポーツ実践②（バドミントン）ドロップとヘアピンの練習</li> <li>4 ラケットスポーツ実践③（バドミントン）スマッシュ練習／簡易ゲーム</li> <li>5 ラケットスポーツ実践④（バドミントン）コンビネーション練習／簡易ゲーム</li> <li>6 ラケットスポーツ実践⑤（バドミントン）ゲーム</li> <li>7 ラケットスポーツ実践⑥（バドミントン）ゲームリーグ戦</li> <li>8 集団スポーツ①（バレーボール）サーブ練習／ミニゲーム</li> <li>9 集団スポーツ②（バレーボール）パス練習／ミニゲーム</li> <li>10 集団スポーツ③（バレーボール）ゲーム</li> <li>11 集団スポーツ④（バレーボール）ゲームリーグ戦</li> <li>12 集団スポーツ⑤（バスケットボール）シュート練習／ミニゲーム</li> <li>13 集団スポーツ⑥（バスケットボール）ドリブル、パス練習／ミニゲーム</li> <li>14 集団スポーツ⑦（バスケットボール）ゲーム</li> <li>15 集団スポーツ⑧（バスケットボール）ゲームリーグ戦</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	種目について関連する動画を視聴し、動きのイメージを膨らませる。			15分	
	復習	身体のメンテナンスを積極的に行なう。			30分	
授業の留意点	<p>服装は運動に適したもので気候にあったものを準備すること。ジャージ、トレーナー、Tシャツ、ショートパンツ等で、体育館シューズを必ず使用すること。</p> <p>日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。</p>					
学生に対する評価	<p>受講態度 30%、技能 30%、小レポート 20%、定期試験（レポート） 20%</p> <p>基本的なリテラシー：活動内容について理解し、実施する種目に応じて説明することができるか、技能と定期試験にて評価する。</p> <p>人間性と能力：技術や戦術について他者と相談することや、コミュニケーションを取りながら問題を解決することができるか、受講態度で評価する。</p> <p>教養：スポーツの特性への理解や関心について、小レポートにて評価する。</p> <p>評価項目については、初回授業時にルーブリック（評価基準表）により示す。</p>					
教科書（購入必須）	<p>テキストは使用しない。</p> <p>活動シート（オリジナル教材）を授業時に配布する。</p>					
参考書（購入任意）	<p>大修館書店編集部『観るまえに読む 大修館 スポーツルール 2022』大修館書店 ISBN9784469269277</p>					

科 目 名	スポーツ実技Ⅱ		担当教員名	清水 幸子・荻野 大助・今野 聖士・岩田 直美・傳馬 淳一郎・敦賀 信人	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実技
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>【授業の到達目標（学習成果）】</p> <p>この授業での目標は、スポーツの知識や技術向上だけではなく、他者とのコミュニケーションを円滑に図ることができ、在学中のみならず、卒業後も継続してスポーツを楽しむことで、生涯スポーツの一つにつなげることである。</p> <p>基本的なリテラシー：活動内容について理解し、実施する種目に応じて説明することができる。</p> <p>人間性と能力：技術や戦術について他者と相談することや、コミュニケーションを取りながら問題を解決することができる。</p> <p>地域の自然：地域の特性を生かしたスポーツを体験することで、地域に対する関心や地域から学ぶ姿勢を体得することができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>名寄市の地域資源を活用し、ウィンタースポーツを通してそれぞれの種目特性を探り、技術レベルを高める。またそのスポーツに必要な戦術、ルールなどの理解を深めながら、スポーツ本来の楽しさやグループで行なう楽しさを体験する。</p> <p>なおスキーおよびカーリングは選択制とし、どちらか一方のみ履修可能とする。スキーにおいては安全面への配慮から、経験やレベルに応じてクラス分けを行い実施する。（初心者から上級者まで履修可能）</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス：受講上の諸注意など</li> <li>雪や氷について①（スポーツと自然）</li> <li>雪や氷について②（スポーツの特性）</li> <li>スキー実技 班分け、自然環境とスキー用具に慣れる</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：大回りターンで長い距離をゆっくりと滑る／初級レベル：ブルークスタンスと滑走スピードをコントロール</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：大回りターンでターンのコントロール／初級レベル：ブルークボーゲンで方向を変える</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：大回りターンで中・緩斜面をスピード豊かに／初級レベル：ブルークボーゲンを楽しむ</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：整地された様々な斜面を大回りターンで滑る／初級レベル：長い距離を滑る</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：グループ課題に取り組む／初級レベル：ブルークボーゲンからブルークターンへ</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：グループ課題の発表／初級レベル：ブルークボーゲンで整地された斜面にチャレンジする</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：スキー交流（共育）／初級レベル：長い距離をゆっくりと滑る（トレイン）</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：不整地を含む様々な斜面を滑る／初級レベル：ブルークで、長い距離を滑る</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：大回り・小回りターンを楽しむ／初級レベル：リズムを楽しむ</li> <li>スキー実技 上・中級レベル：スキー交流（共育）と初級者への指導法／初級レベル：スキー交流（共育）を楽しむ</li> <li>スキー実技 スキー交流（共育）斜面変化や自然環境の変化を楽しみながら長距離を移動、様々な状況に挑戦</li> </ol>				<p>授業計画（カーリング）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ルール・ポジションの役割</li> <li>②氷の状態・カーリングの歴史</li> <li>③用具などの説明④カーリング技術の基礎（氷に慣れる）</li> <li>⑤カーリング技術の基礎（リリース・フォームなど）</li> <li>⑥カーリング技術の基礎・メンタルトレーニング（スウィーピング）</li> <li>⑦カーリング技術の基礎（作戦）</li> <li>⑧ゲームの進め方とその実際（先攻・後攻の有利・不利）</li> <li>⑨ゲームの進め方とその実際（氷の状態に合った作戦）</li> <li>⑩ゲームの進め方とその実際（チームに必要なこと・チーム作り）</li> <li>⑪ゲームの進め方とその実際（勝っている時、負けている時の作戦）</li> <li>⑫より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう レベルに合ったショット・作戦</li> <li>⑬より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう カーリングに必要なもの</li> <li>⑭より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう</li> <li>⑮技術と戦略作りのまとめ</li> </ol>
授 業 の 予 習 ・ 復 習 の 内 容 と 時 間	予習	（スキー）スキーに関連する動画を視聴し、滑りのイメージを膨らませる。 （カーリング）カーリングに関連する動画を視聴し、ルールや戦略について理解を深める。			15分 15分
	復習	（共通）授業後の身体のメンテナンスを十分に行なう。			30分
授 業 の 留 意 点	<p>【共通】</p> <p>3日間の集中講義で実施する（施設の状況から冬季休業期間中など土曜日と日曜日の実施となる）</p> <p>※受講希望者が多い場合、抽選とし人数制限をする場合がある。</p> <p>※実施日以外に事前ガイダンスを校内で実施する。</p> <p>※各選択スポーツ別にレポート課題がある。</p> <p>【スキー履修者】</p> <p>○名寄ピヤシリススキー場のリフト券代は個人負担とする。（3日間で2000円）</p> <p>○スキー板、ブーツ、ストックはレンタル可能（3日間で2000円）</p> <p>○ウェア、帽子、手袋、ゴーグルはレンタル可能（別途連絡）</p> <p>【カーリング履修者】</p> <p>○カーリング用具はレンタル可能（3日間で500円）</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>【成績評価の方法・基準】</p> <p>雪上課題／氷上課題（受講態度、技能）70%、課題レポート（事前ガイダンス及び準備を含む）30%</p> <p>基本的なリテラシー：活動内容について理解し、実施する種目に応じて説明することができるか、雪上課題／氷上課題にて評価する。</p> <p>人間性と能力：技術や戦術について他者と相談することや、コミュニケーションを取りながら問題を解決することができるか、雪上課題／氷上課題で評価する。</p> <p>地域の自然：スポーツの特性への理解や関心について、課題レポート（ガイダンス及び準備を含む）にて評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	テキストなし				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>スキー履修者：公益財団法人全日本スキー連盟 『日本スキー教程』 山と溪谷社 ISBN9784635460217</p> <p>日本スキー学会 『スキー研究 100年の軌跡と展望』 道と書院 ISBN9784810521382</p> <p>『Stuben Magazine Vol.1 - Vol.6』 ウパシプロダクション</p>				

科 目 名	コミュニケーション英語 I		担当教員名	Martin Meadows	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	<p>1. Use basic grammatical knowledge to develop the necessary skills for expressing everyday matters in plain English.</p> <p>2. Read more than 30,000 words of graded English materials in the library to strengthen vocabulary and improve overall language competence.</p> <p>3. Deepen understanding of different cultures and communication styles through an online, virtual exchange.</p>				
授業の概要	<p>Using a Moodle-based virtual exchange platform, students will develop writing and speaking skills by posting textual and audio accounts of their daily lives and concerns in shared online forums. At the same time, listening and reading skills will be developed as students read and listen to posts made by their exchange counterparts. Students will not only gain an understanding of and appreciation for the daily concerns of English-language-learning students from a different culture, they will develop a greater appreciation of their own culture.</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Orientation: Adding resources to Moodle</li> <li>2 Adding resources to Moodle</li> <li>3 Introduction to Cross-Cultural Communication</li> <li>4 Virtual Exchange (VE) - Ourselves and Our Places</li> <li>5 Virtual Exchange (VE) - Ourselves and Our Places</li> <li>6 Virtual Exchange (VE) - Homes in Our Culture</li> <li>7 Virtual Exchange (VE) - Homes in Our Culture</li> <li>8 Virtual Exchange (VE) - Modern versus Traditional Culture</li> <li>9 Virtual Exchange (VE) - Modern versus Traditional Culture</li> <li>10 Virtual Exchange (VE) - Heroes in our Culture</li> <li>11 Virtual Exchange (VE) - Heroes in our Culture</li> <li>12 University Life: Living Healthy</li> <li>13 University Life: Part-time Jobs</li> <li>14 University Life: Dating &amp; Relationships</li> <li>15 Final Exam or Assignment</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	Students should spend a recommended minimum of 30 minutes reviewing Moodle posts in preparation for class, and 60 minutes of active completion of Moodle exchange activities after each class.			
	復習				
授業の留意点	<p>Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning and participate actively in pair and group activities. Students are also expected to learn how to use some computer-based applications required for the online exchange.</p>				
学生に対する評価	<p>Class participation - forum posts and replies (40 pts), Term-end oral test (40 pts), Extensive reading (20 pts)</p>				
教科書 (購入必須)	<p>Online materials in the Moodle-based course.</p>				
参考書 (購入任意)	<p>If the public health situation requires online classes, students are expected to participate actively with microphones (and in some cases, cameras) turned on.</p>				

科 目 名	コミュニケーション英語 I		担当教員名	小古間 甚一		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<p>①基礎的な文法の知識を利用して、日常の事柄を平易な英語で表現する技術を身に付ける。</p> <p>②語彙力を強化するために図書館にある英語教材の本を30000語以上読む。</p> <p>③英語によるコミュニケーション能力を伸ばすだけでなく異文化理解を深める。</p>					
授 業 の 概 要	<p>中学生レベルの基礎的な文法知識を使って短文を作る練習を徹底的に行う。毎回英文を書き提出してもらう。最終的に200ワード程度の英文を書く。英語の基礎的な力を高めるためにEラーニングによる英語読解力トレーニングを行う。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業ガイダンス 英語 I の復習</li> <li>2 主語と動詞</li> <li>3 現在形、過去形、完了形</li> <li>4 受動態</li> <li>5 分詞の用法</li> <li>6 不定詞の用法</li> <li>7 動名詞の用法</li> <li>8 比較の用法</li> <li>9 関係詞を使った英文 1</li> <li>10 関係詞を使った英文 2</li> <li>11 仮定法を使った英文 1</li> <li>12 仮定法を使った英文 2</li> <li>13 自由テーマ作成</li> <li>14 英語による質疑応答 (1)</li> <li>15 英語による質疑応答 (2)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	配布されたプリントの内容を復習し、次の授業に出席すること。特に、授業で間違えた問題は授業後にやり直して弱点をチェックすること。				
	復習					
授 業 の 留 意 点	<p>毎回単語と文法の確認テストを行うので、予習・復習をしておくこと。遅刻・欠席をしないこと。遅刻(5分程度)3回につき1回の欠席とする。授業で説明したことをきちんとメモすること。授業で学んだ内容を忘れないようにしっかり復習すること。</p>					
学 生 に 対 す る 評 価	<p>基礎文法確認テスト(50点)、課題提出(20点)、Eラーニング読解トレーニング(30点)。</p>					
教 科 書 (購入必須)	<p>プリントを配布する。</p>					
参 考 書 (購入任意)	<p>辞書(中学生用が望ましい)、参考書、英語 I で配布した資料等を持参すること。</p>					

科 目 名	コミュニケーション英語 I		担当教員名	野月 朱美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。					
授業の概要	英語でコミュニケーションを取る能力を身に付け、実践する。					
授業の計画	1 クラスガイダンス 2 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 3 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 4 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 5 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 6 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 7 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 8 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 9 Show & Tell の準備 10 Show & Tell の準備 11 Show & Tell の準備 12 Show & Tell の準備 13 Show & Tell の準備 14 Show & Tell の発表 15 Show & Tell の発表					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	単語の下調べ、速読。				
	復習	小テストの準備。				
授業の留意点	辞書持参のこと。 毎回復習し、小テストに備えること。					
学生に対する評価	小テスト (60点)、moodle reading (30点)、授業態度 (10点)					
教科書 (購入必須)	なし					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	コミュニケーション英語 I	担当教員名	マシュー・ネチャコフ
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー			
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	The objective of this course is to build students' confidence and improve their abilities when communicating in English. Basic English communication skills will be		
授業の概要	The class will focus on providing students with ample opportunities to speak English on a variety of topics. Students will frequently work in small groups or pairs in order to maximize the chances of speaking English.		
授業の計画	1 Placement Test 2 Orientation 3 Introducing Yourself and Friends 4 Your Hometown 5 Discussing Hobbies and Interests 6 Describing People and Events 7 Asking Questions 8 Asking Questions 9 Assignment 1 10 Giving Directions 11 Giving Reasons and Excuses 12 Opinions 13 Debate 14 Debate 15 Assignment		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is expected and making mistakes while speaking English during class will not be penalized. Any homework will be assigned at the end of the class.		
学生に対する評価	Class participation and Attendance (30) Readers (30) Assignments (40)		
教科書 (購入必須)	Print materials will be handed out in class and a variety of online materials will be used.		
参考書 (購入任意)	Japanese-English Dictionary (Print/Electronic/Smartphone Application) is not required but highly recommended.		

科 目 名	コミュニケーション英語 I		担当教員名	前田 千早	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	This course is designed to focus on the listening and speaking skills of the students in hopes to improve their abilities to communicate in English.				
授業の概要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授業の計画	1 Orientation/test 2 introduction 3 Health Habits 4 Haiku 5 Cross words 6 Cross words 7 Life boat 8 Proper Sentences 9 Describing people 10 How much? 11 Guess who 12 Scrabble 13 Term project 14 Term project 15 Term project				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学生に対する評価	Class participation (60点) Readers (30点) Term Project (10点)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I	担当教員名	野村 太
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー			
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。		
授業の概要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。		
授業の計画	1 クラス分けテスト 2 Name & Age 3 Hometown & Education 4 Personality & Health 5 My dream 6 My family 7 Pets 8 Clothes 9 Cooking & Restaurants 10 Smartphones 11 Sleeping and Shopping 12 Weekends & Daily schedule 13 My favorite seasons 14 English 15 Music		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。		
学生に対する評価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。		
教科書 (購入必須)	プリントを配付します。		
参考書 (購入任意)			



科 目 名	コミュニケーション英語 I		担当教員名	Herman Leung	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	The objective of this course is to build confidence and improve students' abilities conversing in English.				
授業の概要	The class will focus on writing, directing, and acting in their own skits along with a variety of role-playing activities. Students will also need to participate in the International Virtual Exchange Project.				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course Introduction</li> <li>2 Future: Going to/Gonna</li> <li>3 Crazy Quiz role-play</li> <li>4 Booking a hotel</li> <li>5 Reading and acting theater skits</li> <li>6 Writing and acting in a skit</li> <li>7 TV video and worksheet</li> <li>8 Writing and directing in a skit</li> <li>9 Giving advice role-play</li> <li>10 Using American phrases</li> <li>11 Group skit</li> <li>12 Group skit presentation</li> <li>13 Term project explained/preparation</li> <li>14 Term project preparation</li> <li>15 Term project presentation</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is highly expected for this course.				
学生に対する評価	Class participation (50) Readers (30) Final Project (20) International Virtual Exchange (20)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I		担当教員名	森永 治之介	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>学生は、文法間違いを恐れず積極的に、短く単純な構造の英文を用いて英語での会話を行うことができる。また、日常会話で頻繁に使用できる定例文を記憶し、状況に応じて発信できるとともに、短い英文を聞いて理解し、自分も簡単な英語で応答できる。口語英語に独特な表現 (colloquial English) も暗記して使用することができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>学生は、日常的テーマについて英会話ができるようになるために、用意された会話文の発音練習・会話演習を行う。内容を理解しながら会話を行えることを目的として、語句や文章の意味確認・暗記に取り組み、暗唱での発表・単語の筆記試験を行う。聞き取りの理解度を高めるため、音声やビデオ映像を用いてリスニング練習を行う。自分自身の言葉でも発信できるように、オリジナルスキットを小グループで作成し、学期末に発表する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションとウォームアップ</li> <li>2 あいさつ・自己紹介・相手のことを尋ねる</li> <li>3 今日あったことについて話す</li> <li>4 好き嫌いについて話す</li> <li>5 趣味について話す</li> <li>6 映画や本について話す</li> <li>7 レストランで注文する</li> <li>8 道案内をする</li> <li>9 時間の表現</li> <li>10 旅行計画を立てる</li> <li>11 週末の予定について話す</li> <li>12 自分の悩みについて話す</li> <li>13 将来の夢について話す</li> <li>14 スキット作成</li> <li>15 スキット発表</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授 業 の 留 意 点	<p>プリントをなくさないように気を付けること。遠隔授業時にはムードルに掲示するので、適宜ダウンロード・印刷すること。対面授業時は英和辞典を毎回持参すること。</p> <p>学生の興味分野や授業の進捗状況に応じて、取り扱う内容・テーマを変更する場合もある。各週における予習復習・課題などの自己学習には、講義時間と同程度の時間取り組むこと。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>Reader 及び全クラス共通で行うオンライン学習 (40点)  筆記小テスト (10点)・課題 (10点)・口頭試験 (25点)・スキット発表 (15点)</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>プリントを配布する (遠隔授業時にはムードルに掲示する)  英和辞典必須 (収録語数5万語以上が望ましい)</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ		担当教員名	Martin Meadows		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	If the public health situation requires online classes, students are expected to participate actively with microphones (and in some cases, cameras) turned on.					
学習到達目標	<p>1. To further develop the communication skills acquired in English for Communication I. Students will write paragraphs in English that express their thoughts and feelings on a certain topic.</p> <p>2. Read more than 30,000 words of graded English materials in the library to strengthen vocabulary and improve overall language competence.</p> <p>3. Learn the fun and importance of communicating in English in a globalized society by experiencing different cultures through the study of English.</p>					
授業の概要	<p>Through the use of interactive video materials, students will further develop cross-cultural communication skills by reflecting on aspects of Japanese culture and how to communicate their own customs, beliefs and values as Japanese to a foreign audience. Students will develop their ideas through both oral and written discussion with classmates then present their perspectives in a voice-narrated slideshow or video. Depending on availability, students will have the opportunity to interact with English-language learners abroad in an online, virtual exchange where foreign students will share their own cultural values and perspectives on the same topics and issues examined by the Japanese students.</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Orientation and Introduction: Cool Japan - Cool Nayoro</li> <li>2 Universities</li> <li>3 Universities</li> <li>4 Washoku</li> <li>5 Washoku</li> <li>6 Fashion Trends</li> <li>7 Fashion Trends</li> <li>8 Figure: Dieting &amp; Weight Loss</li> <li>9 Figure: Dieting &amp; Weight Loss</li> <li>10 Cold Weather Items</li> <li>11 Cold Weather Items</li> <li>12 Attracting Good Luck</li> <li>13 Attracting Good Luck</li> <li>14 Cool Nayoro</li> <li>15 Cool Nayoro</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	Students will need to spend at least an hour outside of class time preparing their slide show presentations, and they are also recommended				
	復習	to review posts from international exchange students regularly throughout the week.				
授業の留意点	<p>Students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students will be required to install some applications on their mobile devices if they choose to use them rather than the available tablets provided by the teacher.</p>					
学生に対する評価	<p>Extensive Reading (30pts) Class participation in forums and online discussion (20pts), Video/slideshow presentation assignments (50pts)</p>					
教科書 (購入必須)	A variety of online materials, including Cool Japan videos and student-created content.					
参考書 (購入任意)	None					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ		担当教員名	小古間 甚一		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>①コミュニケーション英語Ⅰで身に付けたコミュニケーション力をさらに伸ばす。あるトピックについてパラグラフを作りながら、考えていることや感じたことを英語で表現する。</p> <p>②語彙力を強化するために図書館にある英語教材の本を30000語以上読む。</p> <p>③英語学習を通じて異文化に触れ、国際社会において英語を発信することの大切さを知る。</p>					
授業の概要	<p>練習問題を解きながら基礎的な文法を復習する。毎回テーマに沿って英文を書き、提出する。まとめとして自由テーマを2つ設定し、200語程度の英文を2つ書く。基礎力養成のためにEラーニングによる読解トレーニングを行う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 英語の基礎 復習</li> <li>2 1週間の出来事を書く1</li> <li>3 1週間の出来事を書く2</li> <li>4 1週間の出来事を書く3</li> <li>5 自己アピール1</li> <li>6 自己アピール2</li> <li>7 友人に近況を報告する1</li> <li>8 友人に近況を報告する2</li> <li>9 自由課題1 構想</li> <li>10 自由課題2 英文下書き</li> <li>11 自由課題3 ワープロ原稿作成</li> <li>12 自由課題4 原稿修正</li> <li>13 自由課題5 原稿提出</li> <li>14 自由課題6 発表1</li> <li>15 自由課題 発表2</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	配布されたプリントの内容を復習し、次の授業に出席すること。特に、授業で間違えた問題は授業後にやり直して弱点をチェックすること。				
授業の留意点	復習					
授業の留意点	<p>毎回単語と文法の確認テストを行うので、予習・復習をしておくこと。遅刻・欠席・居眠り厳禁。遅刻（5分程度まで）3回で欠席1回分とする。辞書（中学生用が望ましい）を必ず持参すること。予習・復習をしっかり行い、基本的な英文法の知識を理解するよう努めること。</p>					
学生に対する評価	文法・英作文テスト（50点）、課題提出（20点）、Eラーニング読解トレーニング結果（30点）。					
教科書（購入必須）	プリントを配布する。					
参考書（購入任意）	高校時代に使った参考書、教科書、辞書（中学生用が望ましい）を持参すること。英語Ⅰ・Ⅱで配布したプリントを持参すること。					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ		担当教員名	野月 朱美		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。					
授業の概要	英語でコミュニケーションを取る能力を身に付け、実践する。					
授業の計画	1 ガイダンス 2 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 3 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 4 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 5 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 6 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 7 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 8 コミュニケーションで使える英語を実際の英語から応用する 9 Show & Tell の準備 10 Show & Tell の準備 11 Show & Tell の準備 12 Show & Tell の準備 13 Show & Tell の準備 14 Show & Tell の発表 15 Show & Tell の発表					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	単語の下調べ、速読。				
	復習	小テストの準備。				
授業の留意点	辞書持参のこと。 毎回復習し、小テストに備えること。					
学生に対する評価	小テスト (60点)、moodle reading (30点)、授業態度 (10点)					
教科書 (購入必須)	なし					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ	担当教員名	マシュー・ネチャコフ
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		開 講 形 態	演習
		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー			
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	The objective of this course is to build students' confidence and improve their abilities when communicating in English. By the end of the course students should be able to discuss a variety of topics and speak in English in relation to a variety of genres.		
授業の概要	The class will focus on providing students with ample opportunities to speak English on various topics. Students will frequently work in small groups or pairs in order to maximize the chances of speaking English.		
授業の計画	1 Orientation/Introduction 2 Introducing Friends and Family 3 Introducing Japanese Culture 4 Party Planning 5 Giving Advice 6 Negotiating 7 Debate 8 Debate 9 Interviewing 10 Interviewing 11 Storytelling 12 Storytelling 13 Term Project: Explanation and Preparation 14 Term Project: Preparation 15 Term Project: Presentations		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is expected and making mistakes while speaking English during class will not be penalized. Any homework will be assigned at the end of the class.		
学生に対する評価	Class participation and Attendance (40) Readers (30) Term Project (30)		
教科書 (購入必須)	Print materials will be handed out in class and a variety of online materials will be used.		
参考書 (購入任意)	Japanese-English Dictionary (Print/Electronic/Smartphone Application) is not required but highly recommended.		

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ	担当教員名	前田 千早
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー			
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	<p>The objectives of the second part of this course are the same as the goals for English I.</p> <p>After the completion of both courses, the students are hoped to have gained more confidence in English and to have enjoyed the English language.</p>		
授業の概要	<p>The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.</p>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction</li> <li>2 Giving Direction</li> <li>3 What if ...?</li> <li>4 Recipe</li> <li>5 Family Tree</li> <li>6 Invitations</li> <li>7 Photographs</li> <li>8 Jobs</li> <li>9 Shopping</li> <li>10 School</li> <li>11 How was your trip?</li> <li>12 ABCs</li> <li>13 Term project</li> <li>14 Term project</li> <li>15 Term project</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	<p>Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.</p>		
学生に対する評価	<p>Class participation (60点)</p> <p>Readers (30点)</p> <p>Term Project (10点)</p>		
教科書 (購入必須)	<p>Materials will be handed out in class</p> <p>Dictionary</p>		
参考書 (購入任意)			

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ	担当教員名	野村 太
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		開 講 形 態	演習
		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー			
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。		
授業の概要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Outline of the course</li> <li>2 Traveling</li> <li>3 Computers</li> <li>4 TV</li> <li>5 Hot springs</li> <li>6 Drinking</li> <li>7 Movies</li> <li>8 Reading</li> <li>9 Driving</li> <li>10 Comics</li> <li>11 Baseball &amp; Soccer</li> <li>12 Companies, Jobs, and Commuting</li> <li>13 Co-workers, Working hours &amp; Meetings</li> <li>14 Vacations and Business trips</li> <li>15 Review</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。		
学生に対する評価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。		
教科書 (購入必須)	プリントを配付します。		
参考書 (購入任意)			



科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ	担当教員名	Herman Leung
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー			
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	The objective of this course is to continue to build confidence and improve students' abilities conversing in English.		
授業の概要	The class will continue to focus on writing, directing, and acting in their own skits along with a variety of role-playing activities. Students will also need to participate in the International Virtual Exchange Project.		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course introduction</li> <li>2 Group stories go around</li> <li>3 Crazy Quiz 2 role-play</li> <li>4 Reading and acting theater skits 2</li> <li>5 Writing and acting in a skit 2</li> <li>6 Making a commercial</li> <li>7 TV video and worksheet</li> <li>8 Commercial Presentation</li> <li>9 Using American phrases 2</li> <li>10 Group Skit</li> <li>11 Group Skit rehearsal</li> <li>12 Group Skit presentation</li> <li>13 Term project explained/preparation</li> <li>14 Term project preparation</li> <li>15 Term project presentation</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is highly expected for this course.		
学生に対する評価	Class participation/assignments (40) Moodle readers (20) Term project (20) International Virtual Exchange (20)		
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class.		
参考書 (購入任意)			

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ		担当教員名	森永 治之介		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<p>学生は、より長く複雑な英文を用いて英語での会話を行うことができる。また、社会問題や各専門分野に関する会話において使用できる語句や定例文を記憶し、状況に応じて発信できるとともに、長く複雑な英語を聞いて理解し、自分も専門用語も交えながら応答できるようになる。Colloquial English（口語表現）とより丁寧な表現を、双方の違いに留意しながら身につける。</p>					
授 業 の 概 要	<p>学生は、専門的トピックについて英会話ができるようになるために、用意された会話文の発音練習・会話演習を行う。内容を理解しながら会話を行えることを目的として、語句や文章の意味確認・暗記に取り組み、暗唱での発表・筆記試験を行う。聞き取りの理解度を高めるため、音声やビデオ映像を用いてリスニング練習を行う。栄養・看護・社会福祉・保育に関わるオリジナルスキットを小グループで作成し、学期末に発表する。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションとウォームアップ</li> <li>2 いろいろな社会問題 Vocabulary and Conversation</li> <li>3 環境問題（1）Climate Crisis</li> <li>4 環境問題（2）Food Waste</li> <li>5 環境問題（3）Plastic Pollution</li> <li>6 栄養（1）Food and Nutrition Facts</li> <li>7 栄養（2）Obesity and Nutrition</li> <li>8 看護（1）COVID-19 and other contagious diseases</li> <li>9 看護（2）Obesity and Medical Bills</li> <li>10 社会福祉（1）Social Welfare in Japan</li> <li>11 社会福祉（2）Super-Aging Society and Elderly Care</li> <li>12 保育（1）Raising Children in the 21st Century Japan</li> <li>13 保育（2）Workforce Crisis – Shortage of Childcare Workers</li> <li>14 スキット作成</li> <li>15 スキット発表</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	<p>プリントをなくさないように気を付けること。遠隔授業時にはムードルに掲示するので、適宜ダウンロード・印刷すること。対面授業時は英和辞典を毎回持参すること。</p> <p>学生の興味分野や授業の進捗状況に応じて、取り扱う内容・テーマを変更する場合もある。各週における予習復習・課題などの自己学習には、講義時間と同程度の時間取り組むこと。</p>					
学 生 に 対 す る 価 値	<p>Reader 及び全クラス共通で行うオンライン学習（40点）  筆記小テスト（10点）・課題（10点）・口頭試験（25点）・スキット発表（15点）</p>					
教 科 書 （購入必須）	<p>プリントを配布する（遠隔授業時にはムードルに掲示する）  英和辞典必須（収録語数5万語以上が望ましい）</p>					
参 考 書 （購入任意）						

科 目 名	情報処理 I		担当教員名	石川 貴彦		
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	ICT（情報通信技術）に関する基礎・基本を理解し、ワープロソフトを用いた文書の作成や、表計算ソフトを用いたデータの集計といった、日常生活および専門科目に適用できる程度の情報処理能力を習得することができる。					
授 業 の 概 要	それぞれが情報処理能力を高めるために1人1台パソコンを操作し、ICTの基礎・基本（Windowsの操作、プリンタ等周辺機器の使用方法）、文書の作成（電子メール、Wordを利用した文書作成の方法）、情報の整理（Excelによるデータ処理、グラフ描画）の方法・技術について学習する。毎回の授業は3つのパートで構成し、各パートの導入で教員が説明を行い、説明後は学生が能動的に学習する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、パスワードの管理、大学PC・メール・教務システムの使用方法</li> <li>2 Windowsの基本操作、Wordの入力練習、添付ファイルのメール送信</li> <li>3 文書の作成・印刷と編集機能</li> <li>4 表の作成と編集、画像、テキストボックスの挿入</li> <li>5 ワードアートの挿入、図形描画</li> <li>6 スマートアート、段組み、ドロップキャップ、ページ罫線</li> <li>7 はがき作成、差し込み印刷</li> <li>8 Excelの入力・計算方法</li> <li>9 ワークシートの活用（1）（SUM、AVERAGE関数）、罫線のひき方</li> <li>10 ワークシートの活用（2）（MAX、MIN、COUNT、COUNTA、IF関数）</li> <li>11 グラフの作成（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、3Dグラフ、複合グラフ）</li> <li>12 データベース、データの抽出、ピボットテーブル</li> <li>13 Excelの応用（RANK、VLOOKUP、HLOOKUP、INDEX、COUNTIF関数）</li> <li>14 シート間の計算、ExcelのWordへの埋め込み</li> <li>15 演習のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	必要なシステム設定を行いコンピュータ操作に慣れておく。各回に対応する教科書の章を読み込む。			90分	
	復習	演習で実施した練習や課題を振り返り、コンピュータ操作の習熟を図る。			90分	
授 業 の 留 意 点	毎回の授業は教科書1章ごとに進めていくので、教科書の当該範囲の内容を予習し、授業のペースについてこれるようにすること。また、課題は毎回出すので、未消化のまま溜めていかないように復習を行うこと。					
学 生 に 対 す る 評 価	Word 演習 6 課題（47 点）、Excel 演習 7 課題（53 点）					
教 科 書 （購入必須）	30 時間でマスター Word2019、実教出版、2020 年 30 時間でマスター Excel2019、実教出版、2019 年					
参 考 書 （購入任意）						

科 目 名	情報処理Ⅱ		担当教員名	石川 貴彦		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	情報コミュニケーションおよびネットワークに関する基礎・基本を理解し、プレゼンテーション資料の作成、Web ページの制作による情報配信といった、日常生活および専門科目に適用できる程度の情報発信能力を習得することができる。					
授 業 の 概 要	学生それぞれが情報発信能力を高めるために1人1台パソコンを操作し、情報の表現・伝達(PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成)、情報の発信(HTML、CSSによるWeb ページの作成・配信)について学習する。また、著作権や情報モラル等の基本的事項についてもWeb ページ作成のなかで合わせて学習する。毎回の授業は3つのパートで構成し、各パートの導入で教員が説明を行い、説明後は学生が能動的に学習する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、PowerPoint と Web デザインの基本操作</li> <li>2 プレゼンテーション資料の作成</li> <li>3 プレゼンテーション資料のブラッシュアップ、図形の挿入</li> <li>4 グラフの挿入、アニメーションの設定、リハーサルにおける操作</li> <li>5 プレゼンテーションストーリーシートの作成</li> <li>6 ストーリーシートに基づくスライド資料の作成</li> <li>7 HTML の基本要素、画像の表示</li> <li>8 ハイパーリンク、スタイルシート (CSS)</li> <li>9 ボックスモデル</li> <li>10 Web サイト、ページデザイン</li> <li>11 JavaScript、フレームレイアウト</li> <li>12 著作権、肖像権、パブリシティー権の遵守と Web 配信</li> <li>13 情報モラル、ネット情報の信頼性</li> <li>14 ホームページの作成</li> <li>15 PowerPoint、Web デザイン演習のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	必要なシステム設定を行いコンピュータ操作に慣れておく。各回に対応する教科書の章を読み込む。			90分	
	復習	演習で実施した練習や課題を振り返り、コンピュータ操作の習熟を図る。			90分	
授 業 の 留 意 点	毎回の授業は教科書1章ごとに進めていくので、教科書の当該範囲の内容を予習し、授業のペースについてこれるようにすること。また、課題は毎回出すので、未消化のまま溜めていかないように復習を行うこと。					
学 生 に 対 す る 評 価	PowerPoint 演習4課題(40点)、Web デザイン演習6課題(60点)					
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019、実教出版、2020年 30時間でマスター Web デザイン改訂版、実教出版、2019年					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )						

科 目 名	法学（国際法を含む）	担当教員名	栞山 茂樹
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	選択
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	教職(高公)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p>		
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	<p>法学全般の土台となる知識を身につける。</p> <p>法学の基幹科目である憲法・民法・刑法、ならびに国際法の概要をつかむ。</p> <p>それらを元に、各自が法学の本格的な学習に進めるようになる。</p>		
授業の概要	<p>最初の5回で法学全般の基礎事項を学ぶ。法とは何か、条文の読み方といったごく初歩的なところから始める。</p> <p>その後、主要法分野である憲法・民法・刑法、そして国際法の概要を扱う。これらは法学の入門としてはもちろんのこと、現代社会を知るための一般教養としても学ぶ価値はある。</p>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 法とは何か</li> <li>3 法の解釈</li> <li>4 法の存在形式と分類</li> <li>5 英米法と大陸法</li> <li>6 憲法①：憲法総論</li> <li>7 憲法②：人権総論</li> <li>8 憲法③：統治機構論</li> <li>9 憲法④：平和主義</li> <li>10 民法①：民法総則</li> <li>11 民法②：物権</li> <li>12 民法③：債権</li> <li>13 民法④：不法行為</li> <li>14 刑法：刑法総論</li> <li>15 国際法：国際社会と法の支配、国際法の法源、国際紛争の平和的解決</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定参考書を読む。	90分以上
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文を読むのに慣れる。政府機関、裁判所などのWebサイトに目を通す。	90分以上
授業の留意点	<p>本講義は、私の他の担当科目「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」「教育法概論」を学ぶうえで有益である。併せて受講してもらうことを強く望む。</p> <p>授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p> <p>予習・復習としては、後述の参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。条文を読むことにも慣れてもらいたい。</p>		
学生に対する評価	期末試験(100%)		
教科書(購入必須)	なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。		
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤正己+加藤一郎編『現代法学入門 第4版』(有斐閣、2005)</li> <li>・末川博編『法学入門 第6版補訂版』(有斐閣、2014)</li> <li>・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』『ピンポイント民法』『ピンポイント刑法』(三省堂、2018)</li> <li>・品川皓亮=土井真一監修『日本一やさしい条文・判例の教科書』(日本実業出版社、2015)</li> <li>・品川皓亮=佐久間毅監修『日本一やさしい法律の教科書』(日本実業出版社、2011)</li> </ul> <p>そのほか、参考文献を適宜紹介する。</p>		

科 目 名	国際関係論（国際政治を含む）		担当教員名	未定		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高公)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	本講義では、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかという点に焦点を絞り、国民国家の現状とナショナリズムの作用及び第二次世界大戦後のヨーロッパ政治について学ぶ。この学習を通じて、各受講生が国際関係について理解を深めるとともに、現代世界がどのように構築されてきたのか、残された課題は何なのかについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。					
授 業 の 概 要	20 世紀、人類は二度の悲惨な世界大戦を体験し、その後の米ソ冷戦体制下では「核戦争の恐怖」の中での生活を余儀なくされた。そして 21 世紀に入っても、地球上には依然として戦火が絶えず、急進的なナショナリズムもいまだに大きな影響力を持っている。こうした認識の下、本講義では国際関係について主にヨーロッパを中心に検討する。まず、国民国家とナショナリズムについて考察し、その後、二つの世界大戦とその後の国際体制について検討する。さらに、冷戦体制と戦後ヨーロッパにおける平和の構築という観点から、分断国家であったドイツを中心としつつヨーロッパの動向を検討する。その上で、現代国家のあり方として重要な概念である福祉国家の現状についても取り上げる。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 「政治」、「国際関係」とは何か</li> <li>3 「国家」、「ナショナリズム」とは何か</li> <li>4 第一次世界大戦後の世界①ヴェルサイユ体制</li> <li>5 第一次世界大戦後の世界②ファシズム国家の展開</li> <li>6 第二次世界大戦後の世界①冷戦とは何か</li> <li>7 第二次世界大戦後の世界②冷戦体制の現実</li> <li>8 冷戦体制下の東西関係①西ドイツを例として</li> <li>9 冷戦体制下の東西関係②ベルリン問題と東ドイツ</li> <li>10 冷戦体制下の永世中立国－オーストリアを例として</li> <li>11 冷戦体制の終結</li> <li>12 ヨーロッパの統合</li> <li>13 EU－国家連合から連邦国家へ？</li> <li>14 福祉国家の理論と現実</li> <li>15 おわりに－国際関係をどう見るか</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	履修にあたっては、高校世界史、政治・経済の内容を再確認しておくことが望ましい。また、予習としては、日常的に世界政治の動向に関心を払い、新聞等を積極的に読んでおくことが必要である。復習としては、講義内容をふまえてノートやプリントを整理することが求められる。出席状況に十分留意すること。					
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験及び小テストの結果に基づいて評価する。配点は、定期試験を 80 点、小テストを 20 点とする。					
教 科 書 (購入必須)	使用しない。講義時に資料を配布する。					
参 考 書 (購入任意)	山本左門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010年） 平島健司、飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』（放送大学教育振興会、2010年） その他は講義時に指示する。					

科 目 名	人権と法		担当教員名	栞山 茂樹		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高公):必修
対応するディプロマ・ポリシー	5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	現代日本で話題の人権問題と、その法的争点について理解し、論じられるようになる。 憲法人権分野について、法学の専門的水準の知見を身につける。					
授業の概要	人権に関する重要判例・トピックをとりあげ、その法的争点を解説していく。現代日本の人権問題について、ジャーナリスティックな時事評論ではなく法学の専門の見地から議論していく。 現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識や公共心をどれだけ備えているかが試されているのである。					
授業の計画	1 講義ガイダンス 2 人権と法制度：人権思想、人権と実定法 3 人権と憲法 4 憲法上の権利 5 外国人の人権①：入管法のしくみ 6 外国人の人権②：最高裁判例の動向 7 外国人の人権③：ヘイトスピーチの現況 8 三菱樹脂事件ほか：私人間効力論 9 公安テロ情報流出事件：プライバシー権ほか 10 生命・身体・リプロダクション：自己決定権 11 婚外子差別：法の下での平等 12 夫婦同氏訴訟：婚姻の自由 13 同性婚訴訟ほか：LGBTQ+の人権 14 立川反戦ビラ訴訟ほか：政治的表現の自由 15 二風谷ダム事件：少数民族の権利					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定参考書を読む。			90分以上	
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関、裁判所などの Web サイトに目を通す。			90分以上	
授業の留意点	本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、一部内容が重複することをお断りしておく)。併せて受講してもらうことを強く望む。「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。					
学生に対する評価	期末試験(100%)					
教科書(購入必須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。					
参考書(購入任意)	独習用のテキストとして、以下を紹介する。 ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018) ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第4版』(三省堂、2021) ・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第6版』(有斐閣、2019)：旧版も参照。 そのほか、参考文献を適宜紹介する。					

科 目 名	社会学概論		担当教員名	小野寺 理佳		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職(高公)・社福士・精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸課題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>1. 現代社会の特性を理解し説明することができる。</p> <p>2. 生活の多様性について理解し説明することができる。</p> <p>3. 人と社会の関係について理解し説明することができる。</p> <p>4. 社会問題とその背景について理解し説明することができる。</p> <p>5. 社会問題の解決に向けて自ら考えていくことができる。</p>					
授業の概要	<p>この科目では、現代社会の成り立ちと特徴、そこにおいて人々が展開する多様なライフスタイルをとらえながら、人々が社会を変え、社会が人々を規定するありようを学び、現代社会が生み出した様々な社会問題とそれらがもつ意味について考える。社会学的な発想や方法を知り、社会問題を生み出す社会構造について学ぶことによって、社会問題の解決を志す将来の実践者としての見識を養うことを目指す。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会学の視点～社会学の歴史と対象</li> <li>2 社会構造と変動 (1) 社会システム</li> <li>3 社会構造と変動 (2) 組織と集団</li> <li>4 社会構造と変動 (3) 人口とグローバリゼーション</li> <li>5 社会構造と変動 (4) 社会変動</li> <li>6 社会構造と変動 (5) 地域</li> <li>7 社会構造と変動 (6) 環境</li> <li>8 市民社会と公共性 (1) 社会的格差と社会政策・社会問題</li> <li>9 市民社会と公共性 (2) 差別と偏見</li> <li>10 市民社会と公共性 (3) 災害と復興</li> <li>11 生活と人生 (1) 家族とジェンダー</li> <li>12 生活と人生 (2) 健康と労働</li> <li>13 生活と人生 (3) 世代</li> <li>14 自己と他者 (1) 自己と他者</li> <li>15 自己と他者 (2) 社会化と相互行為</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	テキストの該当箇所・関連箇所を読む。				
	復習	テキストの該当箇所・関連箇所を確認しながら、配布資料をもとに授業内容を振り返る。配布資料内で示した URL から関連情報(統計データや新聞記事など)を取得し、授業内容の理解を深める。				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。</li> <li>・リアクションペーパーの提出を求めることがある。</li> <li>・公的統計・新聞記事・調査研究報告など、現代社会の多様な局面に関して、インターネット上で得られる情報はたくさんある。それらの情報を活用して問題意識を育ててほしい。</li> </ul>					
学生に対する評価	レポートにより評価する(100点)。					
教科書(購入必須)	中央法規出版『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 3 社会学と社会システム』2021年					
参考書(購入任意)						



科 目 名	家族社会学		担当教員名	小野寺 理佳		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	1. 現代家族の成立の歴史について基本的知識を取得し説明することができる。 2. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 3. 将来の実践者として、家族の多様化をふまえて人々の生活を考えることができる。					
授 業 の 概 要	家族社会学は社会学の一分野であり、様々な家族問題を深く理解し、実践に活かすために参照される学問である。授業では、社会そして家族集団において人々が多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なることをまず理解する。そして、身近で具体的な事柄を取り上げながら、愛情、自由、選択、責任、血縁、法律、制度、人権、福祉、倫理など様々な視角から家族事象を考察し、家族の多様化とそれにまつわる諸問題を社会構造に関わらせながら理解、説明していく力を養うことを目指す。					
授 業 の 計 画	1 家族ってなに？家族って誰？（1）あなたの家族は誰ですか 2 家族ってなに？家族って誰？（2）誰が家族を決めるのか 3 近代家族の誕生（1）近代家族の特徴 4 近代家族の誕生（2）近代家族を支える思想 5 近代家族の揺らぎ（1）家族の変容 6 近代家族の揺らぎ（2）家族を選択する時代 7 家族の現在（1）家族に何を求めるか 8 家族の現在（2）自由と選択 9 恋愛結婚と近代家族（1）恋愛の定義 10 恋愛結婚と近代家族（2）近代家族における恋愛の意味 11 生殖補助医療における親子関係（1）生殖補助医療とは何か 12 生殖補助医療における親子関係（2）父は誰か、母は誰か 13 生殖技術と市場（1）自由を制限するもの 14 生殖技術と市場（2）自由と自己責任 15 コ・ハウジング					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	テキストの該当箇所・関連箇所を読む。				
	復習	テキストの該当箇所・関連箇所を確認しながら、配布資料をもとに授業内容を振り返る。配布資料内で示した URL から関連情報（統計データや新聞記事など）を取得し、授業内容の理解を深める。				
授 業 の 留 意 点	・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。 ・公的統計・新聞記事・調査研究報告など、家族に関して、インターネット上で得られる情報はたくさんある。それらの情報を活用して問題意識を育ててほしい。					
学 生 対 する 評 価	レポートにより評価する（100点）。					
教 科 書 （購入必須）	神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2016年					
参 考 書 （購入任意）						

科目名	経済学概論		担当教員名	今野 聖士		
学年配当	1年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択		資格要件	教職(高公):必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	①経済学という学問の世界観・ものごとの捉え方を理解できる。 ②資本主義経済の段階的発展および各段階における特徴を理解できる。 ③社会人として最低限身につけておくべき経済学の知識(きんゆ1を含む)を習得する。 以上の3つの能力を育成する。					
授業の概要	経済学は、「資本主義」という仕組みによって成立している人間社会の仕組みを理解しようとする学問である。モノの〈生産・流通・分配〉のしくみや、貨幣(お金)・金融システム、市場原理主義と格差社会等のテーマについて解説する。また、日本経済を事例として、資本主義経済の歴史を取り上げる。経済学の初心者でも理解できるよう、できるだけ例をあげて説明する。スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。講義方法は反転学習を意識して、学生からの質問とリアクションペーパーの共有(教員からのコメント)と新しい内容の学習(講義本編)をおよそ1:2の割合で実施する。具体的には講義冒頭に前回の質問事項への回答とリアクションペーパーの共有(教員からのコメント)を行う。続いて講義本編をスライドを用いて実施する。					
授業の計画	1 ガイダンスー経済学とは何かー 2 分業の利益 3 需要と供給・価格メカニズム 4 市場の効率性 5 市場の限界①(情報の非対称性・モラルハザード・逆選択) 6 市場の限界②(所得分配の不公平・貧困問題) 7 労働市場の機能と限界 8 GDP 9 貨幣と中央銀行 10 政府の役割 11 外国為替市場の仕組み 12 株式市場の仕組み 13 金融リテラシー① 14 金融リテラシー② 15 金融リテラシー③					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックすること。開講前に、公開された前回の受講者のリアクションペーパーの内容を読み、自身の回答と考え方・捉え方が異なる点・同じ点がないか確認し、理解を深めておくこと。不明な点は質問フォーラムに投稿すること。			90分	
	復習	配布プリントを元に講義内容を振り返り、理解を深めておくこと。不明な点は、講義終了後に公開する動画を見返し、確認すること。不明な点は質問フォーラムに投稿すること。			90分	
授業の留意点	講義の最後10分程度を使い、当日の講義に関して自身が考えたことを記述するリアクションペーパーの提出を求める(必須・評価対象)。次の講義の冒頭でいくつかの回答を紹介し、コメントする。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくことより理解が深まる。 対面開講を基本とするが、一部オンデマンドによる開講や外部講師による講話を実施する事がある。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパーで30点、期末課題70点(レポート35点とミニテスト35点)の合計100点で評価する。					
教科書(購入必須)	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なもので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。					
参考書(購入任意)	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。					

科 目 名	現代経済学		担当教員名	今野 聖士		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	①現代日本の経済システムと経済問題を理解して説明できる。 ②社会で生じているさまざまな問題を、経済学の視点から論じることができる。 ③グローバル化しつつある世界経済のしくみを理解して説明できる。 以上の3つの能力を育成する。					
授業の概要	現代経済論では、グローバル化する世界経済の下で、戦後70余年を迎えた日本経済が、「今どうなっているのか」また、「どのようにここまで歩んできたのか」、そして「どのような理論でそれを説明することが出来るのか」と言った視点を持ちながら、現代日本の経済と関連する国際経済について解説していく。 経済学の初心者でも理解できるよう、できるだけ例をあげて説明する。 スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。 講義方法は反転学習を意識して、学生からの質問とリアクションペーパーの共有(教員からのコメント)と新しい内容の学習(講義本編)をおよそ1:2の割合で実施する。具体的には講義冒頭に前回の質問事項への回答とリアクションペーパーの共有(教員からのコメント)を行う。続いて講義本編をスライドを用いて実施する。					
授業の計画	1 ガイダンス日本経済のいま—戦後70年の日本経済— 2 日本経済のいま—戦後70年の日本経済— 3 日本経済の今② 4 経済の成長と循環 5 望ましい物価とは 6 財政は再建できるのか①(高齢化と財政負担・財政改革・年金改革) 7 財政は再建できるのか②(財政の仕組み・財政の理論) 8 日本の貿易はどう変わったのか 9 変わる産業構造と雇用 10 変わる産業構造と雇用② 11 地球環境とエネルギー問題① 12 地球環境とエネルギー問題② 13 地球環境とエネルギー問題③ 14 日本の選択—未来世代に豊かな成熟社会を① 15 日本の選択—未来世代に豊かな成熟社会を②					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックすること。開講前に、公開された前回の受講者のリアクションペーパーの内容を読み、自身の回答と考え方・捉え方が異なる点・同じ点がないか確認し、理解を深めておくこと。不明な点は質問フォーラムに投稿すること。			90分	
	復習	配布プリントを元に講義内容を振り返り、理解を深めておくこと。不明な点は、講義終了後に公開する動画を見返し、確認すること。不明な点は質問フォーラムに投稿すること。			90分	
授業の留意点	講義の最後10分程度を使い、当日の講義に関して自身が考えたことを記述するリアクションペーパーの提出を求める(必須・評価対象)。次の講義の冒頭でいくつかの回答を紹介し、コメントする。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。 特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通してとより理解が深まる。 対面開講を基本とするが、一部オンデマンドによる開講や外部講師による講話を実施する事がある。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパーで30点、期末課題70点(レポート35点とミニテスト35点)の合計100点で評価する。					
教科書(購入必須)	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。					
参考書(購入任意)	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。					

科 目 名	哲学		担当教員名	古牧 徳生		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高公)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>まずは周囲を観察してみよう。移ろいゆく自然の中に何か分からないが変わらないものがあることを君も直感するだろう。それは何だろうか。考えてみよう。古代ギリシアから始まる人々の思索を辿ってゆこう。自然の探求がいつしか自然を超えたものの探求になっていくことに君は気づく。しかし自然を超えたものは探求不可能なことに人々が気づいていく過程に君はうなずくだろう。そこで昔の人がいかにして不変なものを突き止めようとしたか、君は知りたくなる。そうして授業を聞いていくうちに君は、哲学とはすべての学問の根幹であり、すべての学問は哲学の一部だったことを知るだろう。かくして哲学の歩んだ道を知った君は、ひいては学問のあるべき姿を知るようになるだろう。つまりどんな学問も、豊富なデータを土台に論理的思考を重ねていかねばならないのだ。それを知るまでに先人たちが歩んだ苦労の末に君がいることに気づくとき、君は自分の学びが2500年に及ぶ西洋哲学の歴史に続いていることを自覚するだろう。</p>					
授業の概要	<p>いかなる学問も確実な認識ができなければ成立しない。ではその確実な認識はいかにすれば可能なのか。いや、その前に確実な認識は可能なのだろうか。古代ギリシア以来、人類を悩まし続けてきた難問とそれへの先人たちの苦闘を見ていくことで、君自身も含めて人間の能力には絶望的困難があることを理解しよう。この困難を乗り越えるためにはひたすら事実立脚し、論理的に思考していく以外にないことを理解できれば、君がこの授業を受けた意味はそれで果たせたことになる。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本真に在るものの探求</li> <li>2 ソクラテスの問いかけ</li> <li>3 プラトンのイデア論</li> <li>4 アリストテレスの超自然</li> <li>5 懐疑主義と神秘主義</li> <li>6 アウグスチヌスの方法的信仰</li> <li>7 初期中世哲学</li> <li>8 大学の発生とアリストテレスの流入</li> <li>9 神学者たちの対立</li> <li>10 後期中世哲学と懐疑の復活</li> <li>11 デカルトの方法的懐疑</li> <li>12 理性主義の世界観</li> <li>13 イギリスの経験主義</li> <li>14 カントの批判哲学</li> <li>15 ドイツ観念論</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	前の週に配布する資料を読んでおくこと。				
	復習					
授業の留意点	<p>事前にパワーポイントの資料を配布するから、目を通しておくこと。なお新型コロナウイルス感染症の感染状況によってはオンデマンドになる可能性もある。授業についての質問はメールで行うこと。</p>					
学生に対する評価	<p>期末試験（100点満点）で評価する。試験成績が4,50点代の場合は出席も参考にする。仮にオンデマンド授業になった場合は出席と簡単なアンケートのみ。</p>					
教科書（購入必須）	<p>パワーポイントの資料を前の週に配布する。</p>					
参考書（購入任意）	<p>『君ならわかる哲学』 春秋社 2022年6月</p>					

科 目 名	倫理学		担当教員名	古牧 徳生		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(高公)：必修		資 格 要 件	教職(高公)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 現代の世界や社会の仕組みとそこにある諸問題を幅広く学ぶことによって、それらを多面的に理解し、複眼的な視点に立って思考することができる人間を育む。 4. 幅広く学ぶことの重要性を認識し、その楽しさを知ることによって知的関心を広げ、自己学習をする素養を育む。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	主要な倫理説の趣旨を自分の言葉で説明できること。そして全体的に見たとき、倫理は超人間的なものから個人的、即物的なものになっていく傾向にあることを理解すること。やがて君は日常生活が倫理説のぶつかり合いに満ちていることを実感するだろう。					
授 業 の 概 要	人間は「善い」とか「立派」といった価値を意識して生きている。そうした生き方をするのはなぜなのか、いかにすれば善い生き方ができるのか、などを論じる学問が倫理学である。各人の倫理観は違うが、それぞれ自分なりに善さを求めていることは変わらないから、ここで一度くらいは、価値に基づいて生きること、つまり道徳を考えてみよう。本授業では西洋の哲学者たちの代表的な倫理思想を見ていくことで、人間のあるべき姿があるのか、これからの社会はどうあるべきか、など考えていこう。 内容は大きく分けて四つに分けられる。時代順にまず(1)古代の徳の倫理説ならびにキリスト教倫理を見たあと、(2)功利主義へと至る近世イギリスの一連の道徳感覚説を一つずつ見ていこう。次にそれと対比する形で(3)カントの倫理説と価値倫理を見てみよう。それから(4)進化倫理の主張を見ていこう。					
授 業 の 計 画	1 ピュシスとノモス 2 アリストテレスと徳の倫理 3 快樂主義と禁欲主義 4 キリスト教倫理 5 ホッブズの性悪説の社会契約論 6 ロックの性善説の社会契約論 7 シャフツベリとマンデビル 8 ハチソンとアダム・スミス 9 ヒューム 10 功利主義 11 カントの倫理説 1 12 カントの倫理説 2 13 価値倫理 14 進化倫理 1 15 進化倫理 2					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	配布された資料をとにかく読み直すこと。				
	復習					
授 業 の 留 意 点	とかく道徳とか倫理と聞くと非常に堅苦しい響きがあるため、一般の受けは哲学以上に芳しくない。だが現実の生活に直結しているのだから、本当は哲学の中でも一番わかりやすい分野である。また科学がこれからも発展していくなかで、哲学の中で生き残れる分野は実践哲学(倫理学とか政治哲学)であろうから、自分自身の問題として考えながら聞いてほしい。また聞いた後で自分の現実を考えてほしい。ついでに言えば本授業は日本で一番生々しいであろうから聞いて損はない。資料を配布したうえで、説明のために板書が多少あるが、写す必要はない。なお新型コロナウイルス感染症の感染状況によってはオンデマンドになる可能性もある。配布した資料は授業の後に再読するように。それでも不明な点があればメールで質問するように。					
学 生 に 対 す る 価 値	受講者が数人程度なら 30 分程度の口頭試問をする。そうでなければ期末試験(100点満点)。試験成績が 4, 50 点代の場合は出席も参考にする。 オンデマンドの授業の場合は出席と簡単なアンケートのみ。					
教 科 書 (購入必須)	オンデマンド用の資料を毎回配布する。					
参 考 書 (購入任意)	一応、参考書として図書館にある訳書をあげておく。『現実をみつめる道徳哲学』『ダーウィンと道徳的個人主義』『倫理学に答えはあるか』『卓越の倫理』『哲学のアポリア』 何よりも佐倉統『進化論の挑戦』角川選書をお勧めする。					

科目名	心理学		担当教員名	糸田 尚史	
学年配当	2年	単位数	2単位		開講形態 講義
開講時期	前期	必修選択	栄養：選択 社会福祉：必修		資格要件 教職(高公)・社福士・精保士：必修
対応するティポロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターなどにおいて心理職として心理臨床の実務経験を有する教員が、人間の心と行動に関する科学的理解と心理学的支援の方法について指導する科目				
学習到達目標	①人間の心の基本的なしくみとはたらき、環境との相互作用によって生じる心理と行動について理解し、臨床や実践に応用できる。②人間の発達段階に応じた心理的課題について理解し、臨床や実践が行える。③日常生活と心の健康との関係性について理解し、臨床や実践に活かすことができる。④心理学的なものの方や考え方に基いたアセスメントなどの諸方法について理解し、対象者を支援することができる。				
授業の概要	人間(動物)の心と行動を客観的・科学的に研究する学問としての「心理学」について、日常生活にひそむ心理学的な現象を実際に体験していただきながら進める。脳にハッキングをかけたり、心理系の映画や映像などを視聴したりして、体系的かつ実践的に学習する。また、多数の写真・イラスト・マンガなどのビジュアル・プラクティスも活用し、人間の認知、子どもから大人までの生涯発達、心理的支援などについて考えていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学の歴史・対象・方法：心理学史、哲学的心理学、要素主義・構成主義、機能主義、精神分析、行動主義、認知バイアス、ゲシュタルト心理学、認知心理学、生態学的心理学、進化心理学、自制心の熟達化、行動(諸)科学、履修上の注意事項、成績評価の方法</li> <li>2 感覚・知覚・認知①：脳、神経システム、感覚遮断(SD)、順応、関(いき)、サブリミナル効果、プライミング効果、ニュー・ロック心理学、文脈効果、知覚的セット(構え)、選択的注意、非注意による見落とし、目、盲点の実験、視覚</li> <li>3 感覚・知覚・認知②：色彩視、色覚多様性、図と地、ルビンの盃、多義図形(曖昧図形)、ゲシュタルト知覚、両眼視差、立体視、奥行知覚、エイムズの部屋</li> <li>4 感覚・知覚・認知③：錯視、錯覚、ミュラー・リヤー錯視、サッチャー(トンプソン)錯視、シェパード錯視、カフェウォール錯視、恒常性、共感覚(異感性間協応)、擬態</li> <li>5 感覚・知覚・認知④：耳、聴覚、音源定位、腹話術効果、錯聴、マカーク効果、感覚の相補性、鼻、嗅覚、舌、味覚、umami(うまみ)、味覚嫌悪学習(条件づけられた味覚忌避)</li> <li>6 感覚・知覚・認知⑤：触覚、ホムンクルス(身体地図)、アリストテレスの錯覚、バクシオン(視覚誘導性自己運動感覚)、アフオーダンス、応用心理学、認識(認知)と文化、ツァイガルニク効果</li> <li>7 記憶と忘却：記憶の種類、感覚記憶、残像、残効、直観像、多重(二重)記憶モデル、系列内位置効果、H・M氏、ワーキングメモリー(短期記憶)、リハーサル、チャンク、記憶方略、長期記憶、プライミング記憶、フラッシュバルブ記憶、スキーマ理論、記憶術、忘却、虚偽記憶</li> <li>8 思考・言語・知能：思考、概念、推論、問題解決、ウェイソン選択課題、演繹、帰納、ヒューリスティックス、認知バイアス、言語発達、言語相対性仮説、言語獲得、失語症、言語検査、知能理論、知能検査(ビネー法・ウェクスラー法)、IQ(知能指数)、知的能力障害(知的発達症)</li> <li>9 学習：学習理論、アクティブ・ラーニング、刺激・反応(反射)、古典的(レスポナドント)条件づけ、強化、消去、自発的回復、般化、弁別(分化)、実験神経症、味覚嫌悪学習、生物学的制約、オペラント(道具的)条件づけ、問題箱、試行錯誤学習、動因低減説、潜在学習、洞察学習、アハ!体験、認知バイアス、間歇強化、行動形成、社会的認知(社会的学習)理論、模倣、正統的周辺参加、認知的徒弟制、発達の最近接領域</li> <li>10 感情と動機づけ：感情生起のメカニズム、原因帰属理論、顔面フィードバック説、コンフリクト(葛藤)、フラストレーション(欲求不満)、動機づけ(モチベーション)、内発的動機づけ、欲求階層説、原因帰属理論、自己効力感、学習性無力感、アンダーマイニング効果</li> <li>11 性格とパーソナリティ：気質、類型(タイプ)論、似非科学的(目迷信的)類型、特性論、バーナム効果、ビッグ・ファイブ、力動論、防衛メカニズム、状況論、相互作用論、心理検査法、人格検査、質問紙法、投影法、ロールシャッハ検査、TAT(主観統覚検査)、P-Fスタディ(絵画欲求不満検査)、Y-G性格検査、Baumtest(樹木画検査)、作業検査法</li> <li>12 社会と集団：社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、援助行動・愛他的行動、社会的比較過程理論、自己開示、対人魅力、帰属理論、リーダーシップ、集団浅慮、態度、バランス理論、同調、服従、偏見・差別、流言、パニックの心理、説得、心理的リアクタンス、認知的不協和</li> <li>13 発達と障害：生涯発達、発達段階、発達課題、遺伝・環境、輻輳説、相互作用説、行動遺伝学、エソロジー(動物行動学)、アタッチメント(愛着)、発生の認識論(認知発達理論)、道徳性の発達、アイデンティティ(自我同一性)、中年期の危機、結晶性知能・流動性知能、高齢者心理、認知症、神経発達症(発達障害)、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症</li> <li>14 心理臨床と心理的支援①：不適応(適応障害)、ストレス理論、汎適応症候群、タイプA、トラウマ、心的外傷後ストレス症(PTSD)、サバイバーズ・ギルト、依存症、レジリエンス、首尾一貫感覚、心理アセスメント、ケース・フォーミュレーション(事例定式化)、ソーシャル・ワーク、社会構成主義</li> <li>15 心理臨床と心理的支援②：カウンセリング(支持的精神療法)、サイコセラピー(心理療法/精神療法)、系統的脱感作(脱鋭敏化)法、精神分析療法、交流分析(エゴグラム)、応用行動分析、認知行動療法、ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)、家族療法、解決志向アプローチ(SFA)、心理劇、遊戯療法、公認心理師、まとめ</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画にある心理学的トピックスは事前に山村豊・高橋一公共著『心理学[カレッジ版]』(医学書院)、子安増生・丹野義彦・箱田裕司監修『有斐閣 現代心理学辞典』(有斐閣)、インターネットなどで予習した上で授業に臨む。			90分
	復習	授業後は配布されたPowerPoint資料とそれへのメモ書きをもとに復習していただく。			90分
授業の留意点	スライドを用いた心理学実験も時々行うので、楽しみながらもアクティブに(主体的・対話的に深く)学修していただきたい。配布資料は順番に綴り、遺漏なく管理し、期末レポートの作成にも活用すること。				
学生に対する評価	(1) 期末レポート：70点 (2) 授業毎のリアクション・ペーパー：30点				
教科書(購入必須)	山村豊・高橋一公 共著 『心理学[カレッジ版]』 医学書院 2017年				
参考書(購入任意)	子安増生・丹野義彦・箱田裕司 監修 『有斐閣 現代心理学辞典』 有斐閣 2021年 社会福祉学習双書編集委員会 著 『心理学と心理的支援』 全国社会福祉協議会 2022年 行場次朗・大淵憲一 共著 『心理学概論』 サイエンス社 2021年 心理学専門校ファイブアカデミー 著 『心理学 キーワード&キーパーソン事典』 ナツメ社 2020年 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 『心理学：第5版補訂版』 東京大学出版会 2020年 坂口典弘・相馬花恵 編 『ステップアップ心理学シリーズ「心理学入門」：こころを科学する10のアプローチ』 講談社 2018年 長田久雄 編 『看護学生のための心理学：第2版』 医学書院 2016年 N・C・ベンソン著(清水・大前 訳) 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社(ブルーバックス) 2001年				

科 目 名	生命倫理		担当教員名	古牧 徳生		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高公)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>20 世紀半ば、医療技術の進歩により植物状態や臓器移植、さらには経口避妊薬が現れたことは医療の現場のみならず社会全体にも大きな影響を与えた。従来の医療倫理が現実によって乗り越えられてゆく有様をみて、医療関係者たちは個々の事例に即応した状況主義的解決を模索するようになった。それが生命倫理という 20 世紀の決議論 Casuistry である。本授業での君の到達目標は次の二つである。</p> <p>(1)生命倫理において議論されている主要な問題点を理解する。  (2)それらの問題の背後にはいかなる思想があるのか洞察する。</p> <p>学生諸君は、現代の医療技術が現実に向けかけている問題を、その根底にある世界観や人間観の次元から考えられるようになってほしい。</p>					
授業の概要	<p>生命倫理が登場した 60 年代の時代背景から、まずはパーソン論を知ろう。そこから第 I 部として安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、脳死体利用を、第 II 部として中絶、人工授精、体外受精、遺伝子治療、遺伝管理社会を、第 III 部として万能細胞やクローン人間、遺伝子改良など遺伝子医療の近未来を見ていこう。全体を通せば「権利主体をどう確定するか」(パーソン論)が第 I 部と第 II 部の問題であり、それはつまりところ人間観の問題であって究極的には世界観にまで行きつく。つまり社会の宗教離れにより、それまでの規範が力を失ったため、行為の是非は個人の欲望で判断するしかないのである。つまり快樂主義だ。では個人の欲望がすべてとなると将来はどうなるか。それが第 III 部の問題である。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生命倫理の登場</li> <li>2 新しい医療</li> <li>3 安楽死</li> <li>4 安楽死から尊厳死へ</li> <li>5 脳死と臓器移植</li> <li>6 脳死者と動物</li> <li>7 出生回避</li> <li>8 出生回避は悪いか</li> <li>9 生殖補助(1)</li> <li>10 生殖補助(2)</li> <li>11 出生操作</li> <li>12 優生思想</li> <li>13 遺伝子医療</li> <li>14 再生医療</li> <li>15 クローン人間</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布される資料を必ず読んでおくこと。現実の医療を思い浮かべながら読むこと。授業終了後はなるべく早めに再読すること。			1時間程度	
復習						
授業の留意点	<p>前の週にパワーポイントの資料を配布する。医学の進歩が皆さん一人一人にとって切実な問題であること、人類全体としても大変な曲がり角にあること、さらには従来の倫理観がもはや曲がり角に来ていることを理解してほしい。なお新型肺炎の感染状況によってはオンデマンドになる可能性もある。配布された資料は授業のあとに必ず再読するように。不明な箇所や自分なりの見解があるならメールを送ること。</p>					
学生に対する評価	<p>学期末の試験(100点満点)がすべて。期試験成績が4,50点代の場合については出席も参考にする。ただしオンデマンドの授業の場合は出席と簡単なアンケートのみ。</p>					
教科書(購入必須)						
参考書(購入任意)	<p>『基礎から学ぶ生命倫理学』 村上喜良 (勁草書房)  『生命倫理の教科書』 黒崎剛/野村俊明 (ミネルヴァ書房)  『バイオエシックスの基礎』 加藤尚武/飯田亘之 (東海大学出版会)  『神と生命倫理』 古牧徳生編 (晃洋書房)</p>					

科 目 名	公民科指導法 I		担当教員名	三戸 尚史		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(高公)：必修		資 格 要 件	教職(高公)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	民間企業に勤務後、31歳で教員に転職。約30年間、高校教諭を努める。授業では、自らの経験や失敗から得た教訓を伝えるとともに、常に、「理想の教師とは…」「教師はいかにあるべきか…」を問うている。学生たちには、授業を通じて、様々な角度から考え・大いに迷い、自らが目指す教師像を創造し、構築して欲しい。					
学習到達目標	<p>&lt;到達目標&gt; 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p>&lt;授業目標&gt; 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>					
授業の概要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方(年間計画内容、教材、方法など)について、学生の理解を促したい。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 社会科教師に求められるもの</li> <li>3 社会科成立の歴史(戦前の社会科、戦後の社会科)</li> <li>4 学習指導要領の変化と社会科教育</li> <li>5 公民科の目標と公民科の学力</li> <li>6 公民科授業づくりの可能性と課題</li> <li>7 公民科教育の現状と課題</li> <li>8 「公民科」の内容分析と指導方法</li> <li>9 教科の評価について</li> <li>10 学習指導案の作成について</li> <li>11 学習指導案の実践事例分析と作成実践</li> <li>12 模擬授業の実施と分析①</li> <li>13 模擬授業の実施と分析②</li> <li>14 模擬授業の総括(意見交換・レポート)</li> <li>15 前期のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容を事前に確認するとともに、疑問点・問題事項などを明確にしておく。			90分	
	復習	ワークシートなどで、授業内容を復習・理解するとともに、授業での気づきや感想・評価なども記録する。			90分	
授業の留意点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的的力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に授業に参加することを期待する。					
学生に対する評価	授業参加態度(ルーブリック)、試験、レポート、模擬授業等により評価する。 100点満点(授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点)					
教科書(購入必須)	高等学校教科用図書(『現代政治・経済』:清水書院) ※但し、高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2018年(平成30年)					
参考書(購入任意)	佐藤功著『憲法と君たち』(時事通信社) 木村草太著『憲法という希望』(講談社現代新書)					



科 目 名	公民科指導法Ⅱ		担当教員名	三戸 尚史		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(高公):必修		資 格 要 件	教職(高公):必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	民間企業に勤務後、31歳で教員に転職。約30年間、高校教諭を努める。授業では、自らの経験や失敗から得た教訓を伝えるとともに、常に、「理想の教師とは…」「教師はいかにあるべきか…」を問うている。学生たちには、授業を通じて、様々な角度から考え・大いに迷い、自らが目指す教師像を創造し、構築して欲しい。					
学習到達目標	<p>&lt;到達目標&gt; 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p>&lt;授業目標&gt; 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>					
授業の概要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方(年間計画内容、教材、方法など)について、学生の理解を促したい。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 「公共」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法①</li> <li>3 「公共」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法②</li> <li>4 創造的な授業実践から学ぶもの</li> <li>5 新聞記事を生かした授業(情報機器の活用を含む)</li> <li>6 討論授業の工夫</li> <li>7 時事問題について分析と研究協議①(情報機器の活用を含む)</li> <li>8 時事問題について分析と研究協議②(情報機器の活用を含む)</li> <li>9 学習指導案の作成と検討</li> <li>10 模擬授業の実施と分析①</li> <li>11 模擬授業の実施と分析②</li> <li>12 模擬授業の実施と分析③</li> <li>13 模擬授業の実施と分析④</li> <li>14 模擬授業の総括(意見交換・レポート)</li> <li>15 後期のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容を事前に確認するとともに、疑問点・問題事項などを明確にしておく。			90分	
	復習	ワークシートなどで、授業内容を復習・理解するとともに、授業での気づきや感想・評価なども記録する。			90分	
授業の留意点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に授業に参加することを期待する。					
学生に対する評価	授業参加態度(ルーブリック)、試験、レポート、模擬授業等により評価する。 100点満点(授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点)					
教科書(購入必須)	高等学校教科用図書(『現代政治・経済』:清水書院) ※但し、高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2018年(平成30年)					
参考書(購入任意)	佐藤功著『憲法と君たち』(時事通信社) 木村草太著『憲法という希望』(講談社現代新書)					

科 目 名	社会福祉原論 I		担当教員名	輪倉 一広		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士:必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解できる。</p> <p>②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解できる。</p> <p>③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解できる。</p> <p>④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解できる。</p>					
授業の概要	<p>テキストに沿って基本事項の理解と暗記に努め、前期の終わりには以下の項目の把握を目指す。</p> <p>①社会福祉の原理、②社会福祉の歴史、③社会福祉の思想・哲学、理論、④社会問題と社会構造、④福祉政策の基本的な視点</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉の原理を学ぶ視点</li> <li>2 社会福祉の歴史を学ぶ視点①－歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分</li> <li>3 社会福祉の歴史を学ぶ視点②－日本と欧米の社会福祉の比較史の視点</li> <li>4 日本の社会福祉の歴史的展開</li> <li>5 欧米の社会福祉の歴史的展開</li> <li>6 社会福祉の思想・哲学①－社会福祉の思想・哲学の考え方、人間の尊厳</li> <li>7 社会福祉の思想・哲学②－社会正義、平和主義</li> <li>8 社会福祉の理論①－社会福祉の理論の基本的な考え方、戦後社会福祉の展開と社会福祉理論</li> <li>9 社会福祉の理論②－社会福祉の理論(政策論、技術論、固有論、統合論、運動論、経営論)、欧米の社会福祉の理論</li> <li>10 社会福祉の論点</li> <li>11 社会福祉の対象とニーズ</li> <li>12 現代における社会問題</li> <li>13 社会問題の構造的背景</li> <li>14 福祉政策の概念・理念</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45分	
	復習	授業で扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料等を用いて講義内容を整理する。			135分	
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で扱った基本項目の確認に努めること。</li> <li>・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。</li> </ul>					
学生に対する評価	期末レポート 90%、リアクションペーパー10%					
教科書(購入必須)	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 4『社会福祉の原理と政策』中央法規出版					
参考書(購入任意)	『福祉小六法 2023年版』みらい					

科 目 名	社会福祉原論Ⅱ		担当教員名	輪倉 一広	
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資格要件
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	<p>①福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。</p> <p>②福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。</p> <p>③福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。</p> <p>④福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。</p>				
授業の概要	<p>テキストに沿って基本事項の理解と暗記に努め、1年生の終わりには以下の項目の把握を目指す。</p> <p>①福祉政策におけるニーズと資源、②福祉政策の構成要素と過程、③福祉政策の動向と課題、④福祉政策と関連施策、⑤福祉サービスの供給と利用過程、⑥福祉政策の国際比較</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉政策におけるニーズー種類と内容・把握方法</li> <li>2 福祉政策における資源ー種類と内容・把握方法・開発方法</li> <li>3 福祉政策の構成要素①ー福祉政策の構成要素とその役割・機能・政府、市場（経済市場、準市場、社会市場）、事業者、国民（利用者を含む）</li> <li>4 福祉政策の構成要素②ー措置制度・多元化する福祉サービス提供方式</li> <li>5 福祉政策の過程①ー政策決定、実施、評価・福祉政策の方法・手段</li> <li>6 福祉政策の過程②ー福祉政策の政策評価・行政評価・福祉政策と福祉計画</li> <li>7 福祉政策と包括的支援①ー社会福祉法・地域包括ケアシステム・地域共生社会</li> <li>8 福祉政策と包括的支援②ー多文化共生・持続可能性（SDGs等）</li> <li>9 福祉政策と関連施策①ー保健医療政策、教育政策、住宅政策</li> <li>10 福祉政策と関連施策②ー労働政策、経済政策</li> <li>11 福祉サービスの供給と利用過程①ー福祉供給部門</li> <li>12 福祉サービスの供給と利用過程②ー福祉供給過程</li> <li>13 福祉サービスの供給と利用過程③ー福祉利用過程</li> <li>14 福祉政策の国際比較</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45分
	復習	授業で扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料等を用いて講義内容を整理する。			135分
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で扱った基本項目の確認に努めること。</li> <li>・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。</li> </ul>				
学生に対する評価	期末レポート 90%、リアクションペーパー10%				
教科書（購入必須）	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 4『社会福祉の原理と政策』中央法規出版				
参考書（購入任意）	『福祉小六法 2023年版』みらい				

科 目 名	社会保障論 I		担当教員名	永嶋 信二郎		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士: 必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>1. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の歴史も含めて理解する。</p> <p>2. 社会保険・社会扶助・民間保険の関係について理解する。</p> <p>3. 社会保障制度の財政について理解する。</p> <p>4. 社会保障制度の体系と概要について理解する。</p>					
授業の概要	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。</p> <p>そのために、社会保障論 I では、社会保障の理論と歴史、社会保障の財政、社会保険と社会扶助、公的保険と民間保険、医療保険、そして介護保険について学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1 社会保障の概念・対象・理念</p> <p>2 社会保障制度の歴史</p> <p>3 保険と扶助</p> <p>4 社会保険と社会扶助</p> <p>5 公的保険と民間保険 (1) 社会保険・民間保険の種類と生命保険・損害保険</p> <p>6 公的保険と民間保険 (2) 社会保険と民間保険の違い</p> <p>7 社会保障と財政 (1) 社会保障の費用と財源</p> <p>8 社会保障と財政 (2) 社会保障と経済</p> <p>9 医療保険制度 (1) 医療保険の仕組み</p> <p>10 医療保険制度 (2) 保険給付</p> <p>11 医療保険制度 (3) 医療保険の財源と財政</p> <p>12 医療保険制度 (4) 日本における医療保険の特徴と公費負担医療</p> <p>13 介護保険制度 (1) 介護保険の歴史・保険者・被保険者</p> <p>14 介護保険制度 (2) 介護保険の利用手続きと保険給付</p> <p>15 介護保険制度 (3) 地域支援事業・地域包括支援センター・運営</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	翌週の授業内容に該当する教科書の箇所を熟読する。			90 分	
	復習	宿題として配布するプリントに取り組むとともに、授業当日で取り扱った授業内容が記された教科書の該当箇所と配布資料を熟読する。			90 分	
授業の留意点	<p>授業は教科書に基づいて行うとともに、それを基にしたパワーポイントと配布資料も用いて行う。また、社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくことで授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>					
学生に対する評価	宿題として配布するプリント (30 点) と期末試験 (70 点) で評価する。					
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021)『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会保障』中央法規出版					
参考書 (購入任意)	椋野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障 (最新版)』有斐閣					

科 目 名	社会保障論Ⅱ		担当教員名	永嶋 信二郎		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士:必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>1. 社会保障制度の体系と概要について理解する。</p> <p>2. 現代社会における社会保障制度の課題について理解する。</p> <p>3. 諸外国における社会保障制度について理解する。</p>					
授業の概要	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。</p> <p>そのために、社会保障論Ⅱでは、年金保険、労災保険、雇用保険、生活保護、社会手当、社会福祉、社会保障制度の現状と課題、そして諸外国における社会保障制度について学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1 年金保険制度 (1) 年金制度の概要・歴史</p> <p>2 年金保険制度 (2) 年金の加入・負担</p> <p>3 年金保険制度 (3) 年金の給付</p> <p>4 年金保険制度 (4) 年金財政、企業年金・個人年金、年金における最近の動向と課題</p> <p>5 労災保険制度</p> <p>6 雇用保険制度</p> <p>7 生活保護制度</p> <p>8 社会手当制度</p> <p>9 社会福祉制度 (1) 社会福祉制度の概要・基本法と高齢者福祉</p> <p>10 社会福祉制度 (2) 児童福祉と障害者福祉</p> <p>11 社会保障制度の現状と課題 (1) 人口減少と少子高齢化</p> <p>12 社会保障制度の現状と課題 (2) 経済環境の変化と労働環境の変化</p> <p>13 諸外国における社会保障制度 (1) 諸外国における社会保障制度の概要</p> <p>14 諸外国における社会保障制度 (2) 社会保障制度の国際比較</p> <p>15 諸外国における社会保障制度 (3) 社会保障の国際化</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	翌週の授業内容に該当する教科書の箇所を熟読する。			90分	
	復習	宿題として配布するプリントに取り組むとともに、授業当日で取り扱った授業内容が記された教科書の該当箇所と配布資料を熟読する。			90分	
授業の留意点	<p>授業は教科書に基づいて行うとともに、それを基にしたパワーポイントと配布資料を用いて行う。また、社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくことで授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>					
学生に対する評価	宿題として配布するプリント (30点) と期末試験 (70点) で評価する。					
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021)『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会保障』中央法規出版					
参考書 (購入任意)	椋野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障 (最新版)』有斐閣					

科 目 名	社会福祉教育論		担当教員名	大坂 祐二		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>児童・生徒や成人一般が、国民の権利としての社会福祉に対する関心と理解を深め、地域福祉における参加・参画と協働をすすめるための教育活動について、具体的・実践的な活動を組織するための視点と方法を説明できるようになる。</p>					
授業の概要	<p>学校教育などにおいて教育活動として行われる福祉教育だけでなく、地域福祉活動に参加することを通して人々が互助・共助の意義を理解し、サービス利用者として、また地域福祉の担い手として主体形成してゆく過程も視野に入れて、福祉教育の内容と方法を学ぶ。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉教育の概念</li> <li>2 現代の福祉課題と福祉教育</li> <li>3 学校教育における福祉教育の展開 (1) 「福祉のこころ」から人権教育へ</li> <li>4 学校教育における福祉教育の展開 (2) 体験学習をどうすすめるか</li> <li>5 学校教育における福祉教育の展開 (3) ボランティア活動と福祉教育</li> <li>6 学校教育における福祉教育の展開 (4) 高等学校における移行支援と教育福祉</li> <li>7 生涯学習としての福祉教育 (1) 地域福祉活動における住民の学び</li> <li>8 生涯学習としての福祉教育 (2) 地域で考える認知症</li> <li>9 生涯学習としての福祉教育 (3) 高齢者にとっての学びと文化</li> <li>10 生涯学習としての福祉教育 (4) 障害者の学習権保障と社会参加</li> <li>11 生涯学習としての福祉教育 (5) 「助ける—助けられる」を学ぶ</li> <li>12 生涯学習としての福祉教育 (6) 地域共生社会の実現と福祉教育</li> <li>13 職業教育としての社会福祉教育 (1) 職業指導・職業教育と専門職養成</li> <li>14 職業教育としての社会福祉教育 (2) 福祉系高校における進路指導</li> <li>15 職業教育としての社会福祉教育 (3) 援助技術教育と人間理解・社会認識</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布する資料ないし指示した文献等を読んでおく。			90 分	
	復習	内容をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。			90 分	
授業の留意点	<p>対面授業で行うが、感染状況等によって遠隔授業に変更する場合がある。毎回の授業のふりかえりを課題とするので、期限までに提出すること。</p> <p>高等学校(福祉)の教員免許を取得しようとするものは必修となるので注意すること。</p>					
学生に対する評価	<p>課題提出(30点)および期末レポート(70点)で評価を行う。</p>					
教科書(購入必須)	<p>指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。</p>					
参考書(購入任意)	<p>村上尚三郎・阪野貢・原田正樹編著『福祉教育論』北大路書房、1998年          辻 浩『住民参加型福祉と生涯学習』ミネルヴァ書房、2004年          原田正樹『地域福祉の基盤づくり—推進主体の形成』中央法規、2014年</p>					

科 目 名	高齢者福祉論 I		担当教員名	黄 京性		
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	社福士・教職（高福）：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができる人材（ソーシャルワーカー）を育む。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康の問題について社会的視点を持って科学的に捉え具体的な支援をするために、保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できるパートナーシップの観点を兼ね備えた人材を育む。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>①学生は、高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>②学生は、高齢者福祉の歴史と高齢者間の変遷、制度の発展過程について理解する。</p> <p>③学生は、高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。</p> <p>④学生は、高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士として適切な支援の在り方を理解する。</p>					
授業の概要	<p>学生は、高齢者・高齢期の身体的・精神的・社会的な特徴やそれに関連する諸要因を自ら考えた上、さらに学術的及び科学的な根拠をもとに学習することを目的として取り組む。その上、現行の高齢者の健康や生活を支える諸制度・施策を体系的に理解できるように教授する。特に、介護保険制度に関する詳細な知識習得を容易にする指導を工夫し取り組む。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者の定義と特性</li> <li>2 高齢者・高齢期の特徴（心理・社会的特性を中心に）</li> <li>3 高齢者を取り巻く社会環境</li> <li>4 高齢者福祉の歴史（高齢者福祉の理念、高齢者間の変遷、高齢者福祉制度の発展過程）</li> <li>5 老人福祉法の成立と法改正の特徴について</li> <li>6 老人医療費支給制度及び高齢者医療の確保に関する法律（後期高齢者医療制度）</li> <li>7 高齢者対策基本法のと高齢者対策大綱及び主な改正</li> <li>8 介護保険法及び介護保険制度 1</li> <li>9 介護保険法及び介護保険制度 2</li> <li>10 介護保険法及び介護保険制度 3</li> <li>11 高齢者虐待の現状と関連法制度</li> <li>12 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割</li> <li>13 現代日本における認知症高齢者の現状と認知症対策（オレンジプラン）</li> <li>14 高齢者と家族等に対する支援の実際（社会福祉士の役割と多職種連携など）</li> <li>15 高齢者福祉の総括</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	テキスト（最新 社会福祉士養成講座 高齢者福祉：中央法規）の関連内容を事前に学習する。			90 分	
	復習	講義時の内容を振り返り、ポイントをつかむ。			90 分	
授業の留意点	<p>加齢、高齢者、高齢期、高齢社会、介護及び年金など、全てが身近な問題であることの認識をもって授業に望んでほしい。そのためには授業前後におけるテキストの予習及び復習を徹底すると同時に、日頃からマスコミなどの高齢者関連情報に常に関心を持つことが本科目に大いに役立つことを忘れずに。</p>					
学生に対する評価	<p>テスト(90点)と課題への取り組み(10点)など、(授業妨害行為は減点の対象)</p>					
教科書(購入必須)	<p>最新 社会福祉士養成講座 高齢者福祉 (2021年、中央法規)</p>					
参考書(購入任意)	<p>高齢社会白書、介護保険六法</p>					

科 目 名	障害者福祉論 I		担当教員名	堀 智久		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士: 必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>障害者福祉とは、障害者の社会生活上の問題を社会福祉サービスや社会福祉の援助方法を用いて解決しようとする施策と実践の総称をいう。本講義では、第一に、障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。第二に、障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。第三に、障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。第四に、障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解することをねらいとする。</p>					
授業の概要	<p>授業の計画にあるように、実態、歴史、障害(者)の概念等について学び、また障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉に関する法制度について学習する。福祉サービスとその実施体制、専門職の役割や実際等について学ぶとともに、他職種連携、ネットワークング等の望ましいあり方についても取り上げたい。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害概念と特性(1) 国際生活機能分類(ICF)</li> <li>2 障害概念と特性(2) 障害者の定義と特性</li> <li>3 障害者の生活実態と障害者を取り巻く社会環境</li> <li>4 障害者福祉の歴史(1) 障害者福祉の理念、障害者の権利条約と障害者基本法</li> <li>5 障害者福祉の歴史(2) 障害観の変遷、障害者処遇の変遷、障害者福祉制度の発展過程</li> <li>6 障害者に対する法制度(1) 障害者総合支援法の概要</li> <li>7 障害者に対する法制度(2) 障害者総合支援法における障害福祉サービス及び相談支援</li> <li>8 障害者に対する法制度(3) 障害者総合支援法における障害支援区分及び支給決定</li> <li>9 障害者に対する法制度(4) 障害者総合支援法における自立支援医療費、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画</li> <li>10 障害者に対する法制度(5) 児童福祉法、身体障害者福祉法</li> <li>11 障害者に対する法制度(6) 知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法</li> <li>12 障害者に対する法制度(7) 障害者差別解消法、障害者雇用促進法</li> <li>13 障害者に対する法制度(8) 障害者虐待防止法、バリアフリー法、障害者優先調達推進法</li> <li>14 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職等の役割</li> <li>15 障害者と家族等に対する支援における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と支援の実際</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。			90分間	
	復習	授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。			90分間	
授業の留意点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。					
学生に対する評価	リアクションペーパー・宿題(40点)、レポート課題(30点)、期末試験(30点)					
教科書(購入必須)	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。					
参考書(購入任意)						



科 目 名	子ども家庭福祉論 I		担当教員名	江連 崇	
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開講形態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資格要件 社福士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	①子どもが権利の主体であることを踏まえ、子ども・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 ②子ども福祉の歴史と子ども観の変遷や制度の発展過程について理解する。 ③子どもや家庭福祉に係る法制度について理解する。 ④子どもや家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 ⑤子ども・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。				
授業の概要	上記の学習到達目標を達成するために、1. 現代社会における子どもと家族、妊産婦の生活実態とこれを取り巻く社会状況、必要とされる福祉（子育て、貧困、ひとり親、非行、児童虐待）について理解する。2. 子ども観の変遷と子ども家庭福祉制度の歴史を理解する。3. 子どもの権利について理解する。4. 子ども家庭福祉に係わる法制度および具体的課題と施策について理解する。5. 子ども家庭福祉を担う専門職のあり方について理解する。				
授業の計画	1 オリエンテーション 2 子ども家庭福祉論 3 子ども・家庭福祉の歴史（1） 4 子ども・家庭福祉の歴史（2） 5 現代社会における子ども・家庭の生活実態や社会環境（1） 6 現代社会における子ども・家庭の生活実態や社会環境（2） 7 子ども・家庭に対する法制度（1） 8 子ども・家庭に対する法制度（2） 9 子ども・家庭に対する法制度（3） 10 子ども・家庭に対する法制度（4） 11 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割（1） 12 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割（2） 13 子ども・家庭に対する支援の実際（1） 14 子ども・家庭に対する支援の実際（2） 15 まとめ				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	テキストの関連内容を事前に学習し、わからない言葉などを調べておく。			90分
	復習	講義の内容を振り返り、ポイントを整理する。			90分
授業の留意点	・テキストの該当箇所、関連個別を授業の前後に読むこと。 ・授業の展開、受講者の関心動向によって、順序を変更する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求める。				
学生に対する評価	レポート 20点・定期試験 80点 合計 100点				
教科書（購入必須）	最新 社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉（中央法規）				
参考書（購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅲ		担当教員名	嘉村 藍		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開講形態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択		資格要件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科救急情報センター相談員としての実務経験あり。スクールソーシャルワーカーとしての実務経験あり。					
学習到達目標	①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。					
授業の概要	ソーシャルワークの過程とそれにかかる知識を用い、特に人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについてテキストを用いて理解します。					
授業の計画	1 オリエンテーション：人と環境の交互作用 2 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論① 3 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論② 4 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：生態学理論 5 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：バイオ・サイコ・ソーシャルモデル 6 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 7 ソーシャルワークの過程：概要とケースの発見、インテーク 8 ソーシャルワークの過程：アセスメント 9 ソーシャルワークの過程：プランニング 10 ソーシャルワークの過程：支援の実施、モニタリング 11 ソーシャルワークの過程：支援の終結と事後評価 12 ソーシャルワークの記録 13 ケアマネジメント① 14 ケアマネジメント② 15 集団を活用した支援					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱの内容を復習したうえで、授業に臨むこと 予習箇所と復習箇所は、テキスト頁でオリエンテーション時に示します。					
学生に対する評価	レポート2回(各15点) 受講態度(リアクションペーパー)と出席状況(10点) 定期テスト：60点 出欠は、リアクションペーパーで確認します。記載された質問は、翌週の授業冒頭に回答します。					
教科書(購入必須)	社会福祉士の指定科目に関するテキストを購入していただきます。追って指示します。					
参考書(購入任意)						

科 目 名	ソーシャルワーク論V		担当教員名	小泉 隆文		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高福)・社福士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。					
学習到達目標	<p>①学生がソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解することができる。</p> <p>②学生がグループを活用した支援について理解することができる。</p> <p>④学生がソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解することができる。</p>					
授業の概要	本講義では、学生が実践で活かせるように、ソーシャルワークにおける代表的な実践モデルとアプローチについて学ぶ。また、地域に根ざしたソーシャルワーク実践を行うために、コミュニティワークの意義と目的および展開過程を概観する。さらに、実践を振り替えるために、スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解を深める。学生はこれらの学びを通して、社会福祉士あるいは精神保健福祉士として実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を修得できるようにする。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、ソーシャルワークの実践モデルとは</li> <li>2 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①ー治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル</li> <li>3 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②ー心理社会的アプローチ、帰納的アプローチ、問題解決アプローチ</li> <li>4 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③ー課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ</li> <li>5 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④ー危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ</li> <li>6 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤ー解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ</li> <li>7 ソーシャルワークの記録の意義と目的</li> <li>8 ソーシャルワークの記録の内容</li> <li>9 ケアマネジメントの原則・意義・方法</li> <li>10 グループワークの意義と目的</li> <li>11 グループワークの展開過程</li> <li>12 コミュニティワークの意義・目的・展開</li> <li>13 ソーシャルアドミニストレーションの概念とモデル</li> <li>14 ソーシャルアクションとコミュニティ・オーガナイズング</li> <li>15 スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45分	
	復習	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。			135分	
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストと講義資料を中心に講義を進める。</li> <li>・ソーシャルワーク論I～IVで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習しておくこと。</li> <li>・本講義の履修にあたっては、講義と同等時間の予習と復習を求める。講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。</li> <li>・予習はシラバスに沿ってテキストを通度しておくこと。</li> </ul>					
学生に対する評価	学期末試験 90点、リアクションペーパー10点					
教科書(購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑫『ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』(中央法規)』					
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランシス・J. ターナー(1999)『ソーシャルワーク・トリートメント：相互連結理論アプローチ(上)(下)』(中央法規)</li> <li>・北島英治(2016)『グローバルスタンダードにもとづくソーシャルワーク・プラクティスー価値と理論ー』(ミネルヴァ書房)</li> </ul>					

科 目 名	地域福祉論 I		担当教員名	小泉 隆文	
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開講形態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資格要件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。				
学 習 到 達 目 標	<p>①地域社会の概念・理論・変化について理解できる</p> <p>②地域包括ケアについて理解する</p> <p>③地域福祉の理論や概念が理解できる</p> <p>④地域福祉の推進主体や包括的支援体制について理解できる</p>				
授 業 の 概 要	<p>今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。そのため、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。</p> <p>本科目では、地域社会、地域福祉の概念や理論、歴史的発展過程を踏まえ、地域福祉実践がどのような役割を担うのか、考察を深めていく</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、地域福祉の概念と理論①</li> <li>2 地域福祉の概念と理論②、地域社会の変化①</li> <li>3 地域社会の変化②</li> <li>4 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ、地域福祉と社会的孤立</li> <li>5 地域包括ケアシステム</li> <li>6 生活困窮者自立支援</li> <li>7 包括的支援体制と地域共生社会</li> <li>8 地域福祉ガバナンスと多機関協働</li> <li>9 多職種連携</li> <li>10 福祉以外の分野との機関協働の実際</li> <li>11 地域福祉の概念と理論</li> <li>12 地域福祉の歴史と動向</li> <li>13 地域福祉の推進主体①</li> <li>14 地域福祉の推進主体②</li> <li>15 地域福祉の主体と福祉教育</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45 分
	復習	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。			135 分
授 業 の 留 意 点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。				
学 生 対 する 評 価	試験 70 点、レポート 30 点				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 ⑥『地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	加山 弾、熊田博喜、中島 修、山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』(有斐閣)				

科 目 名	地域福祉論Ⅱ		担当教員名	小泉 隆文		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修		資格要件	教職(高福)・社福士・精保士:必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。					
学習到達目標	<p>①地域を基盤としたソーシャルワークの方法について理解できる</p> <p>②災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解できる</p> <p>③福祉計画の機能や策定過程について理解できる</p> <p>④福祉行政と財政について理解できる</p>					
授業の概要	<p>今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。</p> <p>本科目では、地域で展開されるソーシャルワークや、災害時の支援体制、地域福祉計画、福祉行財政について学んでいく。</p> <p>また、具体的な事例を踏まえて学生が考察できるようになることも目標とする。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題① 地域社会の概念と理論、地域社会の変化</li> <li>2 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題② 多様化・複雑化した地域営克課題の現状とニーズ</li> <li>3 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題③ 地域福祉と社会的孤立</li> <li>4 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制① 包括的支援体制と地域包括ケアシステム</li> <li>5 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制② 生活困窮者自立支援の考え方</li> <li>6 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制③ 地域共生社会の実現に向けた各種施策</li> <li>7 地域共生の実現に向けた多機関協働① 多機関協働を促進する仕組み</li> <li>8 地域共生の実現に向けた多機関協働② 多職種連携</li> <li>9 地域共生の実現に向けた多機関協働③ 福祉以外の分野との機関協働の実際</li> <li>10 災害時における総合的かつ包括的な支援体制① 非常時や災害時における法制度</li> <li>11 災害時における総合的かつ包括的な支援体制② 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援</li> <li>12 地域福祉と包括的支援体制① 地域福祉ガバナンス</li> <li>13 地域福祉と包括的支援体制② 地域共生社会の構築</li> <li>14 コミュニティワーク事例検討① 地域を基盤としたソーシャルワーク</li> <li>15 地域共生社会における地域福祉のあり方</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45分	
	復習	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。			135分	
授業の留意点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。					
学生に対する評価	試験 90点、リアクションペーパー10点					
教科書(購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑥』『地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)					
参考書(購入任意)	加山 弾、熊田博喜、中島 修、山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』(有斐閣)					

科 目 名	介護概論		担当教員名	綱島 弘泰		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	1. 介護の現場や対象について具体的にイメージし専門職の役割について述べることができる。 2. 介護に対しての基礎理論、介護技術の概要を学び理解することができる。					
授 業 の 概 要	介護の現場や対象の理解を深め、QOL を高めるための生活支援の方法を理解し、介護を展開するための基礎知識、生活支援技術を養う。					
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 高齢者支援の方法と実際 3 高齢者を支援する専門職の役割と実際 4 介護の概念と範囲、介護の理念 5 介護の対象、介護予防の概念 6 介護過程の概要 7 介護過程の展開方法 8 自立に向けた介護、家事における自立支援 9 生活支援技術（身じたく、移動、睡眠の介護） 10 生活支援技術（食事、口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 11 認知症の理解 12 認知症の諸症状とその家族への支援の実際 13 認知症ケアの実際 14 終末期ケア 15 高齢者の住環境					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画の内容に対し文献を活用して下調べをする。			90分	
	復習	配付資料を見直し重要語句を再確認しノートに転記する。			90分	
授 業 の 留 意 点	積極的に意見、質問を述べることを求めます。					
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験にて行います。(試験 80 点、課題 20 点)					
教 科 書 (購入必須)	講義ごとに配布します。					
参 考 書 (購入任意)						

科 目 名	基本介護技術		担当教員名	川田 哲也		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<p>①体の仕組みを知ることにより、エビデンスに基づいた基本的な介護技術を習得することができる。</p> <p>②「自立」を目的とした介護技術を学ぶことにより、アセスメント能力の向上と介護のポイントを習得することができる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>専門職として、介護の基礎知識を学んだ上で、本人の状態を把握し適切な方法で介助、支援できるポイントを学ぶ。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 なぜ、人は寝たきりになるのか？</li> <li>2 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは1（覚醒と座位の重要性）</li> <li>3 移動、移乗介助1（寝返り～起き上がり）</li> <li>4 移動、移乗介助2（立ち上がり～移動）</li> <li>5 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは2（食事の基礎知識と介助のポイント）</li> <li>6 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは3（排泄の基礎知識と介助のポイント）</li> <li>7 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは4（入浴の基礎知識と介助のポイント）</li> <li>8 コミュニケーション技法と現場でのポイント</li> <li>9 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは5（認知症の基礎知識と対応方法）</li> <li>10 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは6（アセスメントの基本とICFの視点①）</li> <li>11 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは7（アセスメントの基本とICFの視点②）</li> <li>12 演習1（事例をとおしての介護実技）</li> <li>13 演習2（事例をとおしての介護実技）</li> <li>14 演習3（事例をとおしての介護実技）</li> <li>15 講義のまとめ（現場で求められる社会福祉士の介護技術の視点）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	動きやすい服装					
学 生 に 対 す る 評 価	(自己評価 25点満点) + (テスト 35点満点) + (レポート 40点満点) = 100点					
教 科 書 (購入必須)	介護基礎学 竹内孝仁 医歯薬出版					
参 考 書 (購入任意)						

科 目 名	介護現場実習		担当教員名	大坂 祐二		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>介護サービス利用者に対して、授業で学んだ介護知識・技術を踏まえた介護支援の方法を体験的に習得する。</p> <p>(1)利用者に対して、その状況に適したコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>(2)利用者のアセスメントを通して、必要なサービス支援の意義と効果を適切に把握する方法を習得する。</p> <p>(3)利用者との人間的なかわりを体験し、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。</p> <p>(4)指導者のスーパービジョンを受けながら、介護職務についての理解を深める。</p>					
授業の概要	<p>介護サービス利用者個々における援助の必要性を客観的かつ具体的に考察し、理論的根拠に基づく思考と実践を行う。</p> <p>事前学内授業（オリエンテーション含む）、現場実習5日、事後学習(レポート)を予定している。実習施設は履修人数に応じて、市内のデイケアセンター、デイサービスセンター、介護老人福祉施設のいずれかを予定している。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(実習に向けての事前学習について)</li> <li>2 事前学習(1)介護技術の振り返りと実習課題の検討</li> <li>3 事前学習(2)実習課題の作成と実習に向けての諸注意</li> </ol> <p>実習 計4日間の施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4 事後学習(1)実習の振り返りの実習課題の考察</li> <li>5 事後学習(2)実習成果報告書の作成</li> <li>6 事後学習(3)実習成果報告</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	現場実習に対する明確な目的意識をもって、自主的かつ積極的な姿勢で取り組むこと。 なお、実習先の受け入れ状況等によって開講時期を変更することがある。					
学生に対する評価	<p>実習日誌：20点</p> <p>実習課題の考察：30点</p> <p>実習成果報告書：30点</p> <p>事前・事後学習の状況：20点</p>					
教科書 (購入必須)	使用しない。 授業中にレジュメ、資料等を適宜配布する。					
参考書 (購入任意)						



科 目 名	ソーシャルワーク演習 I		担当教員名	佐藤(み)・堀・永嶋・榊原・江連・小泉・嘉村	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	社福士・精保士・教職(高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 ④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。				
授業の概要	ソーシャルワークの知識と技術に関する他の科目との連関性を視野に入れつつ、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められているソーシャルワーク実践に関する知識と技術について、実践的に習得していきます。ソーシャルワークにおける価値や倫理を踏まえ、コミュニケーション技術と方法の理解を通して、基本的な実践技法の習得ができるように学んでいきます。				
授業の計画	1 オリエンテーション 演習をすることとは 2 ソーシャルワーカーが自己覚知すること 3 基本的なコミュニケーション技術の理解①(言語的技術) 4 基本的なコミュニケーション技術の理解②(非言語的技術) 5 基本的な面接技術の理解(空間・距離のとり方・ツールの活用等) 6 ソーシャルワークの展開過程の理解①(ケースの発見・インテーク) 7 ソーシャルワークの展開過程の理解②(アセスメント) 8 ソーシャルワークの展開過程の理解③(プランニング・支援の実施) 9 ソーシャルワークの展開過程の理解④(モニタリング・カンファレンス) 10 ソーシャルワークの展開過程の理解⑤(支援の終結・事後評価・アフターケア) 11 ソーシャルワークの記録の理解 12 グループダイナミクスの活用理解①(グループワークの構成) 13 グループダイナミクスの活用理解②(グループワークの展開) 14 プレゼンテーション技術の理解①(個人プレゼンテーション) 15 プレゼンテーション技術の理解②(グループプレゼンテーション)				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	毎回の授業内容に関係する事項について、これまでの講義での該当箇所を整理し、わからない言葉などを調べておく。			45分
	復習	授業で取り扱った箇所の資料を用いて講義内容を整理する。			135分
授業の留意点	20名以下のクラス編成での実施となります。ソーシャルワーク実践の実際をより具体的、実践的に学ぶことができるように、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等)を中心に展開されます。学生個々の主体的参加や積極的発言を強く望んでいます。				
学生に対する評価	単元レポート：50点 期末レポート：50点				
教科書(購入必須)	必要に応じて資料等を配布します。				
参考書(購入任意)	なし				

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅱ		担当教員名	佐藤(み)・永嶋・堀・榊原・江連・小泉・嘉村		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	社福士・教職(高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるため必要な力を身につけている。 3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	(1) ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を習得する。 (2) 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。					
授業の概要	本演習では、個別指導並びに集団指導を通して、具体的なソーシャルワークの場面及び過程(「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の集結と事後評価」「アフターケア」)を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。それによって、具体的なケースの中で社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を修得する。					
授業の計画	1 ソーシャルワーカーに求められる倫理① 2 ソーシャルワーカーに求められる倫理② 3 多様性尊重と集団的責任 4 人権、社会正義 5 感情の理解 6 家族の理解 7 個人の理解 8 グループの理解 9 知的障害者分野における演習 10 身体障害者分野における演習 11 児童分野における演習 12 医療分野における演習 13 高齢者分野における演習 14 地域包括支援センターにおける演習 15 社会福祉協議会における演習					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ソーシャルワーク論の教科書における該当箇所を熟読する。			90分	
	復習	授業で配布された資料を熟読するとともに、グループワークを通じたその日の学びを振り返り、今後の演習・実習等に反映させる。			90分	
授業の留意点	学生には、積極的な参加を求める。 講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。					
学生に対する評価	期末レポート：50点 受講態度(積極的に演習に参加しているか)：50点					
教科書(購入必須)	テキストは使用しない。各回において適宜資料を配布する。					
参考書(購入任意)	参考書については別途指示する。					

科 目 名	ソーシャルワーク実習 I		担当教員名	社会福祉学科教員		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	社福士・教職（高福）：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための基本的な実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解するための具体的な関わり技法を習得する。</p> <p>③施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</p> <p>④施設・機関等の利用者とのコミュニケーションの実際を理解する。</p>					
授業の概要	<p>ソーシャルワーカーとしての基本的な実践能力を養うため、これまで学んできたソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を、実習現場を通して行う。実習時間は60時間以上(8日程度)を基本として実施する。ソーシャルワーク実習 I での学びや課題を踏まえ、次年度以降のソーシャルワーク実習 II に臨んでいく。</p>					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション(実習目的と今後の予定について)</p> <p>2 社会福祉機関・施設実習(60時間以上・8日間程度)において、主に以下のことを習得していきます。</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前学習の内容や、実習計画書をみて、翌日の実習の目標を立てる。				
	復習	その日の実習を振り返り、考察をして、実習日誌を完成させる。				
授業の留意点	<p>これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用・実践し、ソーシャルワーク実践に必要な基本的な資質や能力を習得する。これまでの理論を体系化していくための実習体験や、実習担当教員や実習指導者とのスーパービジョンでは、積極的な参加が求められる。</p> <p>なお、ソーシャルワーク実習 II およびソーシャルワーク実習指導 II を履修するためには、ソーシャルワーク実習 I およびソーシャルワーク実習指導 I の前年度までの単位修得が必要となる。</p> <p>ソーシャルワーク実習 I の履修要件は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原則として2年次の前期終了時点において、当該年度の進級判定時における進級の要件を満たす可能性が十分に見込まれること。</li> </ul>					
学生に対する評価	実習指導者の評価を参考に評価する。詳細はソーシャルワーク実習指導 I 内で提示する。					
教科書(購入必須)	『ソーシャルワーク実習ハンドブック』(本学科実習委員会作成)を中心に使用する。その他、必要に応じて資料を配布する。					
参考書(購入任意)	なし					

科目名	医学概論		担当教員名	塚原 高広	
学年配当	3年	単位数	2単位		開講形態 講義
開講時期	後期	必修選択	選択		資格要件 教職(高福)社福士・精保士:必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院(2年)、地域の基幹病院(3年)、クリニック・在宅医療(1年)の実務経験(臨床医)がある。				
学習到達目標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができることを目標とする。				
授業の概要	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、前半では人体の解剖生理の基本的な知識を学ぶ。後半では、前半で学んだ知識を応用して、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。さらに、リハビリテーションの概要および国際生活機能分類を理解する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフステージにおける心身の特徴</li> <li>2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題</li> <li>3 健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能(1) 器官</li> <li>4 身体構造と心身機能(2) 体液、循環器</li> <li>5 身体構造と心身機能(3) 泌尿器・呼吸器</li> <li>6 身体構造と心身の機能(4) 消化器・神経</li> <li>7 身体構造と心身の機能(5) 内分泌・生殖器</li> <li>8 身体構造と心身の機能(6) 筋・骨格・皮膚</li> <li>9 身体構造と心身機能(7) 免疫・感覚器</li> <li>10 疾病と障害(1) 疾病の発生原因と成立機序・リハビリテーション、感染症</li> <li>11 疾病と障害(2) 神経疾患、脳血管疾患、心疾患</li> <li>12 疾病と障害(3) 内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患</li> <li>13 疾病と障害(4) 消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患</li> <li>14 疾病と障害(5) 免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患</li> <li>15 疾病と障害(6) 精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分
	復習	構造と機能の関連に注意しながら配布資料を通読し、理解できない部分をはっきりさせること。復習の際は、図書館での参考書や関連図書の利用を勧める。			90分
授業の留意点	教科書、参考書、講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義やムードルで担当教員に質問すること。				
学生に対する評価	定期試験(100点)により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。				
教科書(購入必須)	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版(2021年)				
参考書(購入任意)	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第4版』医学書院(2015年)				

科 目 名	介護福祉論		担当教員名	川田 哲也		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	1. 介護福祉の概念について理解する。 2. 介護福祉の今日的状況について理解し、介護を取り巻く課題を検討できる視座を獲得する。 3. 介護過程の展開を理解し、利用者の状況にあった支援環境を考察できるようになる。					
授 業 の 概 要	今日の介護福祉の位置づけを把握し、海外と日本における介護福祉の沿革と課題について理解する。そのうえで、在宅介護・施設介護の意義と沿革を学び、人権尊重を基盤とした介護に関する基礎的な知識を習得する。					
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、社会福祉士が知らなければならない介護福祉の概念を理解する 2 介護の基本的な考え方 理論と法的根拠に基づく介護 3 介護サービスの理解 4 介護職という労働環境を理解する 5 介護の基礎知識とアセスメントの関係性1 6 介護の基礎知識とアセスメントの関係性2 7 基本的な介護過程の展開を理解する 8 高齢者のこころとからだのしくみを理解する 9 認知症による生活への影響と介護者支援についての理解する 10 高齢者の人権と関連する問題について理解する①(高齢者虐待・成年後見制度) 11 高齢者の人権と関連する問題について理解する②(介護殺人、認知症による事件など) 12 障がい者サービス内容とこれからの課題について理解する 13 地域住民に対する介護の理解を得るには1 14 地域住民に対する介護の理解を得るには2 15 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	毎回、講義と演習を使用して展開していく。演習では各自の積極的な取り組みが必要となる。					
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト：30点 レポート：70点					
教 科 書 (購入必須)	関係資料等は当日などに配布します。					
参 考 書 (購入任意)	①介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」 ②介護職員初任者研修課程テキスト3「こころとからだのしくみと生活援助技術」 出版社 日本医療企画					

科 目 名	障害者福祉論Ⅱ		担当教員名	堀 智久		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開講形態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（高福）：必修	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点をもち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>障害者福祉論Ⅰの内容を受け、より発展的かつ実践的な講義をおこなう。また、障害者福祉論Ⅱでは、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅱとの関連性も考慮し、今日の障害者福祉に関する法制度のあり方や専門職のケアマネジメントなどについて学習を展開する。そのなかで、障害の社会モデルの考え方や自己決定支援、家族支援、今日の障害者福祉法制度の変化・改正の流れなどを学び、今日何が課題となっているかについて学びを深めていく。</p>					
授業の概要	<p>本講義では、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅱとの関連性も考慮し、今日の障害福祉現場の課題を取り上げる。また、今日的なテーマを意図的に取り上げることで、多くの学生が障害者福祉を身近に感じてもらえるように配慮するとともに、障害者福祉論Ⅰと障害者福祉論Ⅱの講義が相まって学習効果をあげるように進行する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害者権利条約はどのようにして生まれたか</li> <li>2 障害の概念、障害観の変遷</li> <li>3 社会モデルとは、障害者差別とは</li> <li>4 障害者の法的定義</li> <li>5 日本の障害者団体の取り組み、障害者運動の歴史</li> <li>6 海外の障害者団体の取り組み、障害者運動の歴史</li> <li>7 地域での自立生活、介助者の関係性</li> <li>8 知的障害についての事例：知的障害者に対する就労支援</li> <li>9 身体障害についての事例：在宅療養する ALS 患者を支える</li> <li>10 精神障害についての事例：精神科病院からの退院支援</li> <li>11 障害福祉現場における相談支援の実際：インテーク場面での実践と書類作成</li> <li>12 障害福祉現場における相談支援の実際：アセスメント場面での実践と書類作成</li> <li>13 障害福祉現場における相談支援の実際：プランニング場面での実践と書類作成</li> <li>14 障害福祉現場におけるケアマネジメント</li> <li>15 高齢障害者の問題、総合支援法と介護保険法の関係性</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。			90分間	
	復習	授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。			90分間	
授業の留意点	講義のなかで、随時発言を求めながら進めていく。					
学生に対する評価	レスポンスペーパー（30点）、レポート（30点）、期末試験（40点）					
教科書（購入必須）	講義ごとにプリントを配布する。					
参考書（購入任意）	講義ごとにプリントを配布する。					

科 目 名	福祉科教育法 I		担当教員名	大坂 祐二		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開講形態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(高福)：必修		資 格 要 件	教職(高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	高等学校における福祉教育や教科「福祉」の意義と目標・内容を理解する。国民的課題としての社会福祉を青年期に学ぶ意義について考察し、授業設計に活用することができる。					
授業の概要	高等学校の新しい学習指導要領は 2022 年度から年次進行で実施されます。授業では学習指導要領や介護福祉士養成カリキュラムの改定の経過もふまえながら、新しい指導要領の要点について学びます。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科「福祉」創設の意義と福祉教育の役割</li> <li>2 福祉人材問題と高校福祉科 一士・士法改正と学習指導要領改訂の経過</li> <li>3 青年期における「福祉の学び」 ー私の福祉学習体験をふりかえる</li> <li>4 高等学校における福祉教育の全体像</li> <li>5 福祉科の目標と内容 ①社会福祉基礎 (1) 社会福祉の理念と意義</li> <li>6 福祉科の目標と内容 ①社会福祉基礎 (2) 私たちの生活と福祉の関わり</li> <li>7 福祉科の目標と内容 ②介護福祉基礎</li> <li>8 福祉科の目標と内容 ③コミュニケーション技術</li> <li>9 授業の構成と展開 (1) 指導案には何を書くか</li> <li>10 福祉科の目標と内容 ④介護過程</li> <li>11 授業の構成と展開 (2) 指導案の発表</li> <li>12 授業の構成と展開 (3) 指導案の検討</li> <li>13 福祉科の目標と内容 ⑤生活支援技術</li> <li>14 福祉科の目標と内容 ⑥こころとからだの理解</li> <li>15 福祉科の目標と内容 ⑦福祉情報／普通教科との連携</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	学習指導要領の該当箇所ないし事前に指示した箇所を読んでおく。			90 分	
	復習	授業をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。			90 分	
授業の留意点	高校福祉科の多くは、介護福祉士の資格取得をめざす課程です。福祉科の高校になじみがない人も多いと思いますが、介護技術など一部をのぞけば多くは皆さんが経験してきた授業と大きな違いはありません。授業の前半では高校福祉科がどんなところかを紹介します。「福祉科の目標と内容」は、該当する科目の指導要領を読んだうえで授業に臨んでください。					
学生に対する評価	レポート試験 (70 点) および指導案等の提出物 (30 点)					
教科書 (購入必須)	文部科学省『高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 福祉編』海文堂出版、2019 年					
参考書 (購入任意)	保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010 年 大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002 年					

科 目 名	福祉科教育法Ⅱ		担当教員名	大坂 祐二		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(高福)：必修		資 格 要 件	教職(高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	福祉科教育法Ⅰをふまえて社会福祉の理念、制度、支援技術等の効果的な指導方法について考察する。模擬授業やグループワークを通して具体的な授業を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。					
授 業 の 概 要	教科「福祉」は、介護実習をはじめとする体験的な学習など多様な方法で展開される。それらの方法について理解を深める。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科「福祉」における授業とその方法</li> <li>2 福祉科の目標と内容 ⑧介護実習</li> <li>3 福祉科の目標と内容 ⑨介護総合演習</li> <li>4 体験学習・ボランティア学習の指導</li> <li>5 教材研究とは</li> <li>6 教材研究と指導案</li> <li>7 授業の展開と教材・教具 (1) 板書、ワークシートなど</li> <li>8 授業の展開と教材・教具 (2) ICTの活用、オンライン授業</li> <li>9 訪問・交流・行事の指導</li> <li>10 指導案の検討と模擬授業 (1)</li> <li>11 指導案の検討と模擬授業 (2)</li> <li>12 指導案の検討と模擬授業 (3)</li> <li>13 指導案の検討と模擬授業 (4)</li> <li>14 教科「福祉」における評価</li> <li>15 教科「福祉」から福祉教育へ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	学習指導要領の該当箇所ないし事前に指示した箇所を読んでおく。			90分	
	復習	授業をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。			90分	
授 業 の 留 意 点	グループワークや模擬授業を取り入れて行うので、受講生の積極的な参加を求める。授業のふりかえりや模擬授業の指導案などの課題を課すので、期限までに提出すること。履修者数や模擬授業を行う人数によって授業の計画を変更することがある。					
学 生 に 対 す る 評 価	模擬授業の発表内容と提出課題 (60点) およびレポート試験 (40点)					
教 科 書 (購入必須)	文部科学省『高等学校指導要領(平成30年告示)解説 福祉編』海文堂出版、2019年					
参 考 書 (購入任意)	保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010年 大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002年					



科 目 名	生涯学習論		担当教員名	大坂 祐二		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職(高公・高福)選択	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。					
授業の概要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいつくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する(＝エンパワーメント)学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」(ユネスコ「学習権宣言」)である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯学習とは何か ―保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて</li> <li>2 成人にとっての「学び」 ―自主夜間中学を例に</li> <li>3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展</li> <li>4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割</li> <li>5 生涯学習・社会教育の法と行政 ―学びの自主性をめぐって</li> <li>6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員(1) 公民館</li> <li>7 生涯学習・社会教育を支える施設と職員(2) 図書館・博物館</li> <li>8 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり</li> <li>9 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育</li> <li>10 子育て仲間づくりにみる学習の組織化</li> <li>11 誰が学習要求を組織するのか</li> <li>12 学習過程とその支援 ―健康学習を例に</li> <li>13 学習の構造化 ―青年・若者をめぐる社会教育実践①</li> <li>14 自分さがしと居場所づくり ―青年・若者をめぐる社会教育実践②</li> <li>15 若者自立支援と社会教育 ―青年・若者をめぐる社会教育実践③</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布された資料ないし指示された文献等を読む。			90 分	
	復習	内容をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。			90 分	
授業の留意点	感染状況等によっては遠隔授業とする。教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。					
学生に対する評価	期末レポート(70点)、提出課題または小テスト(計30点)で評価を行う。					
教科書(購入必須)	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。					
参考書(購入任意)	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年					

科 目 名	教育学		担当教員名	小西 二郎	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開講形態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資格要件	教職(高公・高福)：選択
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	受講生の皆さんが学校教育を日本社会の変容との関わりでとらえる視点を獲得し、その視点から教育について考察を深めるようになることです。				
授業の概要	<p>1 テーマ：〈子ども・青年のライフコース変容と学校〉の視点から考える教育の意義 消費社会化・情報社会化によって消費文化世界が1970年代後半以降、子ども・青年の生活の中で大きな位置を占めるようになりました。1990年代後半以降はそれに加えて、企業の変容(ダウンサイジングと二極化)と学校教育の二極化が進行し、子ども・青年のライフコースは不安定化してきました。こうした一連の変化にともなう学校の社会的地位・役割が変化し、その正当性・権威・目的が大きく揺らいでいます。本科目では以上のような歴史的变化を取り押さえた上で学校教育の現局面について考えます。</p> <p>2 〈社会と教育〉について考えることとなります (1) 本科目は教養教育科目であり、同時に教職課程科目です。そのため「教育原理」や「教育法概論」、「教職概論」等と関連しながらも、それらとあまり重ならない授業内容にする必要があります。 以上より、本科目では〈社会と教育〉(すなわち教育に関する社会的事項)について考えます。 (2) 保健福祉学部の「教育学」なので 学校教育と社会保障との関係にも触れます。</p> <p>3 授業の形式 応答的な授業を心がけます。例えば、毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭であるいはリアクションペーパーを用いて行います。</p>				
授業の計画	<p>1 序章 本科目の位置づけとねらい</p> <p>2 第1部 消費社会化・情報社会化による子ども・青年のライフコース変容と学校(1970年代後半～)</p> <p>第1章 1970年代後半以降の子ども・青年の成長パターンの変化(その1) 子ども・青年の成長・生活環境の構成的変化と成長パターンの変化</p> <p>3 第1章 1970年代後半以降の子ども・青年の成長パターンの変化(その2) 消費文化世界が子ども・青年の成長・生活環境の主要な軸に</p> <p>4 第1章 1970年代後半以降の子ども・青年の成長パターンの変化(その3) 消費文化世界は他の成長・生活環境に越境・浸透する</p> <p>5 第1章 1970年代後半以降の子ども・青年の成長パターンの変化(その4) 子どもも消費者として「主体形成」しちやうた</p> <p>6 第2章 家族(及び地域)、学校の正当性・権威・目的の揺らぎ(その1) 家族(及び地域)の影響力の低下</p> <p>7 第2章 家族(及び地域)、学校の正当性・権威・目的の揺らぎ(その2) 学校の影響力の低下</p> <p>8 第3章 企業社会と学校の正当性・権威・目的(その1) 家族(及び地域)、学校の社会的地位の変化とその影響</p> <p>9 第3章 企業社会と学校の正当性・権威・目的(その2) 「大人になること」と企業社会</p> <p>10 第3章 企業社会と学校の正当性・権威・目的(その3) 新規学卒雇用慣行と学校の正当性・権威・目的</p> <p>11 第2部 日本社会の大転換にともなう子ども・青年のライフコース変容と学校(1990年代後半～)</p> <p>第1章 グローバリゼーション・新自由主義的改革下での企業社会の変容</p> <p>12 第2章 学校教育の変化</p> <p>13 第3章 青年雇用の変化</p> <p>14 第4章 子ども・青年のライフコースの不安定化と学校教育</p> <p>15 まとめ</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	プリントを読んでおく。			90分
	復習	プリントやノートしたことを読み返して理解を深める。関心と必要に応じて参考文献にあたる。			90分
授業の留意点	○新聞を読み、テレビのニュースをみることをお忘れなく ○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります(お楽しみに)				
学生に対する評価	毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに評価します(ミニレポート21点、試験79点、計100点)。				
教科書(購入必須)	使用しません。プリントを配布します。				
参考書(購入任意)	<p>乾 彰夫(2010)『〈学校から仕事へ〉の変容と若者たち』青木書店。</p> <p>中西新太郎(2001)『思春期の危機を生きる子どもたち』はるか書房。</p> <p>中西新太郎(2004)『若者たちに何が起きているのか』花伝社。</p> <p>後藤道夫編(2004)『日本の時代史28 岐路に立つ日本』吉川弘文館。</p> <p>荒川章二(2009)『全集 日本の歴史16 豊かさへの渴望』小学館。</p>				

科目名	ジェンダー論		担当教員名	小野寺 理佳		
学年配当	2年	単 位 数	2単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必 修 選 択	選択		資格要件	教職(高公)：選択
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	1. ジェンダーの概念について説明できる。 2. 職場、家庭、教育、地域など多くの場面に潜むジェンダー問題について具体的な知識を獲得する。 3. ジェンダーに関わる諸問題を生み出す社会的な構造を理解し、ジェンダー平等社会について自分の意見を述べるができる。 4. 性の多様性について理解し尊重することができる。					
授業の概要	この科目は社会学の一領域という位置づけであり、様々な社会事象をジェンダーの視点で分析する力をつけることを目的とする。授業では、女性・男性を取り巻く社会的現実について学び、それらの状況を生み出す社会的な構造について理解するとともに、現代社会におけるジェンダー平等に関して自分の意見を述べるようになることを目指す。また、いろいろな人がいて、いろいろな性があることについて見識を深めるために、性の多様性という視点から社会を考察する。					
授業の計画	1 はじめに～ジェンダーについて考えることの意味 2 ジェンダーとはなにか (1) 「ジェンダー」のとらえ方 3 ジェンダーとはなにか (2) ジェンダー概念の変容 4 恋愛とはなにか (なんだったのか) (1) 恋愛への関心が示すこと 5 恋愛とはなにか (なんだったのか) (2) 現代社会における恋愛 6 非法律婚のライフスタイル (1) 非法律婚とはなにか 7 非法律婚のライフスタイル (2) 非法律婚が意味するもの 8 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) 生殖への4つの視点 9 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2) 自己決定権について考える 10 学校文化とジェンダー (1) 学校という場所とジェンダー 11 学校文化とジェンダー (2) 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 12 メディアの性役割表現 (1) マスメディアのもつ影響力 13 メディアの性役割表現 (2) メッセージ伝達のメカニズム 14 介護とジェンダー (1) 介護は誰の責任か 15 介護とジェンダー (2) 家族とは誰のことか					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	テキストの該当箇所・関連箇所を読む。				
	復習	テキストの該当箇所・関連箇所を確認しながら、配布資料をもとに授業内容を振り返る。配布資料内で示した URL から関連情報（統計データや新聞記事など）を取得し、授業内容の理解を深める。				
授業の留意点	・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求められることがある。 ・公的統計・新聞記事・調査研究報告など、ジェンダーに関して、インターネット上で得られる情報はたくさんある。それらの情報を活用して問題意識を育ててほしい。					
学生に対する評価	レポートにより評価する（100点）。					
教科書（購入必須）	伊藤公雄・牟田和恵（編）『ジェンダーで学ぶ社会学』〔全訂新版〕世界思想社 2017年					
参考書（購入任意）						

科 目 名	文化人類学		担当教員名	渡部 裕		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択		資 格 要 件	教職(高公)：選択
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	本講義の主要な目標は、文化人類学の根幹である民族学を学ぶことによって、人類の文化や社会のあり方の多様性を理解するとともに、他者の文化・社会に対する自己の認識・価値観を見つめ直すための視点を養うことです。また、寒冷な北方地域に暮らしてきたアイヌを含む北方諸民族の文化を知ること、さまざまな工夫や英知が込められた北方の文化の特徴を学びます。					
授業の概要	文化人類学(民族学)の歴史や学説の概要、『遠野物語』をはじめ具体的な資料・研究事例からさまざまな文化や社会のあり方、歴史的な変化や文化の相互作用、また北方諸民族の文化的特徴などを学びます。さらに、他者の文化を理解する方法を考えます。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化人類学とは ー人類学・文化人類学の研究分野と基本概念ー</li> <li>2 人類の進化と移動・拡散 ーわれわれはどこから来たかー</li> <li>3 日本の人類学・文化人類学の先駆者 ー柳田国男、宮本常一、鳥居龍蔵の調査研究ー</li> <li>4 参与観察に基づく民族調査 ーブロスニワフ・マリノフスキー、原ひろ子の調査からー</li> <li>5 アメリカの文化人類学 ーフランツ・ボアズの功績と後継者たちー</li> <li>6 寒冷環境における人類の適応 ー北方地域への進出と適応の特徴ー</li> <li>7 アイヌの歴史と文化 ーアイヌ文化の特徴とその歴史ー</li> <li>8 記録されたアイヌ文化 ー江戸期の文書と絵画にみるアイヌ文化ー</li> <li>9 毛皮交易と北方諸民族の経済活動 ー毛布交易がもたらしたものー</li> <li>10 文化接触① ー北洋漁業の日本漁民とカムチャツカ先住民との事例ー</li> <li>11 文化接触② ーイヌイト(エスキモー)における3つの事例ー</li> <li>12 近代国家における先住民経済と社会 ー先住民政策と政治・経済体制ー</li> <li>13 現代の先住民社会 ーロシア・カムチャツカにおける現状と課題ー</li> <li>14 バナナ、ナマコ、エビをめぐる文化人類学 ー生産する側と消費する側への視点ー</li> <li>15 文化人類学的重要性ー文化の多様性と文化相対主義</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	本講義では各受講者が積極的に文化人類学(民族学)を学ぶ姿勢が重要であり、授業のなかで適宜、質問や小レポートによって受講者の理解度や意見・感想を確認します。					
学生に対する評価	講義修了後のレポート(50点)と、随時行う小レポート(50点)によって評価します。また、授業態度も加味します。					
教科書(購入必須)	適宜、プリントを配布します。					
参考書(購入任意)	参考図書については、講義の際に指示する予定。					

科目名	地域社会論		担当教員名	大坂 祐二		
学年配当	2年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択		資格要件	教職(高公・高福)：選択
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	1. 地域社会をめぐる様々な問題について理解を深める。 2. 現代社会における地域問題について分析する視角を身につける。 以上2点を到達目標とする。					
授業の概要	専門職者として地域社会のなかで仕事をする際には、その地域のありようを理解し、そこに生きる人々との関係性を育て、必要に応じて適切な対応ができる力が必要である。本講義では、地域が抱える様々な問題を取り上げながら、地域社会とはなにか、地域における生活課題としてどのような問題があるのかを考える。					
授業の計画	1 人口減少社会とは 2 都市と農村 3 高齢化と地域社会 4 少子化と地域社会 5 地域社会とコミュニティ 6 まちづくりとその担い手 7 地域住民とは誰か 8 地方自治体と住民自治 9 子ども・若者の居場所と地元志向 10 移住とネットワーク 11 祭り・イベントと地域社会 12 子育てを支える社会 13 誰が医療・介護を支えるのか 14 グローバル化と地域社会 ―介護人材問題を中心に 15 「持続可能な福祉社会」とは					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	配布資料に目を通し、わからない言葉などは調べておく。			90分	
	復習	講義内容をふりかえり、考えたことをノートなどにまとめる。			90分	
授業の留意点	遠隔授業で行うが、感染状況が好転すれば対面授業に変更する場合がある。毎回の授業のふりかえりを課題とするので、期限までに提出すること。					
学生に対する評価	課題提出(30点)および期末レポート(70点)で評価を行う。					
教科書(購入必須)	指定のテキストはない。適宜、レジュメや資料を配布する。					
参考書(購入任意)	広井良典『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社、2019 森岡清志(編)『地域の社会学』有斐閣アルマ、2008					

科目名	道徳教育論		担当教員名	未定		
学年配当	3年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職(栄養):必修 教職(高公・高福):選択	資格要件	教職(栄養):必修 教職(高公・高福):選択	
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心の成長の基本と学校課題(いじめや人間関係の希薄さ)を理解し、その上で子どもの道徳性の発達を考察する。</li> <li>・道徳の本質や道徳教育の歴史を概観し、今日の道徳教育を複眼的に捉える。</li> <li>・道徳の学習指導案の作成及び実践交流を通じて、よりよい授業方法や教材の使い方、或いは、望ましい評価の在り方を学ぶ。</li> </ul>					
授業の概要	<p>前半では、日常生活や倫理思想を土台にして道徳の本質を考え、お互いに意見交流をする。また、道徳教育の歴史について西洋と日本に分けてその特徴な道徳教育の捉え方を学び、それを受けて、我が国の学習指導要領に示された道徳教育の流れや目標・内容を理解する。</p> <p>後半は実践交流に重点を置き、学生による道徳学習指導案の作成と発表を通じて指導方法や教材の使い方の改善、或いは、評価の視点を学ぶ。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義全体のガイダンス:15回の授業展開とねらいについて説明する。</li> <li>2 道徳とは何か I:モラルやマナーと関連させながら倫理や道徳について考え、お互いの問題意識について意見交流を行う。</li> <li>3 道徳とは何か II:近代ヨーロッパの倫理思想や東洋の倫理思想と対比させながら、日本の道徳思想の特徴について理解する。</li> <li>4 道徳教育の歴史 I:日本における修身科と道徳教育の関係、教育勅語と戦後教育の関係について理解を深める。</li> <li>5 道徳教育の歴史 II:学習指導要領の変遷と道徳教育の流れについて理解する。</li> <li>6 学習指導要領にみる道徳教育 I:道徳教育の基本的な構成について学び、その目標と内容について理解する。</li> <li>7 学習指導要領にみる道徳教育 II:道徳教育の基本的な構成について学び、その指導計画作成と、内容の取り扱いについて理解する。</li> <li>8 道徳教育の授業方法:道徳性の発達段階に応じた資料活用のポイントや「心のノート」の活用について理解する。</li> <li>9 学習指導案の作成 I:指導事例に基づき、指導の基本について理解する。</li> <li>10 学習指導案の作成 II:指導事例に基づき、資料の選択について理解する。</li> <li>11 学習指導案の作成 III:実際に指導案を作成し、お互いに発表し、検討を行う。</li> <li>12 学習指導案の作成 IV:作成した指導案を全体の中で交流し、改善的な視点から修正などを行う。</li> <li>13 学習指導案の作成 V:作成した指導案を全体の中で交流し、改善的な視点から修正などを行う。</li> <li>14 世界の道徳教育を学ぶ:欧米を中心とした道徳教育を紹介し、その成果と課題について理解を深める。</li> <li>15 まとめと小論文作成:14回の授業を振り返り、道徳教育の課題と可能性について討論する。また、その後小論文を書く。</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	道徳的課題解決に向けてペア・グループ学習で解決の一般化を図るため、論理的に自分の考えを表現できるよう努力すること。新聞や本などを参考にして道徳教育の教材を発掘し、教壇に立つ意識を持って講義に参加すること。					
学生に対する評価	複数のレポート50点、課題提出(指導案の提出を含む)50点を総合的に評価する。					
教科書(購入必須)	特になし。必要な資料などは教師が用意します。					
参考書(購入任意)	講義の中で紹介します。					

科目名	教育原理		担当教員名	小西 二郎	
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	受講生の皆さんが「理論-実践」関係について自覚的に考えるようになり、かつそのことが教員の職務上、どれだけ必要かについて考えるようになることです。				
授業の概要	<p>1 テーマ：「教育現場・実践と理論は相互に支え合う、鍛え合う」について考える  ○教育とはどういう営みか。その歴史的背景や哲学・思想的思索について考えます  ○そのことを通して、教育哲学・思想・歴史的考察の「有用性」について考えます</p> <p>2 授業の形式  応答的な授業展開を心がけます。例えば、毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭でないしはリアクションペーパーを用いて行います。</p>				
授業の計画	<p>1 序 本科目の位置づけとねらい</p> <p>2 第Ⅰ部「教育原理」は必要？  第1章 教育の哲学・思想・歴史を学ぶことの意味について考える</p> <p>3 第2章 教育をどうとらえるか</p> <p>4 第Ⅱ部 西洋における学校教育の歴史と思想  第1章 学校教育の歴史と思想に踏み込むにあたって</p> <p>5 第2章 西洋における学校教育の歴史（その1） 学校体系の三類型</p> <p>6 第2章 西洋における学校教育の歴史（その2） 産業革命と近代学校の出発</p> <p>7 第2章 西洋における学校教育の歴史（その3） 国家と近代学校</p> <p>8 第2章 西洋における学校教育の歴史（その4） 新教育運動について</p> <p>9 第3章 近代教育の思想（その1） J. ロックの教育思想</p> <p>10 第3章 近代教育の思想（その2） ルソーの教育思想</p> <p>11 第3章 近代教育の思想（その3） デューイの教育思想</p> <p>12 第Ⅲ部 近代以降の日本における学校教育の歴史  第1章 近代学校制度の出発と展開</p> <p>13 第2章 大正期の学校教育</p> <p>14 第3章 戦時下の学校教育  第4章 戦後の学校教育</p> <p>15 まとめ 教育という経験と子どもと向き合うということ</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	プリントを読んでおく。			90分
	復習	プリントとノートしたことを読み返して理解を深める。関心と必要に応じて参考文献にあたる。			90分
授業の留意点	○授業のリアルな現実をとらえることを通して、なかなか言葉にできない教育の難しさや魅力の本質について考えてみて下さい ○新聞を読み、テレビのニュースをみることをお忘れなく ○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります（お楽しみに）				
学生に対する評価	毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに評価します（ミニレポート 21 点、試験 79 点、計 100 点）。				
教科書（購入必須）	使用しません。プリントを配布します。				
参考書（購入任意）	木村元 他 編著 (2020) 『アクティベート教育学 01 教育原理』 ミネルヴァ書房 山内清郎・原 清治・春日井敏之編著 (2020) 『新しい教職教育講座 教職教育編① 教育原論』 ミネルヴァ書房 貝塚茂樹・広岡義之編著 (2020) 『教育の歴史と思想』 ミネルヴァ書房 長谷川まゆ帆 (2007) 『世界史リブレット 89 女と男と子どもの近代』 山川出版社。				

科 目 名	教職概論		担当教員名	小西 二郎	
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学 習 到 達 目 標	受講生の皆さんが日本社会の変化との関わりで、教員の仕事、その意義をとらえるという視点から、しかも受講生の皆さん自身で自覚的に考察を深めていくとともに、教職を自らの進路とするかを強く考えるようになることです。				
授 業 の 概 要	<p>1 テーマ：社会にとって教職ってなんだろう、そしてそれは自分にとってなんだろう。考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学・高校の先生は仕事としてどんなことをやっているのか、その概略をおさえます</li> <li>○日本の社会は、この間、大きく変化し、それにもなって教職の意義もあらためて問われています—このことについて考察します</li> <li>○全体を通して、受講生の皆さんが、自らの進路として教職を選択するかを考える際の観点を獲得できるような内容となることを目指します</li> </ul> <p>2 授業の形式：応答的な授業展開を心掛けます。毎回授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を行います。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 序章 さあ、教員への第一歩です—この科目の位置づけとねらい・概要</p> <p>2 第1章 教員はどうみられているのだろうか？—教員に対するまなざし</p> <p>3 第2章 さて、わかりますか？ 教員の仕事の全貌</p> <p>第1節 教員の仕事の特徴</p> <p>第2節 学習指導</p> <p>第3節 生徒指導と学級経営</p> <p>第4節 校務分掌</p> <p>第5節 保護者や地域との連携</p> <p>第6節 まとめにかえて</p> <p>8 第3章 「チームとしての学校」について考えよう</p> <p>第1節 「チームとしての学校」導入の経緯</p> <p>第2節 「チームとしての学校」導入の背景・目的</p> <p>9 第3節 「チームとしての学校」の組織構造</p> <p>10 第4節 「チームとしての学校」—その光と影、そして今後の課題</p> <p>11 第4章 教員は、社会の中の組織の一員なのだ</p> <p>第1節 教員には、一定の規律に服する義務がある—服務と規律</p> <p>12 第2節 教員の身分保障と分限・懲戒—国立・公立学校の教員の場合</p> <p>13 第5章 教員は教育する人であり、そして研究する人なのだ</p> <p>第1節 教員研修をめぐる法と制度</p> <p>14 第2節 教員研修の種類</p> <p>15 まとめ あらためて教職の社会的意義や教員像について考えてみよう</p>				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 の 内 容 と 時 間	予習	プリントを読んでおく。			90 分
	復習	プリントやノートを読み返して理解を深める。関心と必要に応じて参考文献にあたる。			90 分
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童・生徒・学生の視点をこえて、教員としての視点を獲得することを心がけ、その視点から教育について考えるようにして下さい</li> <li>○新聞を読み、テレビのニュースをみて下さい</li> <li>○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります</li> </ul>				
学 生 に 対 す る 価 値	毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに評価します（ミニレポート 21 点、試験 79 点、計 100 点）。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	使用しません。プリントを配布します。				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	岩田康之・高野和子編(2012)『教職論』(教師教育テキストシリーズ2)学文社。 藤本典裕編著(2019)『新版(改訂2版) 教職入門—教師への道』図書文化。 佐久間亜紀・佐伯 胖編著(2019)『アクティベート教育学02 現代の教師論』ミネルヴァ書房。				



科 目 名	教育法概論		担当教員名	栞山 茂樹		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	教育法の主要事項・論点について専門的に理解し、論じられるようになる。					
授 業 の 概 要	<p>教育法とは、憲法・教育基本法・学校教育法等をはじめとする、教育に関する法の総体をいう。この法分野は戦後、新憲法・教育基本法体制のもとで新たに出発し、国の教育政策に対する抵抗運動を通じて発展を遂げた。その中で、教科書裁判など多くの重大な事件・争点が生み出されてきた。この授業では教育法の主要事項と、その代表的な論点について学ぶ。</p> <p>将来教師となる人々には、法を順守して職務に臨む良識を身につけてもらう。その他の進路にすすむ人々にとっても、学校教育の諸問題について見識を深める機会となるであろう。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 教育法とは何か</li> <li>3 教育法の歴史：明治憲法・教育勅語体制、日本国憲法・教育基本法体制、戦後教育法学の展開</li> <li>4 日本国憲法の教育規定：教育を受ける権利、義務教育、私学助成</li> <li>5 教育基本法：1946年教育基本法、2006年改正法</li> <li>6 学校教育法：学校制度</li> <li>7 地教行法：教育委員会、教育の地方分権化</li> <li>8 学校安全</li> <li>9 国際教育法と日本</li> <li>10 教育権論争</li> <li>11 教科書検定制度</li> <li>12 日の丸・君が代訴訟</li> <li>13 公立学校と政教分離</li> <li>14 校則と懲戒処分の事例①</li> <li>15 校則と懲戒処分の事例②</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定教科書・参考書を読む。			90分以上	
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関、裁判所等のWebサイトに目を通す。			90分以上	
授業の留意点	<p>私の他の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」のいずれとも関連がある。特に「子どもの権利」は併せて履修することを強く望む。</p> <p>授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p> <p>予習・復習としては、教科書・参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。法令や関連文書を読むことにも慣れてもらいたい。</p>					
学生に対する評価	期末試験(100%)					
教科書(購入必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015)</li> <li>そのほか追加資料を配布する。</li> </ul>					
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒牧重人ほか編『新基本法コンメンタール 教育関係法』(日本評論社、2015)</li> <li>・『季刊教育法』(エイデル研究所)</li> <li>そのほか参考文献を適宜紹介する。</li> </ul>					

科 目 名	教育心理学		担当教員名	未定		
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターなどにおいて心理臨床の実務経験を有する教員が、「教育」という営為に寄与する心理学的知見をもとに指導する科目					
学習到達目標	<p>テーマ：教育にかかわる心理学の理論や実践について学び、知識や応用力を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育にかかわる心理学についての知識や理論を学び、理解できる</li> <li>・教育にかかわる心理学についての知見を教育現場に応用できる力が身につけている</li> <li>・教師としての自覚と責任をもつことができる</li> </ul>					
授業の概要	<p>学習、神経発達症（知的能力障害・ASD・ADHD・SLDなどの発達障害）、モチベーション（動機づけ）、記憶、パーソナリティ（人格）など教育と関連の深い心理学的な領域について解説する。実際の教育相談事例などにもふれる。写真や図が主体のスライドと共に映画などの視聴覚教材や教育にかかわる優れた絵本などのビジュアルなコンテンツも織り交ぜながら講義を進める。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 記憶①：感覚記憶</li> <li>2 記憶②：ワーキングメモリー（作動記憶） 長期記憶</li> <li>3 記憶③：忘却 健忘 記憶術</li> <li>4 学習①：古典的条件づけ オペラント条件づけ 認知バイアス 間歇強化</li> <li>5 学習②：社会的学習（社会的認知）理論 正統的周辺参加 発達の最近接領域</li> <li>6 モチベーション①：進化心理学 動因低減説 動機づけ 統制の所在</li> <li>7 モチベーション②：学習性無力感 自己効力 原因帰属理論 アクティブ・ラーニング</li> <li>8 発達：発達理論 発生的認識論 漸成説</li> <li>9 知能①：知能理論 ビネー法知能検査</li> <li>10 知能②：ウェクスラー法知能検査 適性処遇交互作用（ATI）</li> <li>11 パーソナリティ①：類型論 特性論 Y-G性格検査</li> <li>12 パーソナリティ②：力動論（精神分析理論） エゴグラム検査</li> <li>13 神経発達症（発達障害）と特別支援教育①：知的能力障害 / 知的発達症 自閉スペクトラム症（ASD）</li> <li>14 神経発達症（発達障害）と特別支援教育②：限局性学習症（SLD） 注意欠如多動症（ADHD） 子ども虐待</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	<p>心理学的実験・演習も行うので積極的に参加してほしい。  配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理していただきたい。  予習はシラバスに沿って教科書で行い、復習は当日配布資料をもとに為されることが期待される。</p>					
学生に対する評価	<p>試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」にかかわるリアクションペーパーの作成・提出である。</p>					
教科書（購入必須）	<p>鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著 『やさしい教育心理学（第5版）』 有斐閣 2019年</p>					
参考書（購入任意）	<p>N・C・ベンソン 著（清水・大前 訳） 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス） 2001年</p>					

科 目 名	特別支援教育の基礎		担当教員名	矢口 明		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職：必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	教育職員免許法の改正に伴って、本講義が設定された経緯について理解する。インクルーシブ教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子どもの教育の在り方について理解する。障害についての基本的な理解や具体的な支援の方法について学ぶ。障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。感覚過敏などによって障害等のある子どもが感じている生きづらさ（偏食など）について理解する。					
授 業 の 概 要	(1) インクルーシブ教育を支える理念 (2) 障害等の理解と支援 (3) 家庭及び関係機関との連携 (4) 障害等のある子どもにかかわる教育や福祉の現状と課題 (5) 感覚過敏や感覚鈍磨 (6) 発達障害児の偏食、などについて学ぶ。					
授 業 の 計 画	1 特殊教育から特別支援教育へ転換の経緯 2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが目指すもの 3 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHDの児童生徒 4 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラムの児童生徒 5 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(3) 診断のない児童生徒 6 児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション 7 児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動 8 特別支援学級、通級指導教室の教育課程と個別の教育支援計画 9 特別支援学校の教育課程と自立活動の指導 10 就学に向けた相談支援体制と福祉制度 11 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制 12 家庭や地域と連携した支援体制の構築 13 関係機関と連携した支援体制の構築 14 発達障害児の偏食の原因とその理解 15 発達障害児の偏食への対応					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	各講義の終了後に配布するリアクションペーパーには、講義の感想やもっと知りたいことを書いて提出することになっているが、もっと知りたいと思ったことについては、次の講義までに自分でも考えてみることを。					
学 生 に 対 す る 価 値	リアクションペーパーにより、特別支援教育への関心の持ち方や講義内容の理解の状況を把握し、評価する。					
教 科 書 (購入必須)	なし					
参 考 書 (購入任意)	発達障害とはなにか (古荘純一著) 発達障害児の偏食改善マニュアル (山根希代子監修)					

科 目 名	教育課程論		担当教員名	河合 宣孝		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職：必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	1986年から2020年まで34年間、北海道立高校で教員（教頭職8年、校長職4年）の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義実践に努めている。学習指導要領と教育課程編成の学習においては、学校現場における教育課程編成の実際について体験的に学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントについて学校経営・学校運営の経験に基づく具体例を紹介しながら学びを展開していく。					
学習到達目標	① 教育課程に関する基本的事項やカリキュラム研究成果（理論）の学びを通して、教育課程・カリキュラムに関する知識を理解し、説明することができる。 ② 新しい学習指導要領の理念や改訂内容を把握し、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べるができる。 ③ 各学校における実際の教育課程表を読み取りその教育内容を考察するとともに、自らが担当する教科科目を教育課程に位置付けて教育内容を構想することができる。					
授業の概要	わが国の学校教育の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程・カリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、学校の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、新学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、これからの学校教育の展開とその課題を考察する。併せて法令を踏まえた教育課程の編成・実施の実際について学び、カリキュラム・マネジメントを通じて生徒に求められる資質・能力をいかにして身に付けさせるかについて考察する。 なお、授業ではペアワークやグループワーク及び輪読発表等を実施し、「主体的・対話的で深い学び」を体験しながら学修を進める。					
授業の計画	1 ガイダンス 教育課程の意義 2 教育課程編成の思想と構造 3 近代・現代日本の教育課程の歩み 4 教育課程の編成と諸要因 5 学習指導要領と教育課程編成の実際 6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 8 教育課程と評価 9 カリキュラム開発と学力向上策 10 国際学力調査の教育課程改革への影響 11 様々な教育課程の改革 12 新しい学習指導要領の検討（1）理念・キーワード 13 新しい学習指導要領の検討（2）改訂内容など 14 教育課程の現代的課題（カリキュラム・マネジメント等について） 15 講義のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	大学設置基準の定める時間数は2単位×45時間＝90時間となっています。授業時間外での学修時間は90時間－30時間＝60時間となります。このため予習・復習にそれぞれ30時間の学修を要しますので、各講の教科書の該当ページについて事前に読んで予習をして授業に臨んでください。			各講 2時間×15回＝30時間	
	復習	講義後に授業ノートや配布資料等を見直し、復習をしてください。			各講 2時間×15回＝30時間	
授業の留意点	・学校教育をめぐる動向や社会の動きに関心を持ち、教育課題解明のために教育課程をどのように編成・実施すべきか、つねに問題意識を持ちながら受講すること。 ・教科書を輪番で解説する演習を設けるので、その役割を果たすこと（割り当てやレポート作成方法などは最初の講義にて指示する）。					
学生に対する評価	■レポートや小テストなどの講義上の課題演習（30点） ■総括課題（30点） ■グループワークを含む授業への参加状況や輪読の発表成果（40点）					
教科書（購入必須）	古川治ほか編(2019)「改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論」北大路書房					
参考書（購入任意）	文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示） 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵（2018）「新しい時代の教育課程[第4版]」有斐閣					

科 目 名	総合的な探求の時間の指導法		担当教員名	松田 剛史		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職：必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間の意義と目標を理解することができる。</li> <li>教育活動としての効果的な総合的な学習の時間のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。</li> </ul>					
授業の概要	総合的な学習の時間の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際のかつ探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション ～総合的な学習の時間とは何か～</li> <li>総合的な学習の時間の教育的意義と目標</li> <li>総合的な学習の時間の実践の実際と留意点</li> <li>教育活動の評価とカリキュラム・マネジメント</li> <li>演習①～フィールドワークを準備する～</li> <li>演習②～フィールドワークを経験する～</li> <li>演習③～主体的で体験的な学習の指導を計画する～</li> <li>総合的な学習の時間という教育活動は何だったか</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。</li> <li>授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。</li> <li>授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。</li> <li>授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。</li> <li>講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については事前に履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散）</li> </ul>					
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動へ取り組むパフォーマンス(60点)</li> <li>レポートや各種学習成果に関する提出物(40点)</li> </ul>					
教科書 (購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> <li>関川悦雄、今泉朝雄 編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂 2019年</li> <li>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房 2018年</li> </ol>					
参考書 (購入任意)	適宜情報を提供する					

科 目 名	特別活動論		担当教員名	松田 剛史		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職：必修		資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の意義と目標を理解することができる。</li> <li>・教育活動としての効果的な特別活動のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。</li> </ul>					
授業の概要	特別活動の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際的かつ探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ～特別活動とは何か～</li> <li>2 特別活動の歴史の変遷</li> <li>3 特別活動の教育的意義と目標</li> <li>4 学級活動・ホームルーム活動の実践</li> <li>5 児童会・生徒会活動／クラブ活動／学校行事の実践</li> <li>6 演習①～指導計画を構想する～</li> <li>7 演習②～指導計画を作成する～</li> <li>8 特別活動という教育活動は何だったか</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。</li> <li>・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。</li> <li>・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。</li> <li>・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。</li> <li>・講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については事前に履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散）</li> </ul>					
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動へ取り組むパフォーマンス(60点)</li> <li>・レポートや各種学習成果に関する提出物(40点)</li> </ul>					
教科書 (購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関川悦雄、今泉朝雄 編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂 2019年</li> <li>2. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東山書房 2018年</li> </ol>					
参考書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜情報を提供する</li> </ul>					

科 目 名	教育方法・技術論（ICT活用の理論と実践を含む）		担当教員名	石川 貴彦	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>事物・事象を教育内容として構成し、授業で展開するための方法・技術を習得するとともに、ICTを活用した学習指導や情報活用能力の育成について理解する。また、ICTを用いたマイクロティーチング（模擬授業）を実践し、そこから得た学習履歴を用いてデータの可視化や分析を行うことで、自身の教育方法を客観的に捉え授業を改善していく力を身につける。</p>				
授 業 の 概 要	<p>教材研究、授業設計、学習評価、教育技術、ICT活用といった授業を構成するためのプロセスを項目ごとに学習し、教育方法および技術と、ICTを活用した教育に関する理論および方法を習得する。これらを踏まえてマイクロティーチングの相互実践を行い、データの可視化・分析を通じて指導力向上やICTの有効活用について検討する。なお、授業計画の各回に示した（方）は教育方法・技術、（I）はICT活用の理論と実践を表し、マイクロティーチングでは両方の要素が含まれる。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これからの子どもたちに求められる教育方法の在り方（方）、LMSの登録・使用方法（I）</li> <li>2 授業を構成する基礎的な要件、教材づくりの発想と工夫（方）</li> <li>3 学習目標と評価、観点別学習状況の評価に応じた授業設計（方）</li> <li>4 ICT活用の意義と理論、特別の支援を必要とする児童生徒に対するICT活用の留意点（I）</li> <li>5 教育技術、発問・板書の工夫、教材・教具の使い方（方）</li> <li>6 教師主導から子ども主体の授業へ、アクティブラーニングの考え方・実践（方）</li> <li>7 情報活用能力・情報モラルを育成するための指導法（I）</li> <li>8 学習指導案の書き方および作成（方）</li> <li>9 指導案に基づくデジタル教材の作成（I）</li> <li>10 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（栄養教諭）（方・I）</li> <li>11 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（高校公民）（方・I）</li> <li>12 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（高校福祉）（方・I）</li> <li>13 教育データの可視化・マイニングによる授業分析・授業改善（I）</li> <li>14 校務支援システムを活用した校務の推進、データ共有、セキュリティ（I）</li> <li>15 よりよい教育方法を目指して（方）、ICT活用における外部との連携・環境整備（I）</li> </ol>				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 の 内 容 と 時 間	予習	指導案作成や教材づくり、授業練習を行い、模擬授業に向けた準備を進める		90分	
	復習	講義内容を振り返り、自身の教育方法や教育技術に反映させる		90分	
授 業 の 留 意 点	<p>3年次の教科等指導法、4年次の教育実習を見据えて、受講者全員に1人8分程度の模擬授業を行ってもらおう。模擬授業の際は、指導案と教材の準備をしっかりと行い実践に臨むこと。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>マイクロティーチングの実践・相互評価（40点）、期末レポート（40点）、指導案作成（6点）、授業分析シート（7点）、授業評価のリフレクションシート（7点）</p>				
教 科 書 （購入必須）	<p>使用しない。授業中に資料を配布する。</p>				
参 考 書 （購入任意）	<p>食に関する指導の手引（第二次改訂版）（平成31年3月 文部科学省）          高等学校学習指導要領解説 公民編（平成30年7月 文部科学省）          高等学校学習指導要領解説 福祉編（平成30年7月 文部科学省）          自分が小・中学校・高校時に使用していた教科書・資料を用意すること</p>				

科目名	生徒指導論		担当教員名	佐藤 憲夫		
学年配当	3年	単位数	1単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修		資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	学校教育教員、社会教育主事の経験から、実際に教育現場でおこった出来事を例示しながら授業を展開していく。					
学習到達目標	<p>(到達目標)</p> <p>①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができる。</p> <p>②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができる。</p> <p>③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができる。</p> <p>④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができる。</p> <p>(テーマ)</p> <p>生徒指導の理論及び方法</p>					
授業の概要	生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為の対応など幅広い生徒指導の内容を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について学習を深める。教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 生徒指導とは何か 生徒指導の目的①ー目標と課題</li> <li>2 生徒指導の目的②ー発達観・指導観・新しい生徒指導の使命</li> <li>3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導</li> <li>4 生徒指導の組織と計画</li> <li>5 生徒指導の意義と機能</li> <li>6 生徒理解の内容</li> <li>7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導</li> <li>8 教育相談の理解と進め方</li> <li>9 適応と発達 防衛機制と適応障害</li> <li>10 問題行動①ー様相</li> <li>11 問題行動②ー種類と原因</li> <li>12 問題行動③ー処遇</li> <li>13 進路指導の目的と内容</li> <li>14 教育現場の実際にふれる（ケーススタディ）グループ協議と発表</li> <li>15 子どもたちの「生き抜く力を育てる教師」講義のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次時の学習内容について、生徒指導提要（改訂版）の該当部分を予習する。			45分	
	復習	授業の内容を整理し、ノートにまとめる。			45分	
授業の留意点	教師を志す者としてのスタンスをしっかりと持つ。自分が教師となったときの場面を想定し、指導者としての立場でどう行動することが必要であるのか考えを深めてほしい。講義の内容を自分自身の中高時代の行動や思考にスライドさせることも、理解の深化に結びつく。また、常に社会の動向を注視し、教育に関する情報アンテナを高く持つことが必要である。					
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期試験 85点</li> <li>2. リアクションペーパー 15点（授業の感想、課題提出など）</li> <li>3. 授業態度を加味する</li> </ol>					
教科書（購入必須）	授業ごとに資料を用意する。					
参考書（購入任意）	講義の中で適宜紹介する。生徒指導提要（改訂版）（文部科学省 令和4年12月）については、文科省のhpから閲覧できるので適宜活用すること。					



科 目 名	学校カウンセリング		担当教員名	大橋 毅士		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職：必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	生徒指導は学校のすべての教育活動を通して行われる機能であり、教育相談はその中核をなすものである。教育の目的は人格の完成をめざして行われ、そのために学校では生徒指導・教育相談を計画的組織的に行い児童生徒の理解を図るとともに、児童生徒の自己実現を図っていることを理解する。また、暴力やいじめ、不登校、児童生徒の自殺など今日の生徒指導上の問題や諸課題および発達障害や精神疾患・障害等についての理解を深めるとともに、心理療法(カウンセリングを含む)についての基礎的な知識と技能を学び、教育相談の進め方について理解する。					
授 業 の 概 要	教育相談の意義と目的、計画と組織的な取り組みについて理解する。また児童生徒の問題行動や生徒指導上の諸課題について考察する。さらに発達障害、児童期・思春期の精神疾患・障害について理解する。さまざまな心理療法(カウンセリング)についての考え方や技法を知る。本講義を通して実際の教育相談、生徒指導に当たる考え方や態度を身に付ける。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション/教育相談の意義と課題・教育相談の計画と校内体制の整備、組織的な取り組み</li> <li>2 生徒指導上の諸問題① 暴力、いじめ、自殺</li> <li>3 生徒指導上の諸問題② 不登校</li> <li>4 発達障害、児童期・思春期の精神疾患・障害① 神経発達症/神経発達障害</li> <li>5 発達障害、児童期・思春期の精神疾患・障害② 統合失調症、双極性障害、うつ病ほか</li> <li>6 発達障害、児童期・思春期の精神疾患・障害③ 心的外傷後ストレス障害ほか</li> <li>7 さまざまな心理療法① 精神力動論的アプローチ</li> <li>8 さまざまな心理療法② 認知行動論的アプローチ</li> <li>9 さまざまな心理療法③ 人間性アプローチ</li> <li>10 さまざまな心理療法④ 解決志向アプローチ1 自主的に来室したクライアント</li> <li>11 さまざまな心理療法④ 解決志向アプローチ2 不本意なクライアント</li> <li>12 さまざまな心理療法④ 解決志向アプローチ3 ペアのカウンセリング</li> <li>13 さまざまな心理療法④ 解決志向アプローチ4 こどものクライアント</li> <li>14 さまざまな心理療法④ 解決志向アプローチ5 危機的な状況のクライアント</li> <li>15 教育相談(学校カウンセリング)のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	講義内容を振り返り、ミニレポートを作成・提出する。				
	復習					
授 業 の 留 意 点	資料をもとに具体的な授業をめざす。カウンセリングの基礎的な知識や技能を身に付けるためのワークやロールプレイを行う。また、講義に関する質問や意見、感想などのミニレポートを課すとともにその内容を授業の中でフィードバックし、学生の理解を深める。そのため、毎回ミニレポートの提出を必須とする。					
学 生 に 対 す る 価 値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加態度 (30点)</li> <li>・ 授業への貢献 (ミニレポートの提出) (30点)</li> <li>・ 期末レポート (40点)</li> </ul>					
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。必要な資料はその都度配布する。					
参 考 書 (購 入 任 意)						

科 目 名	進路指導及びキャリア教育		担当教員名	小西 二郎		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開講形態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修		資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	○受講生の皆さんが、社会の変化との関わりでとらえるという見方で高校生の生活・ライフコースにアプローチしつつ、進路指導・キャリア教育について自覚的に考察するようになること。					
授業の概要	<p>1 テーマ：日本社会の変化と進路指導・キャリア教育 ○日本社会の変化との関わりで進路指導・キャリア教育をとらえ、その困難性と課題について検討します。</p> <p>2 授業の形式 ○応答的な授業展開を心がけます。例えば、毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭あるいはリアクション・ペーパーを用いて行います。</p>					
授業の計画	<p>1 序 本科目の位置づけとねらい</p> <p>2 第1章 進路指導・キャリア教育の現状と原理的困難性</p> <p>3 第2章 進路指導・キャリア教育の制度的枠組み</p> <p>4 第3章 進路指導・キャリア教育があるのはなぜか—ガイダンス、カウンセリングに着目して</p> <p>5 第4章 日本型企業中心社会の変化と青年の就労行動・ライフコース変容のインパクト</p> <p>6 第5章 進路指導・キャリア教育の内容・方法における留意点</p> <p>7 第6章 変動期にあつて教員はどういう観点・姿勢で進路指導・キャリア教育を行なうべきか</p> <p>8 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	プリントを読んでおく。			90分	
	復習	プリントやノートを読み返して理解を深める。関心と必要に応じて参考文献にあたる。			90分	
授業の留意点	<p>○高校生の生きづらさや将来に対する見通しの不透明さはどのようなものか、それらは日本社会の変化とどう関係しているのかについて考えるようにして下さい。</p> <p>○新聞を読み、テレビのニュースをみて下さい。</p> <p>○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります。</p>					
学生に対する評価	毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに評価します（ミニレポート21点、試験79点、計100点）。					
教科書（購入必須）	使用しません。プリントを配布します。					
参考書（購入任意）	<p>主な参考文献は以下の通りです。講義の中で、適宜、他の文献も紹介します。</p> <p>○春日井敏之・山岡雅博編著(2019)『新しい教職教育講座 教職教育編⑩ 生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房。</p> <p>○山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志(2014)『新しい時代の生活指導』（有斐閣アルマ）有斐閣。</p> <p>○林 尚志(2014)『生徒指導・進路指導』（新・教職課程シリーズ）一藝社。</p> <p>○仙崎 武他編(2000)『入門進路指導・相談』福村出版。</p> <p>○濱口 桂一郎(2013)『若者と労働—「入社」の仕組みから解きほぐす』（中公新書ラクレ）中央公論新社。</p>					

科 目 名	教育実習事前事後指導		担当教員名	小西 二郎・石川 貴彦		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(高公・高福)：必修		資 格 要 件	教職(高公・高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	これまでの教職課程の学びを学校現場で実践するための準備を十分行い、生徒や教師から様々なことを吸収できる体制を作ることができる。そして、教育実習の経験を踏まえて自ら成長できる教師を目指すために自己課題を設定し、その達成状況について内省することができる。					
授業の概要	教育実習において必要な事項を確認し各自の実習課題を明確にすることを目的として、事前指導で実習の取り組み方や授業方法について学習する。また、受講者に模擬授業を課し、指導案の流れや発問、板書技術などを検討する。そして、教育実習で得られた経験や学び、自らの今後の課題を受講者間で共有することを目的として事後報告会を開催し、各発表を通じて実習課題の達成状況について意見交換を行う。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習の目的と意義、自己課題の設定</li> <li>2 教育実習の内容と準備</li> <li>3 実習日誌の書き方</li> <li>4 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（1）</li> <li>5 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（2）</li> <li>6 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（3）</li> <li>7 教育実習後の意見交流（実習報告会）（1）</li> <li>8 教育実習後の意見交流（実習報告会）（2）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指導案作成や教材づくり、授業練習を行い、模擬授業に向けた準備を進める。			90分	
	復習	講義内容を振り返り、教育実習に向けての準備を進める。			90分	
授業の留意点	指導案作成と模擬授業の実践を事前指導で求めるので、予習を行い短時間で授業準備ができるようにしておくこと。そして、模擬授業で明らかになった課題を整理し、教育実習までに改善できるよう復習を行うこと。					
学生に対する評価	実習前の取組状況（指導案・教材作成、模擬授業）（50点）、教育実習事後レポートおよび実習報告（50点）					
教科書（購入必須）	教育実習の手引き（第7版）、学術図書出版社、2019年 教育実習日誌（第4版）、学術図書出版社、2019年					
参考書（購入任意）						

科 目 名	教育実習		担当教員名	小西 二郎・大坂 祐二・石川 貴彦	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(高公・高福)：必修	資 格 要 件	教職(高公・高福)：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学 習 到 達 目 標	高等学校の教育実習において、 ①大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる。 ②授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる。 ③実習全体を通じて自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりすることができる。				
授 業 の 概 要	教育の実際を学び、学級経営や授業などの教育実践ができる力を身につけることを目的として、各学校の実習担当教諭の指導のもと、観察・参加・授業実習を中心に生徒指導および教科指導に関する内容を実践する。				
授 業 の 計 画	1 教育実習（第1週） 実習校のプログラムによるが、概ね以下のような内容になる。 着任式、講話、学級経営、教材研究、授業観察 等 2 教育実習（第2週） 学級経営、生徒指導 教材研究、授業実習、研究授業、離任式 等				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教育実習における自己課題を設定し、教科指導や生徒指導、学級経営に対する準備を進める。			90分
	復習	実習から得た学びを振り返りながら自己課題の達成状況を評価し、翌日の実習につなげていく。			90分
授 業 の 留 意 点	実習校の担当学年や科目（公共、政治経済、倫理、福祉）、授業進度をあらかじめ確認し、担当範囲について予習しておくこと。担当教諭の指導や自己の反省を振り返り、ただちに実習に反映できるよう復習すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	教育実習評価表による学習指導、生活指導、実習態度の観点別評価（100点）。				
教 科 書 （購入必須）	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて各自準備しておくこと。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	教職実践演習（高）		担当教員名	大坂 祐二・石川 貴彦・小西 二郎	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(高公)：必修	資 格 要 件	教職(高公)：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学習到達目標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。				
授業の概要	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。				
授業の計画	1 教職論 教員の職務内容について振り返る 2 教職論 授業技術、教員の姿勢 3 教職論 生徒指導の現局面 4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由 5 学校経営 校務分掌と教職員の協働 6 学級経営 学級づくりの実践 7 教科指導 教材研究と指導案① 8 教科指導 教材研究と指導案② 9 教科指導 授業研究・模擬授業① 10 教科指導 授業研究・模擬授業② 11 生徒指導 ケーススタディ① 12 生徒指導 ケーススタディ② 13 生徒指導 ケーススタディ③ 14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携 15 教職論 教員の使命・責任―「教育における自由」に着目して考える				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各担当教員の指示による。			90 分
	復習	各担当教員の指示による。			90 分
授業の留意点	教育実習などの振り返りを生かして進める。				
学生に対する評価	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	特になし。				
参考書（購入任意）	各項目に応じて、適宜指示する。				

科 目 名	障害児教育学		担当教員名	矢口 明		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<p>障害者の権利に関する条約の批准に伴い、2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、福祉や教育は、大きな転換点が訪れている。2007年に特別支援教育が本格的に始まってから16年が経過し、障害のある子どもへの教育に対する考え方も変化してきている。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義と継承すべき視点について深く理解する。</p> <p>障害児教育を学ぶスタートラインとして、特別支援教育に関わる教員としての職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、特別支援学校教諭としてのキャリア意識を持つことができる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育が何を目標しているのかについて学び、これまで行われてきた障害児教育の歴史、特にわが国における歴史を、明治、大正、昭和にわたって学習するとともに、世界の動向について知る。また、わが国における優れた教育実践とその創意工夫から、現在の制度や教育実践を理解する。各障害の概要や障害のない子どもの発達を知り、障害や特性に応じた根拠のある支援の基本の理解を目指す。障害児教育の担い手として必要な知識・技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とすることができる。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 特殊教育から特別支援教育への転換</li> <li>2 障害児教育の歴史(1) 欧米における障害児教育の成立と展開</li> <li>3 障害児教育の歴史(2) わが国における明治期の障害児教育に尽くした人々</li> <li>4 障害児教育の歴史(3) わが国における大正期・昭和前期の障害児教育</li> <li>5 障害児教育の歴史(4) わが国における戦後の障害児教育</li> <li>6 障害児教育実践—先達に学ぶ</li> <li>7 世界の動向とインクルーシブ教育システム</li> <li>8 障害のある子どもの教育制度と就学支援</li> <li>9 特別支援教育と特別支援学校、特別支援学級</li> <li>10 ライフステージと教育(1) 出生から幼児期まで</li> <li>11 ライフステージと教育(2) 学童期から青年期まで</li> <li>12 個別の教育支援計画と個別の指導計画</li> <li>13 卒業後の就労に向けた支援</li> <li>14 交流及び共同学習とインクルーシブ教育システム</li> <li>15 関係機関との連携と特別支援教育</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	各講義の終了後に配布するリアクションペーパーには、講義の感想やもっと知りたいことを書いて提出することとしている。次の講義で質問やもっと知りたいことについて説明をする。					
学 生 に 対 す る 価 値	議論や質問に応じていく機会の多い授業となるため、授業の参加態度や議論の質等について、日常的にフィードバックする(50点)。これらの評価と理解度の確認(50点)と併せて、総合的に判断し、評価する。					
教 科 書 (購入必須)	資料を配布する。					
参 考 書 (購入任意)	橋場隆著「発達障がいの子へのかかわり」小学館					

科 目 名	知的障害心理・生理・病理		担当教員名	玉重 詠子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	言語聴覚士として病院での知的障害児への臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、知的障害の病理と心理アセスメントについて指導する科目である。					
学習到達目標	本講義の学習到達目標を以下の3点とする。 (1) 知的障害の目安となる基準を説明できる。 (2) 知的障害の目安に基づいたアセスメントの方法を説明できる。 (3) アセスメントに基づいた知的障害の特徴を理解し、知的障害教育の意義を考え、説明できる。					
授業の概要	特別支援教育の対象である知的障害の目安となる基準を理解した上で、知的障害のアセスメント方法についてより深く学習する。知的能力そのものの改善は困難であるため、知的障害教育の意義をどう捉えるかを考える。					
授業の計画	1 ガイダンス 知的障害とは 2 ダウン症候群(1) 知的障害教育の意義 3 ダウン症候群(2) 言語発達の特徴(中枢神経系の構造と機能を含む) 4 文献「遠城寺式乳幼児分析的発達検査法」を読み、整理する 5 知的障害の目安となる基準 知的障害の原因 6 知的障害のアセスメント(1) 適応能力検査 S-M 社会生活能力検査第3版：概要 7 知的障害のアセスメント(2) 適応能力検査 S-M 社会生活能力検査第3版：結果 8 知的障害のアセスメント(3) 発達検査 遠城寺式乳幼児分析的発達検査 9 知的障害のアセスメント(4) 知能検査 田中ビネー知能検査V：概要 10 知的障害のアセスメント(5) 知能検査 田中ビネー知能検査V：結果 11 知的障害のアセスメント(6) 認知機能検査 日本版 DN-CAS：理論(日本版 KABC-II と比較して) 12 知的障害のアセスメント(7) 認知機能検査 日本版 DN-CAS：概要(「方略の評価」を中心に) 13 知的障害のアセスメント(8) 認知機能検査 日本版 DN-CAS：結果 14 知的障害のアセスメント(9) 認知機能検査 日本版 DN-CAS：支援 15 知的障害児の言語発達と支援 特別支援学校での実践例					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	すでに学習した検査法について復習すること。事前配布した資料を読んでおくこと。			90分	
	復習	教育実習の準備として、各検査法についてまとめること。			90分	
授業の留意点	特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、知的障害教育を念頭に置いて理解を深めることが望ましい。 受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。 対面授業での実施を予定しているが、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性がある。					
学生に対する評価	講義内課題(30点)、定期試験(70点)により評価する。 ※状況により、定期試験を成績評価レポート(70点)に変更する可能性がある。					
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。					
参考書(購入任意)	向後利明(監修)『知的障害の子どものできることを伸ばそう!』日東書院 前川久男ほか(訳)『DN-CASによる子どもの学習支援 -PASS理論を指導に活かす49のアイデア-』日本文化科学社					

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理		担当教員名	中澤 幸子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由による発達への影響について説明できる。</li> <li>・ 肢体不自由者の心理・生理・病理に関連する障害特性を理解し、当事者や家族への支援方法について考えることができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	人間の身体の仕組み、運動発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由者の教育において出会うことの多い疾患の特性について、病理学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援について学習します。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 肢体不自由とは</li> <li>2 人間の身体の仕組み</li> <li>3 運動の発達</li> <li>4 肢体不自由が発達に与える影響</li> <li>5 肢体不自由者の障害特性</li> <li>6 脳性まひの理解</li> <li>7 二分脊椎の理解</li> <li>8 筋ジストロフィーの理解</li> <li>9 ペルテス病・骨系統疾患の理解</li> <li>10 手足の先天奇形・関節拘縮症の理解</li> <li>11 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解</li> <li>12 肢体不自由者のリハビリテーション</li> <li>13 肢体不自由者のスポーツ</li> <li>14 肢体不自由者と家族の支援</li> <li>15 まとめ / 肢体不自由者を支援する際に大切なこととは</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関連する難解語句について調べ、理解を図っておく。教科書の関係する箇所を読み込む。課題発表の際には、事前準備を行う。			90分	
	復習	授業時に提示された課題がある場合には、その課題に取り組む。全ての授業内容について、授業で使用したプリント・教科書の内容をノートに整理し、知識の定着を図る。			90分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状にかかわる講義ですので、他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、発達障害等）などについても、理解を図っておいてください。					
学 生 に 対 す る 評 価	授業課題の取組状況（30点）、授業の参加状況及び振り返りレポート（30点）、最終課題レポート（40点）として、総合点に評価します。					
教 科 書 (購入必須)	肢体不自由児の医療・療育・教育 金芳堂 ISBN 978-4-7653-1628-6 その他、適宜、資料・視聴覚教材を使用します。					
参 考 書 (購入任意)	講義内で紹介します。					



科目名	病弱心理・生理・病理		担当教員名	中澤 幸子・下村 遼太郎		
学年配当	3年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資格要件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験、医療機関における医師としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。</li> <li>・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。</li> <li>・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。</li> </ul>					
授業の概要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち (中澤担当)</li> <li>2 健康、病気、障害の概念 (中澤担当)</li> <li>3 病気・障害の受容とセルフケア (中澤担当)</li> <li>4 病弱者・障害者の心理的特性 (中澤担当)</li> <li>5 病弱者・障害者と家族の支援 (中澤担当)</li> <li>6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 (中澤担当)</li> <li>7 小児期の慢性疾患Ⅰ (ぜんそく・アレルギー等) (下村担当)</li> <li>8 小児期の慢性疾患Ⅱ (腎臓病・心臓病等) (下村担当)</li> <li>9 小児期の慢性疾患Ⅲ (糖尿病等) (下村担当)</li> <li>10 悪性腫瘍 (小児ガン、脳腫瘍等) (下村担当)</li> <li>11 進行性筋ジストロフィー (下村担当)</li> <li>12 てんかん、血友病、その他の疾患 (下村担当)</li> <li>13 心身症・精神疾患 (下村担当)</li> <li>14 病弱者の支援における今日的課題 (中澤担当)</li> <li>15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと (中澤担当)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図る。			90分	
	復習	授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組む。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ、授業内で提示された参考文献等を参考にし、ノートを整理し、知識の定着を図る。			90分	
授業の留意点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害(知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害、等)についても理解を深めておきましょう。					
学生に対する評価	下村授業担当分 50点(評価方法の詳細は、授業開始に確認)、中澤担当授業分 50点(授業のまとめシート 15点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 15点、課題レポート 20点)、として、2名の教員の総合点(満点は100点)によって評価します。					
教科書(購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。					
参考書(購入任意)	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著：特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理 ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623061532					

科 目 名	障害児教育課程論		担当教員名	矢口 明		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>特別支援学校の教育課程について概要とその重要性を理解する。          特別支援学校の学習指導要領の変遷を概観し、特別支援学校学習指導要領の改定ポイントについて理解する。          特別支援学校に特有の領域である自立活動について理解を深めることや、重複障害者等への教育課程の特例について理解する。</p>					
授業の概要	<p>視覚障害教育や聴覚障害教育から始まった「特殊教育」の時代から、現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通し、特別支援教育の理念を十分に理解しながら、知的障害の障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、改訂された学習指導要領に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と作成の際の留意点等について理解する。特別支援教育の特徴である自立活動について、実態把握から指導計画の作成までの流れを学ぶ。特別支援学校の見学を通して、特別支援教育の現状を理解する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害とは（イントロダクション）</li> <li>2 特別支援学校の教育課程①</li> <li>3 特別支援学校の教育課程①</li> <li>4 特別支援学校や特別支援学級の現状と課題①</li> <li>5 特別支援学校や特別支援学級の現状と課題②</li> <li>6 学習指導要領改訂の変遷と意義</li> <li>7 養護・訓練から自立活動への変遷の経緯と具体的な指導内容</li> <li>8 改訂学習指導要領のポイント①</li> <li>9 改訂学習指導要領のポイント②</li> <li>10 各教科等を合わせた指導</li> <li>11 重複障害者等に関する教育課程の取り扱い</li> <li>12 見学する特別支援学校の特色と教育課程</li> <li>13 特別支援学校の見学①（小中高等部設置校）</li> <li>14 特別支援学校の見学②（高等部単独設置校）</li> <li>15 特別支援学校の見学③（重複障害児在籍校）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	<p>特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義であるため、知的障害以外の障害に関する学びとを関連付けながら、教育課程に関する理解を深めていくことが望ましい。講義内容については、特別支援学校学習指導要領解説で確認すること。</p>					
学生に対する評価	<p>議論参加や質問への対応などの自発的な学習の深化（30点）、レポート（70点）で評価する。</p>					
教科書（購入必須）	<p>文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編          文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	障害児教育方法論		担当教員名	矢口 明		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修	
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	知的障害児の実態把握の具体的な方法についての理解を深め、適切な行動を獲得していくことや不適切な行動を減少させていく方法について理解する。指導の効果を評価→改善していくプロセス(Plan-Do-Check-Action)の意義について理解を深める。応用行動分析に基づいた行動の理解や課題分析のプロセスについての基本を理解する。					
授 業 の 概 要	知的障害や発達障害、自閉スペクトラム症は、認知、コミュニケーション、社会性、行動の調整などの困難な状態が、継続しているものである。したがって、その教育や対応は、それぞれの発達の背景と機序を理解することから、具体的な指導法を導くところにあるといえる。障害の特性の評価を行うアセスメントから指導計画の作成、指導方法の検討と指導、評価を行っていく一連のプロセスについて理解する。視覚情報を活用した教材作成を通して、教材の果たす役割を理解する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害教育がめざす自立とは(イントロダクション)</li> <li>2 行動観察とアセスメント</li> <li>3 支援ツールの開発と利用</li> <li>4 応用行動分析による行動の理解</li> <li>5 自発的行動を高めるための支援</li> <li>6 家庭や地域と連携した支援</li> <li>7 主体的活動を促す支援とツール</li> <li>8 コミュニケーションの発達と支援</li> <li>9 社会性の発達と支援</li> <li>10 知的障害と認知処理過程</li> <li>11 発達障害の理解と支援</li> <li>12 自閉スペクトラム症の理解</li> <li>13 自閉スペクトラム症児者への支援</li> <li>14 視覚情報を活用した教材の作成</li> <li>15 視覚情報を活用した教材について協議</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、他の障害領域の学びを慣例づけながら理解を深めていくことが望ましい。					
学 生 対 する 評 価	講義への参加態度(20点)、質問への対応、議論の質などの自発的な学習の深化(40点)、作成した教材(40点)を総合的に判断して評価する。					
教 科 書 (購入必須)	特に指定しない。資料は適宜配布する。					
参 考 書 (購入任意)	古荘純一著「発達障害とは何か」朝日新聞出版					

科 目 名	肢体不自由者教育課程論		担当教員名	中澤 幸子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭、心理臨床の実務経験を基に、肢体不自由教育の現場経験で得られた知見を活用した実践的な講義内容。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由児教育の歴史の変遷について知り、主な対象児の障害特性や配慮事項等について説明することができる。</li> <li>・ 肢体不自由教育の教育内容・方法、教育課程の基本及び授業づくりの基本的視点について説明できる。</li> <li>・ 肢体不自由教育に必要な専門性について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	肢体不自由教育の歴史、肢体不自由教育の制度、教育的意義について理解を図ります。また、肢体不自由児教育の対象である障害の基礎的特性について学ぶとともに、肢体不自由教育の教育課程、指導方法、配慮事項等についても、実践例等を通して学びます。これらの授業を通して、肢体不自由者の教育において必要な教員の専門性とは何か、について考えていきます。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 肢体不自由の定義</li> <li>2 肢体不自由教育の歴史と現状</li> <li>3 肢体不自由教育の制度と肢体不自由教育</li> <li>4 肢体不自由教育の教育課程（教育課程編成の特徴）</li> <li>5 個別の教育支援計画・指導計画の作成</li> <li>6 肢体不自由教育の内容と指導法① 自立活動</li> <li>7 肢体不自由教育の内容と指導法② 身体の動き</li> <li>8 肢体不自由教育の内容と指導法③ コミュニケーションの指導</li> <li>9 肢体不自由教育の内容と指導法④ 各教科の指導</li> <li>10 肢体不自由教育の内容と指導法⑤ 体育等の指導</li> <li>11 肢体不自由教育の内容と指導法⑥ 重度・重複障害者の特性と配慮</li> <li>12 肢体不自由教育の内容と指導法⑦ 重度・重複障害者の指導計画と実際の指導</li> <li>13 肢体不自由教育の内容と指導法⑧ キャリア教育・進路指導</li> <li>14 肢体不自由教育における新しい取り組みと課題</li> <li>15 まとめ / 肢体不自由教育における専門性</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業に関連する特別支援教育の基本的な用語や知識について整理し、理解をしておく。			90 分	
	復習	授業課題が出された時には、その課題に取り組む。全ての授業内容について、配布されたプリントや教科書を活用してノートにまとめ、知識の定着を図る。			90 分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のために必要な必須の講義です。他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害等）の教育課程、指導法、心理学・生理学・病理学的知見等についても理解を深めておいてください。					
学 生 に 対 す る 評 価	振り返りレポート（30 点）、授業への参加状況及び課題の取組状況（40 点）、課題レポート（30 点）とし、総合点に評価します。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援学校幼稚園教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）</li> </ul> その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します。					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080（ISBN）</li> </ul> その他、講義内で適宜紹介します。					

科 目 名	肢体不自由教育演習		担当教員名	中澤 幸子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭、心理臨床等の実務経験を基に、肢体不自由教育における現場経験の中で得られた知見を活用した実践的な演習形式の授業内容。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由教育の現状の課題について問題意識をもつことができる。</li> <li>・ 特別支援学校（肢体不自由）の学習指導要領や個別の教育支援計画・個別の指導計画について理解し、幼児児童生徒の実態に合わせた授業づくりができる。</li> <li>・ 肢体不自由者の実態に合わせた学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	<p>肢体不自由教育の現状について文献研究を行い、問題意識を高めます。そのうえで、学習指導要領の理解を図り、特別支援学校の授業づくりの根拠となる「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について、さらに特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の中核にある「自立活動」との関係学びます。そして、学習指導案の作成や授業方法・内容について、模擬授業と授業研究を通して体験的に学びます。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 授業の進め方</li> <li>2 肢体不自由教育に関する文献検索の方法と実際</li> <li>3 肢体不自由教育に関する文献検索の報告</li> <li>4 肢体不自由教育に関する文献研究の実際① レポートのまとめ方及び課題設定</li> <li>5 肢体不自由教育に関する文献研究の実際② 文献検索及び文献研究レポートの作成</li> <li>6 肢体不自由教育に関する文献研究の実際③ 発表資料の作成</li> <li>7 肢体不自由教育に関する文献研究の実際④ 文献研究レポートの報告</li> <li>8 学習指導要領の理解① 肢体不自由の教育課程について</li> <li>9 学習指導要領の理解② 自立活動の目標及び内容について</li> <li>10 学習指導要領の理解③ 個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係</li> <li>11 学習指導案の作成方法</li> <li>12 学習指導案の作成と模擬授業の準備</li> <li>13 模擬授業演習①（振り返り、評価）</li> <li>14 模擬授業演習②（振り返り、評価）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関連する特別支援教育、肢体不自由教育に関する知識を整理する。研究レポートの作成・報告会資料・模擬授業の事前準備等を行う。			135分	
	復習	授業内で提示された課題について、取り組む。全ての授業後に、授業内で使用した資料や配布物の内容をノートにまとめ、知識・技術の定着を図る。			45分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許に関わる講義です。他の障害（知的障害、病弱、聴覚障害、視覚障害、発達障害等）の教育課程・指導法についても理解を深めることが望ましい。					
学 生 対 する 評 価	課題への取り組み状況（30点）、レポート発表・模擬授業（50点）、レポート（20点）とし、総合点で評価します。					
教 科 書 (購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。					
参 考 書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080 (ISBN)</li> <li>・ 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）</li> </ul> <p>その他、講義内で紹介します。</p>					

科 目 名	病弱教育学		担当教員名	中澤 幸子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭、心理臨床等の実務経験を踏まえ、実際に病弱教育の中で出会う可能性のある事例等にふれながら教職理解に関する実践的で専門性の高い指導を行う。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱教育の概要、病弱児の教育的ニーズ及び指導する際に必要な配慮事項等について説明することができる。</li> <li>・病弱教育に求められる専門性について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。</li> </ul>					
授業の概要	病弱教育の歴史を通して、病弱教育が果たしてきた役割、病弱教育の意義、ニーズや課題について学習をします。また、病弱教育の対象としている主な疾患とその特徴について理解を図ります。さらに、病気の子どもに対する教育において実際に行われている支援内容や指導方法、配慮事項等についても学びます。このような授業を通して、病弱教育に携わる教員に必要な専門性とは何か、を考えていきます。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 病気とは</li> <li>2 病気の子どもの教育</li> <li>3 病気の子どもの多様な学び場</li> <li>4 学習指導要領を踏まえた指導① 特別支援学校学習指導要領の概要</li> <li>5 学習指導要領を踏まえた指導② 病気の状態に応じた指導の工夫と合理的配慮</li> <li>6 各校における指導事例① 特別支援学校における指導内容・方法</li> <li>7 各校における指導事例② 小・中学校等の特別支援学級における指導内容・方法</li> <li>8 各校における指導事例③ 特別支援学校におけるセンター的機能</li> <li>9 病気等の必要に応じた指導と配慮事項① ～悪性新生物、神経筋疾患、呼吸器疾患～</li> <li>10 病気等の必要に応じた指導と配慮② ～骨・関節系疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患～</li> <li>11 病気等の必要に応じた指導と配慮③ ～腎疾患、循環器系疾患、てんかん～</li> <li>12 病気等の必要に応じた指導と配慮④ ～心身症及び精神疾患～</li> <li>13 病気等の必要に応じた指導と配慮⑤ ～重症心身障害、医療的ケアが必要な子ども～</li> <li>14 病気等の必要に応じた指導と配慮⑥ ～ターミナル期にある子ども～</li> <li>15 まとめ / 病弱教育における専門性</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業に関連する教科書の内容を読み込む。課題発表の際には、事前準備を行う。			90分	
	復習	授業課題が出された時には、まずはその課題に取り組むこと。全ての授業内容について、配布されたプリントや教科書を活用してノートにまとめ、病弱教育についての知識・理解の定着を図る。			90分	
授業の留意点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。その他の障害（知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法についても理解を深めておいてください。					
学生に対する評価	授業振り返りレポート（30）、授業の参加状況及び課題への取り組み状況（30点）、課題レポート（40点）として、総合点で評価します。					
教科書（購入必須）	特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものための教育必携 ジアース教育新社 ISBN 978-4-86371-520-2 その他適宜、資料・視聴覚教材を使用します					
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080 (ISBN)</li> <li>・特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）</li> </ul>					

科 目 名	視覚障害教育総論		担当教員名	外山 正一		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>本講義では、視覚障害の概要、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法・評価法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに、視覚に障害がある児童生徒の自立と社会参加に向け、特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害の概要を視覚器の構造・視機能の観点から指摘できる。また、児童生徒の眼疾患に関する健康管理や教育的配慮について説明できる。</li> <li>2. 特別支援教育における視覚障害の状況を理解し、近代視覚障害教育の成立から現在までの視覚障害教育変遷の過程を説明できる。</li> <li>3. 特別支援教育の制度の概要を理解し、視覚障害教育の制度上の特徴について説明できる。</li> <li>4. 学習指導要領の概要を理解し、視覚障害教育における教育課程、指導計画、指導内容、指導方法、評価方法の特徴及び指導上の配慮事項について説明できる。</li> </ol>					
授業の概要	<p>本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材等を使用しながら授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害の概要及び視覚管理</li> <li>2. 視覚障害教育の歴史及び制度</li> <li>3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画</li> <li>4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法及び評価法</li> </ol>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特別支援教育における視覚障害教育 特別支援教育の概要 特別支援学校（視覚）及び特別支援学級の概要 通級による指導 重複障害教育 特別支援学校のセンター的役割 視覚障害児童生徒の就学と合理的配慮</li> <li>2 視覚障害教育の歴史 近代視覚障害教育の成立 日本訓盲点字の完成 盲学校及び聾学校令 聾学校及び養護学校の義務制実施 特別支援教育への転換と北海道の特別支援教育</li> <li>3 視覚障害の概要と視覚管理 視覚障害の定義 視覚器の構造と視覚障害 視機能と視覚障害 眼疾患と教育的配慮</li> <li>4 視覚障害教育における教育課程と指導計画 教育課程の意義 教育課程の編成と指導計画の作成 特別支援学校（視覚）における教育課程の特徴 視覚障害教育における自立活動の内容 個別の指導計画と教育支援計画</li> <li>5 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅰ（盲児の指導） 盲児の触知覚の特性 点字の読み書きの指導 空間概念の指導 言葉と事物・事象の対応の指導 歩行の指導 盲教育の教材教具 盲教育における指導上の配慮事項</li> <li>6 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅱ（弱視児の指導） 弱視児の視知覚の特性 弱視教育の教材教具 弱視教育における指導上の配慮事項 使用文字と弱視レンズの選定</li> <li>7 視覚障害乳幼児の発達と支援及び視覚障害教育における評価法 視覚障害児の発達を規定する要因と発達の特徴 視覚障害児のアセスメントの基本 視覚障害児のアセスメントの方法及び記録</li> <li>8 視覚障害教育における自立活動</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	<p>授業前にシラバスを参考にテキスト及び参考書の関係部分を学習し、課題意識を持って授業に臨むことを期待する。又、毎回授業後に当該授業に関する演習課題を提示するので、復習に活用し学習内容の定着を図ることを期待する。</p>					
学生に対する評価	<p>講義の態度、提示課題の取り組み状況、レポートの結果等を総合的に判断して評価する。レポート評価の基準は60点未満は不可、60点以上70点未満はC、70点以上80点未満はB、80点以上90点未満はA、90点以上はSとする。</p>					
教科書（購入必須）	<p>書名：「視覚障害教育入門」 青柳まゆみ 鳥山由子 編著（2018） 発行所：ジアース教育新社（本体1,800円）</p>					
参考書（購入任意）	<p>書名：「五訂版 視覚障害教育に携わる方のために」 香川邦生 編著 発行所：慶応義塾大学出版会（本体3,000円）</p>					

科 目 名	聴覚障害教育総論		担当教員名	玉重 詠子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	聴覚領域担当の言語聴覚士として病院・更生相談所で20年以上臨床経験を持つ教員が、聴覚の病理・補聴・言語指導・福祉制度について指導する科目である。					
学習到達目標	<p>聴覚障害児教育について、以下の4点を学習到達目標とする。</p> <p>(1) 聴覚の評価方法を説明できる。</p> <p>(2) 補聴について説明できる。</p> <p>(3) 聴覚障害領域における福祉制度を説明できる。</p> <p>(4) 聴覚障害教育の主な指導法を説明できる。</p>					
授業の概要	特別支援教育の対象である聴覚障害について学習する。聴覚障害教育の方法を理解するために、聴覚の評価方法と定型発達児の聴こえのレベルについて学習し、障害程度と福祉制度について理解する。さらに補聴について学ぶことで、聴覚障害児への支援方法について独自の工夫を考えられるようになる。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス きこえのしくみ</li> <li>2 聴覚障害の評価(1) 純音聴力検査</li> <li>3 聴覚障害の評価(2) 語音聴力検査</li> <li>4 聴覚障害児の言語指導(文献講読)</li> <li>5 難聴の種類 福祉制度</li> <li>6 補聴(1) 補聴器の種類 補聴器のしくみ</li> <li>7 補聴(2) 補聴器の調整 人工内耳のしくみ</li> <li>8 聴覚障害教育の歴史と指導法</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前配布する資料に目を通し、専門用語を調べておくこと。			90分	
	復習	聴覚の評価法のまとめを作成し、福祉制度、補聴などの回にも復習すること。			90分	
授業の留意点	<p>耳の聴こえづらさが発達や日常生活に及ぼす影響について考えながら受講してほしい。</p> <p>聴覚の評価法(純音聴力検査・語音聴力検査)は、福祉制度の利用や補聴(補聴器、人工内耳)の処方と関係する。学習したことを関連付けて理解してほしい。</p> <p>対面授業での実施を予定しているが、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性がある。</p>					
学生に対する評価	<p>講義内課題 30点、定期試験 70点</p> <p>※状況により、定期試験を成績評価レポート(70点)に変更する可能性がある。</p>					
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。					
参考書(購入任意)						



科 目 名	障害児の病理と心理 I		担当教員名	玉重 詠子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、言語病理学的視点から言語障害のアセスメントについて指導する科目である。					
学習到達目標	<p>本講義の学習到達目標を以下の3点とする。</p> <p>(1) 言語発達の阻害要因を説明できる。</p> <p>(2) 言語障害に関わる代表的な検査について説明できる。</p> <p>(3) 障害種別による言語発達の支援目標の違いを説明できる。</p>					
授業の概要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。特別支援教育の中でことばの指導を効果的に行うことを目的に、本講義では、構音障害と言語発達遅滞の評価と支援の基礎について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 言語にかかわる障害の種類</li> <li>2 日本語音韻の理解(1) 音韻の産生</li> <li>3 日本語音韻の理解(2) 弁別素性</li> <li>4 構音の発達と構音障害</li> <li>5 構音検査(1) 検査の概要</li> <li>6 構音検査(2) 結果のまとめと解釈</li> <li>7 構音指導(機能性構音障害事例)</li> <li>8 文献「絵画語い発達検査」を読み、整理する</li> <li>9 言語の発達(1) コミュニケーションの発達</li> <li>10 言語の発達(2) 語彙・文法の獲得</li> <li>11 言語発達の阻害要因 言語発達評価の基本的な流れ</li> <li>12 語彙発達の評価 絵画語い発達検査(PVT-R)の概要</li> <li>13 言語発達の評価(1) 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の概要</li> <li>14 言語発達の評価(2) 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の発達段階(段階1~2)</li> <li>15 言語発達の評価(3) 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の発達段階(段階3~5)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前配布する資料に目を通し、専門用語を調べておくこと。			90分	
	復習	講義後は検査法について復習し、各アセスメントのポイントをまとめておくこと。			90分	
授業の留意点	<p>自らの構音の仕方を内省し、児童への構音指導をイメージすることが望ましい。また、語彙の獲得についての経験を思い出し、効率的な語彙獲得を考察してほしい。自分の考えを根拠をもって他者へ伝えられるように努力してほしい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。</p> <p>対面授業での実施を予定しているが、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性がある。</p>					
学生に対する評価	授業内課題40点、定期試験60点により評価する。 ※状況により、定期試験を成績評価レポート(60点)に変更する可能性がある。					
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。					
参考書(購入任意)						

科 目 名	障害児の病理と心理Ⅱ		担当教員名	玉重詠子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、障害児の支援法について指導する科目である。					
学習到達目標	<p>本講義の学習到達目標を以下の4点とする。</p> <p>(1) 言語発達の阻害要因を理解し、支援に応用できる。</p> <p>(2) 障害の特性(知的障害・自閉症スペクトラム障害)を理解し、説明できる。</p> <p>(3) 知的機能の評価方法を説明できる。</p> <p>(4) 言語発達検査の結果を解釈し、言語発達段階に応じた支援計画を作成できる。</p>					
授業の概要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、「障害児の病理と心理Ⅰ」で学んだ言語評価法を基礎に、代表的な知能検査の活用について学ぶ。特別支援教育の中でことばの指導を効果的に行うことを目的に、障害特性を理解した上での言語発達障害への具体的な支援方法について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 言語発達の阻害要因</li> <li>2 自閉症(1) 自閉症児の言語行動</li> <li>3 自閉症(2) 自閉症児の言語指導</li> <li>4 知能研究の歴史</li> <li>5 知的機能の評価(1) 田中ビネー知能検査V：概要(改訂版鈴木ビネー知能検査法と比較して)</li> <li>6 知的機能の評価(2) 田中ビネー知能検査V：結果の整理</li> <li>7 知的機能の評価(3) 知能検査のまとめ</li> <li>8 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の復習</li> <li>9 言語発達遅滞児の支援(1) 指導の種類を選択する 指導前の事例の様子を整理する</li> <li>10 言語発達遅滞児の支援(2) 文献講読「ひらがな指導」</li> <li>11 言語発達遅滞児の支援(3) 指導目標と指導期間を設定する 具体的指導を計画する</li> <li>12 言語発達遅滞児の支援(4) 事例解説・文献解説</li> <li>13 言語発達遅滞児の支援(5) 言語指導の実際・まとめ</li> <li>14 知的機能の評価(4) 認知機能検査 日本版DN-CAS：理論</li> <li>15 知的機能の評価(5) 認知機能検査 日本版DN-CAS：概要</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	前期授業で学習した国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査を復習し、論理的支援内容・方法を計画する準備をすること。			90分	
	復習	各回の要点をまとめること。各検査法については、概要をまとめること。			90分	
授業の留意点	特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、障害児教育実習を念頭において理解を深めることが望ましい。本講義で学習する知的機能検査の内容と関連付けた論理的な支援内容・方法を積極的に考えてほしい。 受講者の関心や理解のようす、状況等の変化により順番を変更することがある。 対面授業での実施を予定しているが、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性がある。					
学生に対する評価	講義内課題 40点、定期試験 60点 ※状況により、定期試験を成績評価レポート(60点)に変更する可能性がある。					
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配付する。					
参考書(購入任意)	東田直樹(著) 『自閉症の僕が跳びはねる理由』 角川文庫					

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導		担当教員名	矢口 明		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	教育実習は、障害児の教育に関して具体的実践的に学ぶ重要な場となる。事前指導と事後指導を通じて、対象児の理解に基づいた指導を実践し、評価していくための手続きと方法を具体的に学ぶ。実習の反省を十分にいかして、特別支援教育の専門家としての自覚を持つ。					
授 業 の 概 要	事前指導では、過去の教育実習の研究授業の様子を視聴し、授業の進め方について学ぶ。合わせて学習指導案の書き方について学ぶ。 事後指導では、研究授業の録画を視聴しながら、指導の在り方についての協議を通して課題を明らかにする。実習報告会では、教育実習で得たことをまとめて報告する。					
授 業 の 計 画	<p>〈事前指導〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 過去の研究授業視聴</li> <li>3. 学習指導案の作成</li> <li>4. 模擬授業</li> </ol> <p>〈事後指導〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習反省</li> <li>2. グループ協議</li> <li>3. 報告会資料作成</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。					
学 生 に 対 す る 価 値	講義への参加態度（20点）、学習指導案の評価（20点）、実習報告会（20点）、学習支援や模擬授業等の実践活動（40点）を総合的に判断して評価する。					
教 科 書 (購入必須)	教育実習日誌（第3版）、学術図書出版社、2011年 教育実習日誌をもとに、資料、DVDなどの教材を活用する。					
参 考 書 (購入任意)						

科 目 名	障害児教育実習		担当教員名	矢口 明		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	障がいのある子どもたちが在籍している特別支援学校において実習を行う。現場の実習指導教諭の指導のもと、授業参観や児童生徒への授業を行うことなどをおして特別支援学校の教育の現状にふれることにより、特別支援学校教諭にとって必要不可欠な「子どもたちの障がい(特性)理解」や「障がいに応じた適切な関わり」について学ぶ。授業実践を通してチームティーチングの在り方について学ぶ。					
学習到達目標	障害のある児童生徒の教育においては、障害に関する理解や一人一人の児童生徒に応じた働きかけなど、高い実践的指導力が求められている。障害児教育実習では、社会福祉学の学びや特別支援教育に関する学びを基盤として児童生徒への指導を行い、特別支援学校教諭として必要なことを理解する。					
授業の概要	教育実習は、北海道内の特別支援学校で行うこととし、特別支援学校の教員として必要な知識・技能・態度に関する実践的能力を培う。					
授業の計画	各実習先の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に実習する。 1. 教育講話の聴講 2. 学習場面・生活場面の観察 3. 学習場面・生活場面の部分的指導 4. 授業計画の作成 5. 教材研究 6. 授業の実施 7. 研究授業(指導案作成・教材研究・授業・反省会)					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、障害のある児童生徒への教育に関する専門的な知識を生かして、授業を計画・実践・評価を行うことが望ましい。					
学生に対する評価	実習先の特別支援学校の評価及び研究授業の評価を総合的に判断して評価する。					
教科書(購入必須)	教育実習日誌(第3版)、学術図書出版社、2011年					
参考書(購入任意)						

科 目 名	栄養教諭論		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」について理解を深め、栄養教諭としての基礎的な知識を修得させる科目					
学 習 到 達 目 標	1. 児童生徒の現状、課題を踏まえ、職に関する指導の必要性、学校給食の意義、役割等を説明できる。 2. 栄養教諭の職務である学校給食の管理および食に関する指導について理解を深め、栄養教諭としての使命、役割や職務内容を理解し、教育に関する専門性および栄養に関する専門性を横断的に身に付け、児童、生徒への指導ができる力を活用できる。					
授 業 の 概 要	①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達、食生活習慣などについて理解し、学校における食に関する指導の現状、課題の抽出、分析を行い、偏食や食物アレルギー、さらに肥満、糖尿病などの生活習慣病を予防する上で、児童生徒、保護者に対する有効な食に関する指導のあり方について論じる。 ②学校給食および食に関する指導にかかわる法令を理解する。 ③食に関する指導と各教科および給食管理のかかわりについて理解する。 ④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき指導案の作成に繋がることを理解する。					
授 業 の 計 画	1 栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達 2 児童生徒の生活状況 3 学校給食、食に関する指導の歴史 4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令 5 「食に関する指導」(1)－全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点 6 「食に関する指導」(2)－指導計画・成果・評価 7 「食に関する指導」(3)－①給食の時間 ②発達段階に応じた内容 8 「食に関する指導」(4)－教科「総合的な学習の時間」「特別活動」 9 「食に関する指導」(5)－教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」 10 「食に関する指導」(6)－教科「道徳」「生活科」 11 「食に関する指導」(7)－個別栄養相談指導 家庭・地域との連携 12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成 13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準 14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理 15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って「食に関する指導の手引き」を読み込んでおく。			90分	
	復習	配布資料に沿って教科書・学習指導要領・「食に関する指導の手引き」で確認する。			90分	
授業の留意点	栄養教諭は栄養士職と教育職を兼ね備える職種であり、全ての基本は「給食管理」であることを認識し、自らの課題を持ち意欲的に授業に臨んでほしい。					
学生に対する評価	小テスト(20点)、レポート(20点)、試験(60点)により総合的に評価する。					
教科書(購入必須)	『栄養教諭論－理論と実際－4訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月－平成29年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』 文部科学省 教育出版					
参考書(購入任意)						

科 目 名	食生活・食文化論		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目					
学習到達目標	小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得し、児童生徒へ食に関する指導ができる。					
授業の概要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習をし、食文化継承、行事食、地場産物を活用することの意義について理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本における食生活の変遷</li> <li>2 日本における食生活の現状</li> <li>3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>5 家庭食の変遷</li> <li>6 学校給食の変遷</li> <li>7 日本の食文化</li> <li>8 地域の食文化</li> <li>9 地場産物と食に関する指導</li> <li>10 地場産物と学校給食①北海道の地場産物</li> <li>11 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物</li> <li>12 演習①関心のある地域の地場産物を調べる</li> <li>13 演習②給食における地場産物の活用を考える</li> <li>14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える</li> <li>15 演習④地場産物についての発表、レポート提出</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って「食に関する指導の手引き」を読み込んでおく。			90分	
	復習	配布資料から関連する新聞記事などを読み、食と地域について関心を深める。			90分	
授業の留意点	食生活と食文化および地域について広く関心を持ち、栄養教諭を目指すものとしての自覚と自らの課題を持ち授業に臨んでほしい。					
学生に対する評価	発表内容(30点)、試験(70点)により総合的に評価する。					
教科書(購入必須)	金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂』建帛社、2009年 文部科学省『食に関する指導の手引－第二次改訂版－』東山書房、2019年 文部科学省『小学校学習指導要領(平成20年3月告示)』東京書籍、2008年 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)』東京書籍、2008年					
参考書(購入任意)						

科 目 名	食教育指導論		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。</p> <p>5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携・調整の重要性を広く横断的に見る力を修得させ、学習指導案の作成、発表、模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法、技法等を修得させる科目</p>					
学習到達目標	<p>食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見る力を養う。</p> <p>学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得する。</p>					
授業の概要	<p>栄養教諭として各自のテーマをもつことができるように知識を凝集していき、各自のテーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。</p> <p>学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教育実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス：「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性</li> <li>2 食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開</li> <li>3 学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進</li> <li>4 個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価</li> <li>5 食に関する指導の教育理論と技術</li> <li>6 教材研究、指導案づくり</li> <li>7 食に関する指導と学校給食の管理を一体のもとで行う職務の実際</li> <li>8 給食時間における食に関する指導の指導案づくり</li> <li>9 給食における食に関する指導の模擬授業 (1) 発表会 (前半グループ)</li> <li>10 給食における食に関する指導の模擬授業 (2) 発表会 (後半グループ)</li> <li>11 栄養教諭の職務の実際 (1) 学校における職務内容</li> <li>12 栄養教諭の職務の実際 (2) 調理場における職務内容</li> <li>13 給食を教材として活用する授業の指導案作成 (1) 教科目標と会に関する指導</li> <li>14 給食を教材として活用する授業の指導案作成 (2)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って「食に関する指導の手引き」・学修指導要領を読み込む。			90分	
	復習	配布資料に沿って「食に関する指導の手引き」・学修指導要領を関連付け授業作りを構想する。			90分	
授業の留意点	<p>栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり課題が多い科目であるため、予習復習を充分に行い、積極的に取り組んでほしい。</p>					
学生に対する評価	<p>提出物提出状況 (30点)、試験 (70点) により総合的に行う。</p>					
教科書 (購入必須)	<p>文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』(東山書房)</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領』(東京書籍)</p>					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	栄養教育実習事前事後指導		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。</p> <p>5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>栄養教諭としての経験を持つ教員が、事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し実習に必要な知識や技術を確実なものにできるように指導し、事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにできるように指導する科目</p>					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習に必要な知識や技術を確実なものにすることができる。</li> <li>事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにすることができる。</li> </ul>					
授業の概要	<p>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習心得を確認する。 また、児童・生徒についての食に関する課題を明確にし、実習日誌や実習報告書の作成方法等を通じ実習効果を高める方法を学ぶ。 実習校での研究授業の準備を行う。 事後指導では、実習の問題点を整理し、実習内容および研究課題などをまとめ、報告会で発表する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養教育実習の意義、目的、内容</li> <li>2 栄養教育実習のための準備と心得</li> <li>3-6 模擬授業</li> <li>7-8 栄養教育実習報告会</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習日誌作成、教育実習の手引きを読み込む。研究授業準備（指導案・板書計画・媒体作成等）。			90 分	
	復習	実習日誌完成、研究授業の振り返り、お礼状送付、実習報告会。			90 分	
授業の留意点	<p>栄養教諭の職務は、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することであるため、学校給食の管理についての復習をしてから授業に臨んでほしい。 また、栄養教育実習の意味を十分に理解し、その準備に真剣に取り組み、実習後には課題を明確化して将来につなげてほしい。</p>					
学生に対する評価	<p>提出物（50点）、模擬授業（50点）の内容などから総合的に評価する。</p>					
教科書（購入必須）	<p>栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社 教職課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>					
参考書（購入任意）						



科 目 名	栄養教育実習		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。</p> <p>5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	実栄養教諭としての経験を持つ教員が、実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解させ、実習校指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行い、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解させるための科目					
学習到達目標	<p>実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解できる。指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行うことができる。</p> <p>また、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。</p>					
授業の概要	<p>実習では学校経営等について理解し、児童および生徒への個別的な相談・指導の参観・補助、教科・特別活動や給食時間等における指導の参観・補助および食に関する指導案の立案作成や教材研究を行う。</p> <p>また、校内の連携・調整の参観・補助や家庭・地域との連携・調整等の参観・補助を行う。</p>					
授業の計画	<p>1 週間の実習</p> <p>学校経営、校務分掌、食に関する指導および学校給食の学内での位置づけについての理解</p> <p>児童および生徒への個別的な相談、指導の実習</p> <p>児童および生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <p>食に関する指導の連携・調整の実習</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	翌日の実習準備。			90 分	
	復習	実習の反省・日誌の記載。			90 分	
授業の留意点	<p>必要な準備を整えて実習に臨むこと。</p> <p>健康管理に十分に留意して実習に専念すること。</p> <p>実習生であっても学校の構成員の一員である教員としての自覚をもって行動すること。</p>					
学生に対する評価	実習内容 (50 点)、提出物 (30 点)、出席状況 (20 点) などから総合的に評価する。					
教科書 (購入必須)	<p>栄養教育実習日誌 (担当教員作成)</p> <p>教育実習の手引き (第 6 版) 学術図書出版社</p> <p>教育課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	教職実践演習（栄養教諭）		担当教員名	黒河あおい・小西二郎		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。</p> <p>5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>【栄養】栄養教諭としての経験を持つ教員が、栄養教諭としての基礎的な知識を習得させ、さらに現役の校長・学級担任・特別支援などの教員をゲストスピーカーとして招き実務についての知識を修得させる。</p>					
学習到達目標	<p>教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認することができる。</p> <p>このような学びを通じて、学生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を身に付ける。</p>					
授業の概要	<p>「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等（栄養教諭）の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。</p> <p>【栄養】教育現場から教員・校長・栄養教諭などにゲストスピーカーとして講義していただく。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職論 教員の職務内容について振り返る（合同）</li> <li>2 教職論 授業技術と教員の姿勢（合同）</li> <li>3 教職論 生徒指導の現局面（合同）</li> <li>4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由（合同）</li> <li>5 学級経営 校務分掌と教職員の協働（栄養）</li> <li>6 学級経営 学級づくりの実践（栄養）</li> <li>7 学校給食管理 学校現場（共同調理場を含む）見学・調査（栄養）</li> <li>8 学校給食管理 講義・グループ討論（栄養）</li> <li>9 学習指導 食に関する指導の全体計画・年間指導計画（栄養）</li> <li>10 学習指導 教材研究と指導案（栄養）</li> <li>11 学習指導 授業研究・模擬授業（栄養）</li> <li>12 児童・生徒指導 個別的な相談、指導・特別支援の食に関する指導（栄養）</li> <li>13 生徒指導 ケーススタディ（栄養）</li> <li>14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携（栄養）</li> <li>15 教職論 教員の使命・責任―「教育における自由」に着目して考える</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って指示された資料等を読み込む。			90 分	
	復習	配布資料に沿って授業を振り返りレポートを記載。			90 分	
授業の留意点	教育実習などの振り返りを生かして進める。					
学生に対する評価	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	特になし。					
参考書（購入任意）	領域に応じて、適宜指示する。					

科 目 名	子どもと言葉		担当教員名	石本啓一郎		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	(1) 子どもの言葉の発達に関する知識を修得する。 (2) 子どもの言葉に関する教育と保育の諸問題を理解する。					
授 業 の 概 要	前半は、言葉の発達にかかわる保育者に必要とされる専門的知識を提供する。受講者はその知識をディスカッションやワークショップ等を通して獲得し、「言葉」について既に持っている常識を問い直す。それに基づいて後半は、幼児教育をはじめとする言葉に関わる多様な実践を読み解き、言葉の発達にかかわる保育者の役割について理解を深める。					
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 言葉の進化① チンパンジーと人間の比較 3 言葉の進化② 意味世界をつくり出す 4 子どもの言葉の発達① 音と言葉の比較 5 子どもの言葉の発達② 言葉以前のコミュニケーション 6 子どもの言葉の発達③ 話し言葉と書き言葉の比較 7 想像と言葉① 擬音語とイメージ 8 想像と言葉② ごっこ遊び 9 想像と言葉③ 描画と書き言葉 10 言葉に関わる多様な実践① 幼児教育における文字遊び 11 言葉に関わる多様な実践② 学校における作文 12 言葉に関わる多様な実践③ 精神障害者施設における対話 13 言葉に関わる多様な実践④ 幼児教育における児童文化財の利用 14 言葉に関わる多様な実践⑤ 児童文化財を媒介したごっこ遊び 15 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連文献を読む。			30分	
	復習	授業内容を振り返る。			15分	
授業の留意点	さまざまなワークショップやディスカッションを行う。積極的に参加して欲しい。					
学生に対する評価	授業への参加を20点、課題提出を30点、期末レポートを50点として評価する。					
教科書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。					
参考書 (購入任意)	『幼児期—子どもは世界をどうつかむか—』(岡本夏木著、岩波書店)					

科 目 名	子どもと環境		担当教員名	菊池 稔		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然遊びを企画し、展開できる。</li> <li>・ 栽培活動・緑化活動を主体的に展開できる。</li> <li>・ 幼児を取り巻く様々な環境について説明できる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	この講義は、幼児や子どもが関わる様々な環境を自ら体験してもらって体験型授業として展開する。そのうえで、大学が設置している地域に着目し、地域にどのような施設や自然があるのか調査する。そして、どのような保育や教育ができるのか考え、地域に根ざした保育・教育が展開できる知識や感性、技能を体得していくことを目指していく。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、幼児教育・保育における環境ってなんだろう。</li> <li>2 保育内容「環境」、幼稚園教育要領の「環境」を理解しよう</li> <li>3 国内外の環境を活かした保育・幼児教育実践を知ろう</li> <li>4 幼児と植物① 植物を観察する方法、育て方、保育に活かす方法を考える</li> <li>5 幼児と植物② 実際に植物・野菜を栽培しよう。</li> <li>6 幼児と自然① 自然観察のやり方、自然を感じる感性を高めよう。</li> <li>7 幼児と自然② 自然を活かした遊びを考えよう</li> <li>8 幼児と自然③ 考えた自然遊びを体験しよう</li> <li>9 幼児と動物① 子どもと動物のふれあいの重要性について考える</li> <li>10 幼児と地域① 幼児が過ごす地域の生活を知る</li> <li>11 幼児と地域② 地域調査「地域の宝物マップ」をつくろう。</li> <li>12 幼児と地域③ 地域調査発表会</li> <li>13 幼児と植物③ 野菜の収穫方法と食育についての指導方法</li> <li>14 幼児の成長段階と環境構成を理解しよう</li> <li>15 講義のふりかえり・まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	必要なし				
	復習	講義時間外の栽培活動・緑化活動に参加する（草むしりや水やり）			45分	
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な議論を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。					
学 生 に 対 す る 価 値	毎回のリアクションペーパー（15点）受講態度（15点）、提出物（20点）、課題発表（20点）、期末レポート（30点） ※受講態度は、各体験の積極性などで判断する。					
教 科 書 （購入必須）	内閣府・文部科学省・厚生労働省著、「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、チャイルド本社。					
参 考 書 （購入任意）	後藤和佳子著、森川紅監修、「身近な自然で楽しい保育!」、ひかりのくに。					

科 目 名	子どもと音楽表現 I		担当教員名	三国 和子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	保育者に求められる音楽理論に関する基礎的知識、歌唱や器楽、リズム運動等、幼児に指導するための基礎的技能を修得する。 子どもが他者と楽しさを共有できる音楽活動を構成し、実践できる。					
授業の概要	おとなとは異なる子どもの音楽表現の様態を理解し、保育者に求められる音楽の基礎的知識・技能を修得する。知識・理論とともに実技を行い、身体の動きと結びついた音楽表現や、幼児期に適した歌唱や器楽のあり方について学ぶ。さらには、音楽に対して肯定的な態度を身につけることをめざす。					
授業の計画	1	音名と階名、音部記号 (理論と音楽あそびの演習)	16	歌唱の基礎		
	2	リズム(1)拍とテンポ (理論と音楽あそびの演習)	17	子どもの歌(1) ピアノを用いて		
	3	リズム(2)拍子と音符・休符	18	子どもの歌(2) リコーダーを用いて①		
	4	リズム(3)さまざまなリズム	19	子どもの歌(3) リコーダーを用いて②		
	5	長調と短調、#とbなど	20	子どもの歌(4) 替え歌		
	6	音楽と動き(1) わらべうた①	21	音楽遊びをつくる		
	7	音楽と動き(2) リトミック①	22	合唱		
	8	音楽と動き(3) わらべうた②とリトミック②	23	子どもと楽しむ音楽会の構想		
	9	音楽と動き(4) ダンス① 拍を意識したステップ	24	子どもと楽しむ音楽会(1) 企画立案、役割分担		
	10	音楽と動き(5) ダンス②幼児に適した音楽と動き	25	子どもと楽しむ音楽会(2) グループごとの準備、プログラム決定		
	11	音楽と動き(6) 音楽遊び	26	子どもと楽しむ音楽会(3) グループごとの準備、手直し		
	12	いろいろな音を聴く	27	子どもと楽しむ音楽会(4) グループごとの準備、確認		
	13	楽器遊び(1) 幼児に適した楽器	28	子どもと楽しむ音楽会(5) リハーサル		
	14	楽器遊び(2) ミュージックベル	29	子どもと楽しむ音楽会(6) 本番		
	15	楽器遊び(3) 合奏	30	音楽会の振り返り		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する疑問点を整理しておく。			15分	
	復習	授業を振り返り、理解や技能獲得などが不足していると思われる箇所を補足する。			30分	
授業の留意点	場合によっては動きやすい服装が必要となる。					
学生に対する評価	ペーパーテスト(60点)、日常の課題・実技評価(40点)により評価する。					
教科書(購入必須)	特になし					
参考書(購入任意)	小林美実『こどものうた200』チャイルド社、『たのしいドレミファランド』。 (購入については担当教員から別途指示) 必要に応じてプリントを配付。					

科 目 名	子どもと音楽表現Ⅱ	担当教員名	三国 和子・会見 泉・上田 明美・尾崎 美千代・鎌塚 香代			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、簡単な楽譜やコードネームを見て、子どもの歌のピアノ伴奏ができる能力を修得する。					
授業の概要	まず、子どもが歌唱する際に楽曲の習熟度に応じてピアノ伴奏ができるよう、コードネームによる伴奏付けを学ぶ。次に、他者のリズムに合わせて演奏できるよう連弾を行う。さらに、個々の演奏技術を高めるためにソロ曲の演奏も行う。					
授業の計画	1 コードネームの基礎(メジャーコード、マイナーコード、セブンス)	16	連弾(1)個人練習(1) 譜読み・補正			
	2 右手メロディーと左手和音(1)C、F、Gを中心に	17	連弾(2)個人練習(2) アゴーギグ、ダイナミクス			
	3 右手メロディーと左手和音(2)G、C、Dを中心に	18	連弾(3)流れの確認			
	4 右手メロディーと左手和音(3)F、Bb、Cを中心に	19	連弾(4)総合表現 ダイナミクス、バランス			
	5 右手メロディーと左手和音(4)Am、Dm、E、Em、B、を中心に	20	連弾(5)総合表現 アゴーギグ、タイミング			
	6 右手メロディーと左手和音(5)Gm、Aを中心に	21	連弾(6) 仕上げ			
	7 右手和音と左手ベース音(1)メジャー	22	連弾発表会(前半グループの演奏)			
	8 右手和音と左手ベース音(2)マイナー	23	連弾発表会(後半グループの演奏)			
	9 右手和音と左手ベース音(3)ベース音の動き	24	ソロ曲練習(1)譜読み			
	10 右手和音と左手ベース音(4)ディミニッシュ、オーギュメント	25	ソロ曲練習(2)譜読みの補正			
	11 右手和音と左手ベース音(5)メジャーセブンス	26	ソロ曲練習(3)譜読みの補正、ダイナミクス			
	12 右手和音と左手ベース音(6)サスペンディド	27	ソロ曲練習(4)譜読みの補正、アゴーギグ			
	13 右手和音と左手ベース音(7)歌唱伴奏	28	ソロ曲練習(5)総合表現、暗譜			
	14 伴奏付け発表会(前半グループの演奏)	29	ソロ曲練習(6)総合表現、暗譜の補正			
	15 伴奏付け発表会(後半グループの演奏)	30	ソロ曲練習(7)仕上げ			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	前回の授業で出された課題に取り組む。			30分	
	復習	前回の授業を振り返り、留意点を確認する。			15分	
授業の留意点	グループ単位での個人レッスンを基本的な授業形態とするため、特に欠席・遅刻等についての連絡を怠らないこと。					
学生に対する評価	前期に行う伴奏付け発表会(20点)、後期に行う連弾発表会(20点)およびソロ発表会(20点)の演奏、および日常の課題への取り組み(40点)による。					
教科書(購入必須)	『新版 たのしいドレミファ・ランド』教育芸術社 大学音楽教育研究グループ編『歌唱教材伴奏法』教育芸術社 ※購入については担当教員から別途指示。					
参考書(購入任意)						

科 目 名	子どもと造形表現 I		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感して楽しむことができる。					
授業の概要	子どもの感性を高めることを目的として、造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作</li> <li>2 絵画制作 (1) 描画の発達と軟筆画 (フロッタージュ)</li> <li>3 絵画制作 (2) 描画の発達と水彩画 (デカルコマニー)</li> <li>4 工作 (1) お面、かぶりもの</li> <li>5 工作 (2) 子どもの日、ハロウィンの仮装</li> <li>6 工作 (3) ストロー人形</li> <li>7 工作 (4) 凧、飛行機凧、くるくるヘビ</li> <li>8 工作 (5) 折紙飛行機、折紙ロケット</li> <li>9 工作 (6) けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ</li> <li>10 工作 (7) 紙版画、ステンシル</li> <li>11 工作 (8) とびだすカード</li> <li>12 工作 (9) 折紙</li> <li>13 工作 (10) 音を出してみる</li> <li>14 工作 (11) 壁面構成</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	提出物(70点)、発表(30点)。					
教科書 (購入必須)	特になし					
参考書 (購入任意)	『3・4・5歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)					

科 目 名	子どもと造形表現Ⅱ		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて児童文化の実務経験を有する教員が、子どもの「造形想像」発展に有効とされる技能・知見について指導する科目					
学習到達目標	「図画工作Ⅰ」での学修を踏まえ、応用的造形技法の制作を通し、保育活動の幅を広げる可能性と留意点を考えることができる。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、「図画工作Ⅰ」での学修を基礎とし、子どものための一般的な造形技法のみならず、より高度な制作活動を行う。</li> <li>・子どもに向き合うことを想定し、日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す。</li> </ul>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（木工・箸をつくる）</li> <li>2 窯芸（1） 成形</li> <li>3 窯芸（2） 焼成</li> <li>4 仮装（1） 構想と制作</li> <li>5 仮装（2） 制作と発表会</li> <li>6 紙版画（1） カレンダー制作・製版</li> <li>7 紙版画（2） カレンダー制作・印刷</li> <li>8 人形劇・影絵劇をつくる（1） 構想・脚本の制作</li> <li>9 人形劇・影絵劇をつくる（2） 役割の分担</li> <li>10 人形劇・影絵劇をつくる（3） 人形をつくる</li> <li>11 人形劇・影絵劇をつくる（4） 背景をつくる</li> <li>12 人形劇・影絵劇をつくる（5） 発表準備・人形操作および光の理解と工夫</li> <li>13 人形劇・影絵劇をつくる（6） 発表準備・人形操作および光の工夫と修正</li> <li>14 人形劇・影絵劇をつくる（7） 発表会</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	提出物(50点)、発表(50点)。					
教科書（購入必須）	必要に応じてその都度、プリントを配付する。					
参考書（購入任意）	特になし。					



科 目 名	子どもと健康		担当教員名	三井 登		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	子どもの健康課題と健康の発達の意味について説明できる。子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達について知識・技術を修得する。					
授 業 の 概 要	子どもの健康について、発達を支える重要な要素であることを歴史的社会的文脈の中で捉える。運動発達と健康課題の関係を、個人・集団・社会の中における矛盾の層として捉え、矛盾を乗り越える契機を具体的に検討し、そこでの保育者の役割を明らかにし、子どもの発達の原動力とは何かを明らかにする。同時にそれは生活全般の中で起こることから、生活の自立、生活習慣の形成、安全、疾病予防などについても上記の視点から言及することになる。					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 子どもの健康課題の現状 2 健康の歴史 実態と概念 「発達」の概念史 3 幼児教育要領と保育所保育指針における健康の位置づけ 4 健康問題を捉える3つの系 個人・集団・社会 5 乳児期の運動発達と健康 6 幼児期の運動発達と健康 7 乳幼児期の健康の意義と定義について考える 8 乳幼児期の発達の特徴と環境との関わり 対象への働きかけによる身体と環境の変化 9 乳幼児期の基礎的な生活習慣の形成 運動、食事、睡眠 10 身体づくりと食育の一体的な実践 事例紹介・検討 11 乳幼児期における多様な動きの獲得① 運動あそび 12 乳幼児期における多様な動きの獲得② 外あそび 13 乳幼児期における多様な動きの獲得③ 道具を使ったあそび 14 乳幼児期における多様な動きの獲得④ ルールのあるあそび 15 子どもの安全教育・疾病予防対策の歴史・現状・課題					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業で紹介した文献を読んでおくこと。			45分	
	復習					
授業の留意点	動きやすい服装と靴を用意すること。既往症がある場合は、必ず事前に報告すること。授業で紹介した文献等については、授業後に参照しておくこと。					
学生に対する評価	提出物100点により評価する。					
教科書（購入必須）	特になし。その都度、必要な資料を配付する。					
参考書（購入任意）	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年。田中昌人『人間発達の理論』青木書店、1987年。北村晋一『乳幼児の運動発達と支援』群青社、2013年。浜田寿美男訳編『ワロン/身体・自我・社会』ミネルヴァ書房、1983年。汲田克夫『近代保険思想史序説』医療図書出版社、1974年。					

科 目 名	子どもと人間関係		担当教員名	及川 智博		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題について歴史・実証的な視点をもとに理解する。</li> <li>・ 保育を通した人間関係の発達について、関係論の視点から理解する。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	<p>領域「人間関係」の指導の基盤となる、子ども同士、また子どもと大人の社会的な関わりについて、子育て・保育の歴史、心理学における実証研究の知見、そして保育実践事例の分析をもとに総合的に理解します。映像資料や実践記録を豊富に用いるほか、ディスカッションを通して意見を交わすことで、自身が人と関わる際の視点について見つめ直しつつ、子どもの人間関係を育むための、専門的支援者としての基礎を培います。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー子どもの人間関係を育てるとはどういうことかー</li> <li>2 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷（1）ー自身の子どもの時代から考えるー</li> <li>3 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷（2）ー少子化以前の家族・地域・子どもー</li> <li>4 子どもの人間関係をめぐる歴史の変遷（3）ー平成から現代までの課題を理解するー</li> <li>5 大学生の人間関係から子どもをみつめるー育てたい資質を主体的に考察するー</li> <li>6 0歳児の人間関係の発達と援助ー自立心の育ちの支援と遊びを中心にー</li> <li>7 1歳児の人間関係の発達と援助ー自立心の育ちの支援と遊びを中心にー</li> <li>8 2歳児の人間関係の発達と援助ー道徳性・規範意識の芽生えの支援を中心にー</li> <li>9 3歳児の人間関係の発達と援助ー道徳性・規範意識の芽生えの支援を中心にー</li> <li>10 4歳児の人間関係の発達と援助ー5歳児の協同性へ向けた萌芽を育むー</li> <li>11 5歳児の人間関係の発達と援助ー協同性の育ちをつかみ支援するー</li> <li>12 保育実践記録の分析（1）ー保育者と子どものかかわりを通して関係的に育てるー</li> <li>13 保育実践記録の分析（2）ー子ども同士の関わりを通して関係的に育てるー</li> <li>14 保育実践記録の分析（3）ーインクルーシブな関係を実現させる援助をつかむー</li> <li>15 まとめー人間関係から一人ひとりの人生を豊かにするためにー</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業前に次回講義に関わるキーワードや子どもの具体的事例について調べておく			45分	
	復習	授業内で学んだ内容や追加資料等に再度目を通すなどして理解や学びを定着させること				
授 業 の 留 意 点	適宜、グループでの作業（ディスカッションや簡単な作業など）も取り入れますので、各自が責任を持って積極的に取り組んでください。					
学 生 に 対 す る 評 価	毎回のショートレポート（20点）、期末レポート（80点）					
教 科 書 （購入必須）	指定しない					
参 考 書 （購入任意）	<p>無藤 隆・古賀松香(編)(2016) 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは 北大路書房</p> <p>神田英雄(2013)0歳から3歳：保育・子育てと発達研究をむすぶ 乳児編 ちいさいなかま社</p> <p>神田英雄(2013)3歳から6歳：保育・子育てと発達研究をむすぶ 幼児編 ちいさいなかま社</p>					

科 目 名	保育内容・人間関係		担当教員名	鹿嶋 桃子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3.子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育所や児童家庭支援センター、子育て支援NPOなどにおいて教育相談の心理臨床経験を有し、臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子どもの社会性や人間関係構築の支援方法などについて指導する科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自立心を育て、子どもの対人関係力を涵養できる保育者をめざす。</li> <li>・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。</li> <li>・幼児期の人間関係の発達を理解する。</li> <li>・教育実践における保育内容「人間関係」の支援法（指導法）について修得する。</li> </ul>					
授業の概要	子どもが人と親しみ、支えあって生活するための領域「人間関係」について、幼児期の人間関係の発達の特徴を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 領域「人間関係」とは</li> <li>2 領域「人間関係」の「ねらい及び内容について」</li> <li>3 子どもの協同的活動としての遊びとその発達（1）</li> <li>4 子どもの協同的活動としての遊びとその発達（2）</li> <li>5 子どもの協同的活動としての遊びとその発達（3）</li> <li>6 子ども同士の関わりを育む遊びと保育者の役割</li> <li>7 集団生活を通じた人間関係の成長</li> <li>8 乳幼児期の人間関係の発達（1）0～2歳</li> <li>9 乳幼児期の人間関係の発達（2）3～6歳</li> <li>10 人間関係を育てる保育実践（1）0～2歳</li> <li>11 人間関係を育てる保育実践（2）3～6歳</li> <li>12 家庭や地域との関わりや連携から育む人間関係（1）</li> <li>13 家庭や地域との関わりや連携から育む人間関係（2）</li> <li>14 特別な支援を要する子ども</li> <li>15 現代社会の状況と領域「人間関係」をめぐる諸問題</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を事前に読み、わからない用語を調べる。			90分	
	復習	授業で習った用語の復習、紹介された参考文献を読む。			90分	
授業の留意点	予習は教科書に沿って行い、復習は配布資料をもとに行う。グループに分かれての討論や実技には積極的に参加することを期待する。					
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>（1）期末試験 70点</li> <li>（2）講義時におけるリアクションペーパー30点</li> </ol>					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育内容・環境 I		担当教員名	菊池 稔		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えた人材を育む。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「環境」のねらいと内容を理解する。</li> <li>・乳幼児期の子どもと環境とのかかわりについて学び、保育実践における保育内容「環境」の指導法を理解する。</li> </ul>					
授業の概要	<p>子どもは、人や社会、自然など、さまざまな環境に取り巻かれて育つ。この授業では、それらについて学び、保育内容「環境」に関する基礎的な理解をする。また、周囲の環境に対する子どもの好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに積極的に関わっていくための保育方法について学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育内容・環境の全体構造</li> <li>2 領域「環境」のねらいと内容</li> <li>3 子どもを取り巻く環境</li> <li>4 乳幼児期の子どもと環境とのかかわりの特性</li> <li>5 子どもの好奇心と探求心の芽生え</li> <li>6 子どもと環境 (1) 自然環境とのかかわり</li> <li>7 子どもと環境 (2) 生き物とのかかわり</li> <li>8 子どもと環境 (3) 生活の中での文字・数・図形とのかかわり</li> <li>9 子どもと環境 (4) 身近なモノとのかかわり</li> <li>10 子どもと環境 (5) 生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法</li> <li>11 人的環境としての友だちや保護者</li> <li>12 子どもの好奇心と探求心を高める環境構成</li> <li>13 模擬保育 (1) 保育内容「環境」に関する指導案作成と評価方法</li> <li>14 模擬保育 (2) 指導案に基づく模擬保育と振り返り</li> <li>15 まとめー保育内容「環境」をめぐる保育者の役割と小学校との連携</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布した資料を読み、理解を深める。			90分	
	復習	体験した活動が領域環境のどのようなねらいで行われたのか考え、指導案としてまとめる。			90分	
授業の留意点	<p>授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。</p>					
学生に対する評価	<p>授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点</p>					
教科書 (購入必須)	<p>文部科学省「幼稚園教育要領」解説 厚生労働省「保育所保育指針」解説</p>					
参考書 (購入任意)	<p>必要に応じて適宜指示する。</p>					

科 目 名	保育内容・環境Ⅱ		担当教員名	菊池 稔		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3.子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えた人材を育む。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	・「保育内容・環境Ⅰ」の指導法を実践的に学び、保育実践の在り方を考察する。					
授業の概要	「保育内容・環境Ⅰ」で学習したことを踏まえ、指導法について実践的に学ぶ。自然や社会など身近な環境に子どもがいかにかかわっていくか、積極的にかかわっていくにはどんな力が必要なのか、保育者も含めた人的環境の大きさについて考えると共にその指導法を実践的に学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 領域のねらい及び内容の理解、全体構造の理解他</li> <li>2 自然環境（１）身近な自然を観察する</li> <li>3 自然環境（２）自然のなかでの遊び</li> <li>4 植物（１）植物を観察する</li> <li>5 植物（２）植物栽培と保育実践</li> <li>6 動物（１）身近な生き物を探す</li> <li>7 動物（２）動物飼育と保育実践</li> <li>8 子どもの自然体験と保育方法（１）「森のようちえん」のカリキュラムと実践</li> <li>9 子どもの自然体験と保育方法（２）模擬保育①指導案の作成</li> <li>10 子どもの自然体験と保育方法（３）模擬保育②指導案に基づく模擬保育</li> <li>11 幼稚園・保育所における環境整備の在り方、情報機器の利用法</li> <li>12 身近な動植物とのふれあいができる園庭の整備</li> <li>13 子どもと文化的環境（１）北海道の環境と保育実践</li> <li>14 子どもと文化的環境（２）「森の幼稚園」と保育実践</li> <li>15 まとめ 幼稚園教育の評価・小学校の教科等へのつながり</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布する資料を読み、理解を深める			45分	
	復習	体験した活動を例に領域環境の指導案にまとめる				
授業の留意点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。					
学生に対する評価	授業の取り組み方・意欲 20点、制作物 20点、発表 20点、期末レポート 40点					
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』					
参考書（購入任意）	必要に応じて適宜指示する。					

科 目 名	保育内容・健康 I		担当教員名	三井 登		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「健康」のねらいと内容を理解し、その指導法を修得する。</li> <li>・子どもの発達を支える領域「健康」の役割と、その保育実践の在り方について理解することができる。</li> <li>・身体を使った遊びを実践的に学び、その知識・技術を習得する。</li> </ul>					
授業の概要	領域「健康」の内容を実践動向などから理解し、自ら計画し実践する。また、子どもの発達を支える援助や指導の在り方について具体的な事例を紹介し、その実践的意味について理解する。「健康」に関わる保護者支援の場面などを想定し、保育者として必要な実践的知識と技術を身につける。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンス 園の現状や諸課題について</li> <li>2 保育内容「健康」について 幼稚園教育要領・保育所保育指針が目指すもの</li> <li>3 子どもの心身の発育と発達 形態の発育、生理機能の発達などを学ぶ</li> <li>4 生活習慣の獲得と保育者の関わり 基本的な生活習慣や安全に関する指導・援助を学ぶ</li> <li>5 園生活のリズムと子どものリズム 家庭との連携を視野に（子育て支援の実際）</li> <li>6 子どもの心身の健康を保障する環境構成について</li> <li>7 子どもの心身の健康 園生活全体と長期的展望から捉える</li> <li>8 「健康」の具体的内容と保育指導案 情報機器の活用法と教材研究の基本的な考え方</li> <li>9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開1）運動機能の発達、心の発達などを学ぶ</li> <li>10 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開2）遊具・器具を使った運動遊びを学ぶ</li> <li>11 健康と食育 健康の指導、食育の指導における取り組みと指導案について考える</li> <li>12 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開3）鬼ごっこなどの指導の実際を学ぶ</li> <li>13 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開4）競い合う遊びの指導の実際を学ぶ</li> <li>14 模擬授業3（運動遊び・体育遊びの展開5）外遊びの実際と心身の発達との関係</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業で提示した資料を読んで、関連する文献を自分で調べて読んでおくこと。			180分	
	復習					
授業の留意点	参考文献・資料に目を通し、紹介した文献等について授業の事前事後に参照しておくこと。					
学生に対する評価	提出物100点					
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館					
参考書（購入任意）	授業の中で適宜紹介する。					

科 目 名	保育内容・健康Ⅱ		担当教員名	三井 登		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	「保育内容・健康Ⅰ」での学修をふまえ、以下の点を深める ・領域「健康」の観点から子どもの発達を保障する実践的課題と方法について説明することができる。 ・領域「健康」に関する指導計画、環境構成、保育者の役割について問題点を把握することができる。 ・運動意欲を育む指導、危険や安全を意識するための教師の具体的援助や指導について理解する。 ・食育の方法や子どもの健康を保障するための子育て支援の具体的方法について説明することができる。					
授 業 の 概 要	領域「健康」で対象とする、心身の発達、運動指導、生活習慣、安全、食育などについて、先進的実践から学びながら、学生自身が調査研究する。指導計画を立てて実践し、集団で議論しながら課題を発見し、子どもの発達を教師が保障する指導の在り方を学ぶ。また、保護者と保育者・園との関係を、子どもの心身の発達保障という観点から、その共同の在り方を検討する。					
授 業 の 計 画	1 授業のガイダンス 2 子どもの健康 運動・食事・睡眠 3 子どもの心身の発育と発達 欲求と運動 4 保育内容としての「健康」 幼稚園教育要領、保育所保育指針より環境構成、保育者の役割について学ぶ 5 運動遊びの系統的指導からみた年間計画等の指導計画を考える 6 生活習慣の獲得と保育者のかかわり 基本的生活習慣・安全についての指導・援助を学ぶ 7 基本的生活習慣、運動遊び、安全生活に関わる指導計画について調べて発表する 8 子育て支援・児童虐待について 保護者との関係性の構築と共同の在り方を実践例から学ぶ 9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開その1）運動機能の発達・心の発達と教材の選び方 10 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開その2）鬼ごっこあそびなどの指導案の実践 11 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開その3）運動あそびの系統的指導の研究方法を遊具・器具を対象にして学ぶ 12 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開その4）競い合う遊びの指導案の実践 13 健康と食育について 食育の指導における取り組みについて調べ指導計画を立てる 14 食育の取り組みから学んだことを実践する 15 まとめと振り返り					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業で紹介した文献について読んでおくこと。			45分	
	復習					
授業の留意点	テキスト『発達の扉<上>』について、授業で取り上げる範囲を予習しておくこと。					
学生に対する評価	意欲・態度20点、提出物80点					
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館 白石正久『発達の扉<上>』かもがわ出版、1994年					
参考書（購入任意）	授業の中で適宜紹介する。					

科 目 名	保育内容・言葉		担当教員名	石本 啓一郎		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「言葉」について理解する。</li> <li>・乳幼児期の言語発達を理解する。</li> <li>・子どもの言葉の育ちを支える指導法および保育者の役割を理解する。</li> </ul>					
授業の概要	保育内容「言葉」についての幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるねらいと内容を確認するとともに、子どもの言葉の発達についての基本的知識を獲得する。それを基盤に、子どもの言葉の育ちを支えるための指導法を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」</li> <li>3 子どもの言葉の発達① 乳児期の言語獲得</li> <li>4 子どもの言葉の発達② 幼児期のひとりごと</li> <li>5 子どもの言葉の発達③ 幼児期の言葉から児童期の言葉へ</li> <li>6 子どもの言葉の発達④ 自分の考えや思いを伝える言葉</li> <li>7 言葉と身体① 言葉以前の声</li> <li>8 言葉と身体② 身体と声の関係</li> <li>9 言葉と身体③ 言葉の音を楽しむ</li> <li>10 子どもの言葉を育む保育の実際① 絵本</li> <li>11 子どもの言葉を育む保育の実際② 紙芝居</li> <li>12 子どもの言葉を育む保育の実際③ 言葉遊び・わらべうた</li> <li>13 模擬保育① 指導案作成</li> <li>14 模擬保育② 指導案に基づく模擬保育</li> <li>15 模擬保育③ 模擬保育の振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連文献を読む。			90分	
	復習	授業内容を振り返る。			90分	
授業の留意点	積極的に授業に参加して欲しい。					
学生に対する評価	提出課題（40点）および期末レポート（60点）により評価する。					
教科書（購入必須）	適宜プリント等を配布する。					
参考書（購入任意）	『子どもと言葉』（岡本夏木著、岩波書店） 『ことばと発達』（岡本夏木著、岩波書店）					



科 目 名	保育内容・表現 I		担当教員名	三国 和子・堀川 真・石本 啓一郎		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらいと内容を理解し、表現についての一般的概念や子どもの表現の発達に関する知識を学び指導法を身につける。					
授業の概要	領域「表現」に関わる基礎的な学習の後、環境構成や教材の提示及び情報機器の活用情報機器の表現の受容など多方面から指導法について学ぶ。実技やグループワーク、模擬保育等も行う。					
授業の計画	1 オリエンテーション (担当：三国) 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の理解 (担当：石本) 3 子どもの表現の発達① 音楽 (担当：三国) 4 子どもの表現の発達② 造形 (担当：堀川) 5 素材との出会い① 自然との関わり (担当：石本) 6 素材との出会い② 環境の構成・情報機器の活用 (担当：堀川) 7 美的感動の喚起 ―保育者の役割 (担当：堀川) 8 感動の伝えあいと共有 (担当：石本) 9 表現の方法① 言葉 (担当：石本) 10 表現の方法② 絵 (担当：石本) 11 表現の方法③ 工作 (担当：堀川) 12 表現の方法④ 楽器あそび (担当：三国) 13 模擬保育① 指導案作成 (担当：三国) 14 模擬保育② 実習 (担当：三国、堀川、石本) 15 まとめ (担当：三国、堀川、石本)					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	毎回の授業テーマに関する疑問点を整理しておく。			60分	
	復習	授業を振り返り、理解や授業中の課題の取り組みが不足していた点を補足する。			120分	
授業の留意点	各分野のつながりを意識しながら受講すること。					
学生に対する評価	授業態度 (30点)、課題提出 (30点)、最終レポート (40点) により評価する。					
教科書 (購入必須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館					
参考書 (購入任意)	厚生労働省『保育所保育指針』、その他必要な際に提示する。					

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（音楽）		担当教員名	三国 和子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3.子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における音楽活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。					
授業の概要	保育内容の領域「表現」のうち音楽分野を扱う。保育の現場で行われる音楽活動やそれを通して養われる子どもの音楽的感性や表現に関する事項について、実技やグループワークを交えながら学ぶ。また、それを踏まえ、表現領域での音楽活動についての支援のあり方について深めていく。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODakション 保育における音楽の位置づけ</li> <li>2 子どもの音楽表現とその発達① レクチャー</li> <li>3 音楽活動のねらい</li> <li>4 音楽活動の教材研究① レクチャー</li> <li>5 音楽活動の教材研究② メソッドとアプローチ</li> <li>6 音楽活動の教材研究③ 音楽遊びの実践</li> <li>7 音楽活動の教材研究④ 演習</li> <li>8 子どもの音楽表現とその発達②（グループワーク）考察</li> <li>9 子どもの音楽表現とその発達③（全体）報告とまとめ</li> <li>10 音楽活動の指導</li> <li>11 音楽活動の実践① レクチャー</li> <li>12 音楽活動の実践② 指導案作成</li> <li>13 音楽活動の指導③ 模擬保育</li> <li>14 音楽活動の指導④ 模擬保育</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業テーマに関する疑問点を整理しておく。			15分	
	復習	授業を振り返り、理解の不足しているところを確認し補足する。			30分	
授業の留意点	場合によっては動きやすい服装が必要となることがある。					
学生に対する評価	レポート課題（50点）、授業における課題提出（50点）によって評価する。					
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館					
参考書（購入任意）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社					

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえて造形表現活動を実践し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につけて子どもとかかわることができる。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、前半の「多様な素材」においては、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した造形活動支援ができるようにする。</li> <li>・多様な子どもに向き合うことを想定し、後半の「絵本づくり」においては、着想から製本までの総合的な制作を通して、こどもの発達に対応した絵本づくりや絵本理解を身につける。</li> </ul>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 風とあそぶ</li> <li>2 多様な素材 (1) 厚紙：ハンペルマン</li> <li>3 多様な素材 (2) 箱：カメラ</li> <li>4 多様な素材 (3) 土：石膏型取り</li> <li>5 多様な素材 (4) 水：染めあそび</li> <li>6 多様な素材 (5) 古紙：新聞紙であそぶ</li> <li>7 多様な素材 (6) 廃材：街をつくる</li> <li>8 様々な造形パフォーマンス</li> <li>9 絵本づくり (1) 構想</li> <li>10 絵本づくり (2) 下絵～彩色</li> <li>11 絵本づくり (3) 彩色～仕上げ</li> <li>12 絵本づくり (4) 製本の技法</li> <li>13 絵本づくり (5) 糊付け</li> <li>14 絵本づくり (6) 製本</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	子どもとの共感について理解する授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	提出物(70点)、発表(30点)。					
教科書 (購入必須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。					
参考書 (購入任意)	特になし					

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（言語）		担当教員名	石本 啓一郎		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における言語に関わる活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。					
授業の概要	まず、子どもの想像力の発達についての知識を学ぶ。それに基づいて、子どもの言語表現を育てる教材や指導法を学ぶ。全体を通じて、言語表現が豊かに育つときの保育者の役割について理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 子どもの想像力の発達① 現実と想像の世界</li> <li>3 子どもの想像力の発達① 絵画表現</li> <li>4 虚構遊びにおける表現① 言葉の役割とは</li> <li>5 虚構遊びにおける表現② 物を使って言葉を導く</li> <li>6 虚構遊びにおける表現③ 身振りと言葉</li> <li>7 表現を育てる資源① 映像</li> <li>8 表現を育てる資源② 資源</li> <li>9 表現を育てる資源③ 詩的表現</li> <li>10 自然観察における表現① 経験の言語化</li> <li>11 自然観察における表現② 科学の言葉と想像</li> <li>12 自然観察における表現③ 虚構遊びと自然探索の言語表現</li> <li>13 模擬保育① 指導案作成</li> <li>14 模擬保育② 指導案に基づく模擬保育</li> <li>15 模擬保育③ 模擬保育の振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連文献を読む。			30分	
	復習	授業内容を振り返る。			15分	
授業の留意点	さまざまなワークショップやディスカッションをおこなう。積極的に授業に参加して欲しい					
学生に対する評価	課題提出（40点）、期末レポート（60点）により評価する。					
教科書（購入必須）	必要に応じて資料を配付する。					
参考書（購入任意）	『レッチョ・エミリアと対話しながら』（カルラ・リナルディ、里見 実（訳）、ミネルヴァ書房）					

科 目 名	教育原理		担当教員名	高島 裕美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の教育を、歴史的・思想的・制度的な視点から理解し、説明することができる。</li> <li>・学校教育の制度ならびに内容・方法について理解し、説明することができる。</li> <li>・教育における現代的課題を理解し、これからの教育を考える視角を得る。</li> </ul>					
授業の概要	教育に関する基礎理論や思想を取り上げるとともに、学校教育の成り立ちや歴史の変遷、教育実践の内容・方法について学ぶ。また、現代の子ども・家庭や地域・学校教育が抱える問題について具体的な事例をもとに理解し、その解決に当たる教員に求められる資質・力量、役割についても考察する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー「教育」について学ぶ前にー</li> <li>2 家庭における子育てと教育</li> <li>3 子どもをどのように捉えるかー子ども観の歴史ー</li> <li>4 教育の思想と歴史① 教育方法の歴史</li> <li>5 教育の思想と歴史② 近代日本の教育思想と歴史</li> <li>6 幼児教育の思想と歴史</li> <li>7 学校の歴史と仕組み</li> <li>8 教育課程・カリキュラムの変遷</li> <li>9 子ども中心主義の思想と学校</li> <li>10 授業と学習指導</li> <li>11 教育の評価</li> <li>12 学力とは何か</li> <li>13 教師の成長</li> <li>14 教育の現代的課題と学校</li> <li>15 まとめー学校・教育の諸問題を解決するためにー</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	「授業計画」にあるキーワードについて、資料やインターネット等を利用してあらかじめ調べ情報収集をしておくこと。			90分	
	復習	講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、文献やインターネット等を利用して、理解を深め課題意識を高めるようにすること。			90分	
授業の留意点	基本的には講義形式で進めるが、映像資料等を用い特定のテーマについて議論するなど、学習者それぞれが自分の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。					
学生に対する評価	期末レポート（80%）、提出課題（20%）により評価する。					
教科書（購入必須）	特に指定しない。					
参考書（購入任意）	授業のなかで、適宜紹介する。					

科 目 名	幼児教育史		担当教員名	稲井 智義		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	北海道幼児教育推進センター研修講師、北海道史編さん調査研究委員、北海道教育大学附属旭川幼稚園研究協力者の実務経験をふまえ、道内の幼児教育と子ども福祉の動向について紹介します。					
学習到達目標	この授業の目標は、受講者が幼児教育の歴史を理解して、自分で探究を進め、歴史をつくるための技法を身につけることです。今年、幼児教育学の基本文献を読むことを目標にします。 (1) 幼児教育史の研究動向を知り、そこからさらに自分で探究をはじめましょう。 (2) 自分の言葉で、わからないことを勇気を持って表現しましょう。 (3) 子どもと教育、社会を完全にわかったつもりにならない姿勢を身につけましょう。 (4) 日常にある不思議さや複雑さを子どもや他者とともに見つけられるようになりましょう。					
授業の概要	前半では、社会や政治との関わりから幼児教育の歴史を講義する。第二次世界大戦後イタリアのレッジョ・エミリアの幼児教育を、市民性教育やファンタジー、『「保育の質」を超えて』の視点から取り上げる。受講者が幼児教育を研究するための文献と調査方法を紹介する。 後半では、以上の内容を活用して、『幼児教育へのいざない』を読み解く。受講者は指定箇所についてグループで調べて、わからないことを報告したうえで、質疑応答と対話をしていく。 歴史と研究をふまえながら、これからの幼児教育と社会のあり方を協同作業で深く考えたい。					
授業の計画	1 ガイダンス、幼児教育における探究と「公共心」 2 社会保育？の歴史：「近代日本の子ども観と母性、社会改革」と岡山孤児院 3 「すべての子どもの学習権を保障する、みんなの学校」とフル・インクルーシブ 4 市民としての子どもがつくる公教育：アート、ファンタジー、聴き入ることの教育 5 近代の教育思想：「子どもの発見」（ルソー）と「子ども観の変化の発見」（アリエス） 6 1988年子ども文学『となりのトトロ』『にゃーご』と1989年幼稚園教育要領の断絶 7 施設保育がもたらす余暇とアナーキズム：こどもの里、ブレイディみかこ、ケア 8 「あとがき」第1章 1子どもを具体的にみる 2「けんちゃんの絵日記」からの脱出 9 「3「子どもを見る」行為 4「子どもに寄り添う」 5子どもを「集団の一員」として見る」 10 「第2章 子どもが「発達する」ということ」 11 「第3章 保育思想の源泉をさぐる」 12 「第4章「ともに生きる」保育」 13 「第5章「アートの思考」の教育」「増補改訂版の刊行にあたって」 14 レッジョ・インスピレーションとリアル・ユートピア：小玉論文『発達』162号、2020年 15 まとめ、「勉強は自己破壊である」（千葉『勉強の哲学』）、みなさんは何が変わりましたか。					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を読み、要点とわからない箇所、自分で調べたことをノートにまとめる。			90分	
	復習	講義の要点を整理し、わからない箇所を参考書で調べ、ノートにまとめる。			90分	
授業の留意点	去年の受講者によると「私は最初稲井先生が苦手でした」。この授業に関心がある方は4月に出席して、受講するかしないか判断してください。恥も外聞も捨てて、全力で深く勉強しませんか。					
学生に対する評価	授業内に提出する小レポートと質疑応答・対話（84点）、グループレポート報告（16点）。遠隔授業（zoom・リアルタイム、6月2週間実習はオンデマンド）で実施します。					
教科書（購入必須）	佐伯胖『幼児教育へのいざない：円熟した保育者になるために』増補改訂版、東京大学出版会、2014年。5月に分担を決めて各自で事前に読み、第8回目以降の授業内で検討します。					
参考書（購入任意）	小玉亮子編『幼児教育』ミネルヴァ書房、2020年。（2022年度の教科書） 千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書、2022年。（勤務校「領域・環境」教科書） キャロル・ギリガン『もうひとつの声で：心理学の理論とケアの倫理』風行社、2022年。 結城恵『幼稚園で子どもはどう育つか：集団教育のエスノグラフィ』有信堂高文社、1998年。 ブレイディみかこ『ジンセイハ、オンガクデアル』ちくま文庫、2022年。 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター編『保育学用語辞典』2019年。 名寄の先生が推薦した本、北教大川端美穂先生、お茶大小玉亮子先生のシラバス記載文献など。					

科 目 名	教職概論（幼稚園）		担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身に付けている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼児理解を基盤とし、幼稚園教諭としての専門性や役割について、保育実践に則した指導を行う科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員および保育者に求められる仕事と役割の歴史の変遷について理解し、説明することができる。</li> <li>・現代の教員および保育者に求められる資質・能力、期待される役割について理解したうえで、教員および保育者の専門性について自分なりの考えを持つ。</li> <li>・学校および保育施設の役割の多様性を理解し、教職の意義や多職種との連携・協働の在り方について自分なりの考えを持つ。</li> </ul>					
授業の概要	<p>時代の移り変わりとともに、教員・保育者に期待される役割や、実際の職務内容・範囲は大きく変化してきた。一方で、教職には、いつの時代も変わらない（不易の）役割が存在する。この両面について、具体的な事例を用い学習する。</p> <p>また、学校・保育施設が担う役割や社会的要請の多様化について理解し、上記をふまえたうえで、教員・保育者の専門性、多職種との連携・協働の在り方について考察する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 教員・保育者への道：教員・保育者養成カリキュラム、教員免許・保育士資格の意義</li> <li>3 現代の子どもの生活と学校・保育施設①：子どもの生活と幼稚園・保育施設</li> <li>4 現代の子どもの生活と学校・保育施設②：幼児教育・保育と学校教育との接続</li> <li>5 教員・保育者の仕事と役割①：教育・保育実践の内容と方法</li> <li>6 教員・保育者の仕事と役割②：子どもの遊びから</li> <li>7 教員・保育者の仕事と役割③：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（1）</li> <li>8 教員・保育者の仕事と役割④：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（2）</li> <li>9 教員・保育者にかかわる制度・法律①：教員・保育者の身分保障と服務義務</li> <li>10 教員・保育者にかかわる制度・法律②：労働者としての教員・保育者</li> <li>11 教員・保育者をめぐる諸問題①：教育・保育に求められる役割の変化、教職における「不易と流行」</li> <li>12 教員・保育者をめぐる諸問題②：教職員集団の変化（多職種との連携・協働等）、子ども集団の変化</li> <li>13 教員・保育者をめぐる諸問題③：教員・保育者をめぐる労働問題</li> <li>14 教員・保育者の専門性とは①：グループワーク</li> <li>15 教員・保育者の専門性とは②：まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	「授業計画」にあるキーワードについて、資料やインターネット等を利用して、あらかじめ調べ情報収集しておくこと。			90分	
	復習	講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、資料やインターネット等を利用して、理解を深め課題意識を高めるようにすること。			90分	
授業の留意点	出席は前提となる。やむを得ない事情を除き欠席はしないこと。					
学生に対する評価	中間レポート（50点）、期末レポート課題（50点）により評価する。					
教科書（購入必須）	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。					
参考書（購入任意）	授業のなかで適宜紹介する。					

科 目 名	教育法概論		担当教員名	栞山 茂樹		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	教育法の主要事項・論点について専門的に理解し、論じられるようになる。					
授 業 の 概 要	<p>教育法とは、憲法・教育基本法・学校教育法等をはじめとする、教育に関する法の総体をいう。この法分野は戦後、新憲法・教育基本法体制のもとで新たに出発し、国の教育政策に対する抵抗運動を通じて発展を遂げた。その中で、教科書裁判など多くの重大な事件・争点が生み出されてきた。この授業では教育法の主要事項と、その代表的な論点について学ぶ。</p> <p>将来教師となる人々には、法を順守して職務に臨む良識を身につけてもらう。その他の進路にすすむ人々にとっても、学校教育の諸問題について見識を深める機会となるであろう。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 教育法とは何か</li> <li>3 教育法の歴史：明治憲法・教育勅語体制、日本国憲法・教育基本法体制、戦後教育法学の展開</li> <li>4 日本国憲法の教育規定：教育を受ける権利、義務教育、私学助成</li> <li>5 教育基本法：1946年教育基本法、2006年改正法</li> <li>6 学校教育法：学校制度</li> <li>7 地教法：教育委員会、教育の地方分権化</li> <li>8 学校安全</li> <li>9 国際教育法と日本</li> <li>10 教育権論争</li> <li>11 教科書検定制度</li> <li>12 日の丸・君が代訴訟</li> <li>13 公立学校と政教分離</li> <li>14 校則と懲戒処分 of 事例①</li> <li>15 校則と懲戒処分 of 事例②</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定教科書・参考書を読む。			90分	
	復習	講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関、裁判所等のWebサイトに目を通す。			90分	
授業の留意点	<p>私の他の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」のいずれとも関連がある。特に「子どもの権利」は併せて履修することを強く望む。</p> <p>授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p> <p>予習・復習としては、教科書・参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。法令や関連文書を読むことにも慣れてもらいたい。</p>					
学生に対する評価	期末試験(100%)					
教科書(購入必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015)</li> <li>そのほか追加資料を配布する。</li> </ul>					
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒牧重人ほか編『新基本法コンメンタール 教育関係法』(日本評論社、2015)</li> <li>・『季刊教育法』(エイデル研究所)</li> <li>そのほか参考文献を適宜紹介する。</li> </ul>					



科 目 名	子ども教育心理学		担当教員名	石本 啓一郎	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容					
学 習 到 達 目 標	(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習にかかわる基礎的な心理学理論を理解する。 (2) 発達の特徴を踏まえた学習を支える指導の基礎的な考え方を修得する。				
授 業 の 概 要	はじめに、子どもの心身の発達及び学習に関する基礎理論を学ぶ。次に、子どもの心身の発達及び学習にかかわる各論（記憶、知識、概念、動機づけ、問題解決、主体的学習、リテラシーなど）を学ぶ。以上の内容を通して、教育実践を心理学的に理解し、自ら検討できるようになることを目指す。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 発達および学習の基礎理論① 発達の理論 3 発達および学習の基礎理論② 学習の理論 4 発達および学習の基礎理論③ 発達と学習の関係 5 学習における記憶の役割① 記憶のしくみ 6 学習における記憶の役割② 外的記憶補助、媒介記憶 7 知識・概念の学習と発達① 概念の構造 8 知識・概念の学習と発達② 科学的概念と生活的概念 9 学習への動機づけ① 内発的動機づけ、自己決定理論 10 学習への動機づけ② 達成目標理論 11 問題解決による学習① 問題解決、転移 12 問題解決による学習② 集団における協働学習 13 学習および発達の支援の問題① 主体的学習の支援と評価 14 学習および発達の支援の問題② 外国にルーツをもつ子どもへの学習支援 15 学習および発達の支援の問題③ 幼児期のリテラシーの学習支援				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連文献を読む。			30分
	復習	授業内容を振り返る。			15分
授業の留意点	積極的に参加してほしい。				
学生に対する評価	授業への参加を20点、課題提出を20点、期末試験を60点として評価する。				
教科書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。				
参考書 (購入任意)	『学習・言語心理学』（郷式 徹・西垣順子編、ミネルヴァ書房） 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』（石黒広昭著、東京大学出版会）				

科 目 名	発達心理学		担当教員名	及川 智博・奥村 香澄		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	1. 発達心理学の基礎理論について理解する。 2. 講義から得た発達理論の知識に基づいて、保育における子ども理解・発達理解の重要性および子どもの評価法を理解する。					
授 業 の 概 要	発達心理学の基礎理論について、特に保育実践との関連に触れながら講義を行う。講義を進めるにあたっては、科学が仮説の上に成り立っており、異なる理論上の立場や学説があることを理解すること、また知識として学ぶばかりでなく、学び方を学ぶことが重要であることに留意する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション／保育と心理学（1） 子どもの発達を理解することの意義</li> <li>2 保育と心理学（2） 保育実践の評価と心理学</li> <li>3 保育と心理学（3） 発達観、子ども観と保育観</li> <li>4 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（1） 感情とは何か／基本的感情とその理解</li> <li>5 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（2） 客観的自己意識の発達と自己意識的評価感情の発達／情操の発達</li> <li>6 子どもの発達理解～運動機能の発達～</li> <li>7 子どもの発達理解～認知の発達～（1） 赤ちゃんのこころの発達</li> <li>8 子どもの発達理解～認知の発達～（2） 思考の発達／心の理論</li> <li>9 子どもの発達理解～言語の発達～</li> <li>10 人との相互的かかわりと子どもの発達（1） 愛着の形成と発達</li> <li>11 人との相互的かかわりと子どもの発達（2） 発達と学習</li> <li>12 生涯発達と発達援助</li> <li>13 障がい児の発達</li> <li>14 保育実践事例の分析</li> <li>15 まとめ 子ども、社会、環境、発達、自立</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業前に次回講義に関わる教科書の該当範囲に目を通したり、関連するキーワードについて調べておくこと。			90分	
	復習	授業内で学んだ内容や追加資料、また教科書の該当範囲を再度読むなどして理解を定着させること。			90分	
授 業 の 留 意 点	本講義は学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。					
学 生 対 する 評 価	授業内レポート（10点）及び期末試験（90点）により評価する。					
教 科 書 （購入必須）	心理科学研究会（編）『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』有斐閣					
参 考 書 （購入任意）	授業内で資料を適宜配付する。					

科 目 名	特別な教育的ニーズの理解とその支援		担当教員名	郡司竜平	
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た内容を話題に討論し指導する科目				
学習到達目標	1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。				
授業の概要	(1) インクルーシブ保育を支える理念、 (2) 障害等の理解と保育における発達の援助、 (3) インクルーシブ保育の実際、 (4) 家庭及び関係機関との連携、 (5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。				
授業の計画	1 障害等の理解と援助①（障害とは何か？） 2 障害等の理解と援助②（特別のニーズと支援） 3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度） 4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性） 5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状） 6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状） 7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育園・幼稚園の現状） 8 障害等のある子どもの保育の実際④（討論：差別について） 9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携） 10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携） 11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成） 12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために） 13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで） 14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育への可能性） 15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題）				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書、講義内で提示された資料を中心に予習と資料や討論で話し合われた内容の整理を復習をすること。		45分	
復習					
授業の留意点	演習科目であり、積極的な発言等を求めます。				
学生に対する評価	毎回の講義に対するリアクションペーパー30点、レポート70点で評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編 『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム』 福村出版 2012年				
参考書（購入任意）	梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亜希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年				

科 目 名	保育内容総論		担当教員名	高島 裕美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育および教育内容についての基本理念と構造を学習したうえで、保育および幼児教育施設におけるカリキュラムならびに指導計画編成の意義・目的について理解し、説明することができる。</li> <li>・ 保育および幼児教育施設の実情や乳幼児の発達に即した環境構成をベースとした、さまざまなパターンの指導計画を立案することができる。</li> </ul>					
授業の概要	保育・幼児教育の基本と保育内容および領域の概念について理解し、乳幼児の発達と成長を促すためのカリキュラムならびに各種指導計画の編成について、実践的に学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 幼児教育の基本と保育内容・カリキュラム</li> <li>2 保育内容・カリキュラムの歴史の変遷</li> <li>3 保育カリキュラムの編成原理と子ども観</li> <li>4 教育課程・保育課程の編成とカリキュラム・マネジメント</li> <li>5 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容の理解</li> <li>6 子どもの発達と保育内容</li> <li>7 子ども理解と評価</li> <li>8 養護と教育の一体性と保育内容</li> <li>9 保育における計画① 指導計画の作成</li> <li>10 保育における計画② 計画の展開と評価</li> <li>11 幼児教育と小学校教育の連携・接続を見据えた保育内容</li> <li>12 諸外国の保育内容・カリキュラム</li> <li>13 これからの保育内容①多様な保育ニーズとさまざまな保育形態</li> <li>14 これからの保育内容②多文化共生の保育</li> <li>15 まとめ—子どもの主体性と保育内容・カリキュラムの関係性</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	「授業計画」にあるキーワードについて、資料やインターネット等を利用して、あらかじめ調べ情報収集しておくこと。			45分	
	復習	講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、文献やインターネット等を利用して、理解を深め課題意識を高めるようにすること。				
授業の留意点	講義形式と演習形式を適宜使い分けながら授業を実施する。特に後半では、ペアまたはグループでの指導計画の作成作業に取り組むので、積極的な態度での参加を期待する。					
学生に対する評価	中間試験（50点）、最終提出課題（50点）により評価する。					
教科書（購入必須）	岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正，2018『教育課程・保育の計画と評価 —書いて学べる指導計画—』萌文書林。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育指導論		担当教員名	棚橋 裕子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「ねらい」「内容」を基に、具体的な保育計画作成についての方法や作成における留意点、また、実践の系統性や計画と実践の往還性についてカリキュラムマネジメントの観点から指導を行う科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の基礎理論の理解を基底に、カリキュラムの意義、目的、内容について理解し論じることができる。</li> <li>・幼児期の発達特性や行動特性に基づき、子ども理解の重要性を論じることができる。</li> <li>・保育記録の意義や内容について理解し、分析的、実践的にまとめることができる。</li> </ul>					
授業の概要	幼稚園教育要領の理解を基に、教育方法の基礎理論について具体的な事例を取り上げながら、指導・援助のあり方など保育技術について理解する。また、教育課程・指導計画と保育の関連性についての理解とともに、実践に根ざした指導のあり方を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 幼稚園、保育園、認定こども園における保育</li> <li>2 保育3法令と保育内容</li> <li>3 保育施設におけるカリキュラムの意義と目的</li> <li>4 子どもの遊びと保育者の援助① 遊びの意義と必要性</li> <li>5 子どもの遊びと保育者の援助② 遊びのおもしろさの探究</li> <li>6 子どもの遊びと保育者の援助③ 子どもが遊びで得る経験とその意味</li> <li>7 環境を通して行う保育の意義① 子どもの姿に学ぶ</li> <li>8 環境を通して行う保育の意義② 子どもの実態把握から計画へ</li> <li>9 保育記録の意味</li> <li>10 指導計画の意義と必要性</li> <li>11 行事の捉えと意義① 日常から行事へのつながり</li> <li>12 行事の捉えと意義② 行事を通して得る経験とその後の保育</li> <li>13 家庭との連携① 育ち合う親と保育者</li> <li>14 家庭との連携② 子どもを中心とした支援体制づくり</li> <li>15 まとめ 子どもを取りまく社会と今後の課題</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の内容をシラバスにて確認し、各自で必要箇所について調べたり、質問をまとめたりしておくこと。			90分	
	復習	毎回の授業の内容をまとめ、理解が不十分な点について、資料を参考に学習の補完を行うこと。			90分	
授業の留意点	講義科目であるが、グループワーク等での積極的な参加態度と協同的な学びの姿勢を求める。さらに、自分の興味や疑問点を追求しつつ、他者の視点を取り入れながら形式的に理解を深めていくことを期待する。 授業の進度により内容が前後、変更する場合がある。					
学生に対する評価	授業内レポート20点、期末試験70点、授業態度10点					
教科書（購入必須）	幼稚園教育要領解説『フレーベル館』 その他、適宜資料を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育指導論演習		担当教員名	棚橋 裕子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての経験をもつ教員が、幼稚園教育における幼児理解、保育記録の意義の理解と作成、全体計画の作成、指導の方法と内容について、演習や指導案作成、発表を通して幼稚園教諭としての指導法、技法等を修得させる科目					
学習到達目標	<p>1. 「保育指導論」での学修を踏まえ、子どもの発達を促す教育方法について実践的な力量を身につける。</p> <p>2. 子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例検討や演習を通して自ら考えられる力量を身につける。</p>					
授業の概要	保育指導論で学んだ知識をさらに深めるため、いくつかの事例についてグループワークやディスカッションを通して、その理解を確かなものにする。討議にあたっては、根拠・基準が何であるかを明確にしてその実践が適切な指導方法であるかどうかについて再考する。幼児教育のカリキュラムデザインについて、討議や演習を通し実践的な理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 保育指導論での学びの確認</li> <li>2 保育3法令と保育内容</li> <li>3 保育における環境の意義① 子どもの主体性と環境のつながり</li> <li>4 保育における環境の意義② 子どもが遊び込むための環境設定</li> <li>5 保育における環境の意義③ 遊びがひろがる環境設定</li> <li>6 子ども理解に基づく保育① 実践記録に学ぶ</li> <li>7 子ども理解に基づく保育② 子どもの経験と援助のつながり</li> <li>8 記録の意義と内容① 写真や映像を通して子どもの経験を捉える</li> <li>9 記録の意義と内容② 保育におけるICTの活用</li> <li>10 記録の意義と内容③ 保育記録の作成</li> <li>11 記録の意義と内容④ 保育記録作成の振り返り</li> <li>12 保育計画の作成と保育展開① 模擬保育に向けて</li> <li>13 保育計画の作成と保育展開② 模擬保育</li> <li>14 保育計画の作成と保育展開③ 模擬保育の振り返り</li> <li>15 まとめ 子ども理解と保育者の役割についての振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に各自でシラバスを確認の上、必要な情報について調べたり収集したりしておくこと。			45分	
	復習	各自、またはグループで振り返りを行い、必要な情報についてまとめたり共有したりすること。				
授業の留意点	受講者の関心動向によって、内容構成や順序等の変更がある場合がある。また、PCを使用する場合があるため、可能であれば準備をして臨むこと。その際は、メールにて事前連絡を行う。					
学生に対する評価	授業内レポート20点、期末レポート60点、グループワーク等における積極的な態度20点					
教科書 (購入必須)	幼稚園教育要領解説『フレーベル館』 その他、適宜資料を配布する。					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	子ども理解と教育相談		担当教員名	鹿嶋 桃子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育所や児童家庭支援センター、子育て支援NPOなどにおいて教育相談の心理臨床経験を有し、臨床発達心理士の資格を保持する教員が、子どもの社会性や人間関係構築の支援方法などについて指導する科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、指導上の省察や記録の仕方について知る。</li> <li>・ 発達障害についての理解と特別な支援を必要とする保育の留意点について説明できる。</li> <li>・ 乳幼児の発達や保育に関する保護者への共感的理解や援助を知る。</li> <li>・ 保育者に求められるカウンセリングマインドについて学び、事例に基づいた対応を検討することができる。</li> </ul>					
授業の概要	近年の保育者は子どもたちの保育だけではなく、子育て支援の役割が期待されている。そこで保護者への子育て支援場面において必要とされるカウンセリングマインドや基本的なカウンセリング技法について学ぶ。保育の場における教育相談において重要な発達障害に関する理解を深める。また保育者が行う相談援助の役割は、子どもの個体史や子どもを取り巻く社会文化を含めた広い視野からその発達特性を理解し、支援することを通じて果たされることを事例検討を通じて学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育の場における教育相談の基本的視点</li> <li>2 保育カウンセリングに求められること</li> <li>3 保護者への対応と子育て支援</li> <li>4 子どもの発達理解と支援（1）乳幼児期の発達理解と支援</li> <li>5 子どもの発達理解と支援（2）子どもにとっての遊びとは</li> <li>6 子どもの発達の特徴をとらえるためのアセスメント</li> <li>7 子どもの心理臨床①：自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、学習障害（LD）</li> <li>8 子どもの心理臨床②：言語発達遅滞、発達障害が引き起こす2次障害</li> <li>9 発達障害が気になる子どもとその保護者への理解と支援</li> <li>10 保育におけるカウンセリング技法の活用（1）</li> <li>11 保育におけるカウンセリング技法の活用（2）</li> <li>12 子ども相談と連携：園や地域での専門職連携（IPW）とソーシャルワーク</li> <li>13 保育者の専門性と相談活動</li> <li>14 事例検討（1）保育・教育相談の実践</li> <li>15 事例検討（2）保育・教育相談の実践</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書を事前に読み、わからない用語を調べる。			90分	
	復習	授業で習った用語の復習、紹介された参考文献を読む。			90分	
授業の留意点	ケース・スタディやグループ・ワークでは積極的に参加し、活発に意見を述べることを期待する。					
学生に対する評価	試験（70点） 講義時におけるリアクションペーパー（30点）					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	教育実習指導		担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての経験をもつ教員が、幼稚園教育における幼児理解、保育記録の意義の理解と作成、全体計画の作成、指導の方法と内容、保護者支援等について、演習や指導案作成、発表を通して教育実習（幼稚園）の実践に備えるための内容・方法等を修得させる科目					
学習到達目標	<p>1. 教育実習の意義・目的を理解する。</p> <p>2. 実習の内容を理解しし、自らの課題を明確にする。</p> <p>3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</p> <p>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。</p> <p>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>					
授業の概要	幼稚園教諭としての基礎的な知識や技能、態度等を身に付けるため、実践に即した教材を通して学ぶ。事前指導では、幼稚園教育要領に基づき、幼稚園の機能や目的、保育者の役割等についての理解を深め、保育の内容や指導計画等、実践に向けた準備を行う。事後指導においては、実習の評価、反省を通して、個々の課題を明確化する。その際、グループワークを通して、専門的視点を養う。また、学びの集大成として実習報告会を行う。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、教育実習の意義と目的</li> <li>2 教育実習に必要な視点と心構え</li> <li>3 様々な事例に基づいた援助の多様性と保育者の役割</li> <li>4 実習日誌と記録の書き方～全体の流れ、手順、PCの使用について～</li> <li>5 実習日誌と記録の書き方～グループワーク～</li> <li>6 保育における指導計画、指導案の位置づけ</li> <li>7 指導計画、指導案の作成と保育の展開～事例を通して～</li> <li>8 指導計画、指導案の作成と保育の展開～発表～</li> <li>9 実習に関する諸手続き・直前指導</li> <li>10 教育実習後の振り返りと学びのおさえ、まとめに向けて</li> <li>11 教育実習の振り返り～まとめの要点の確認～</li> <li>12 教育実習の振り返り～グループワーク 1～</li> <li>13 教育実習の振り返り～グループワーク 2～</li> <li>14 教育実習報告会（前半）</li> <li>15 教育実習報告会（後半）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	幼稚園教育要領、並びに授業に必要なテキストを読み授業に備える。			45分	
	復習	授業内容を振り返り、まとめる。				
授業の留意点	<p>実習指導は、実習と同等に位置付けているため、欠席・遅刻をしないようにする。</p> <p>なお、実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。</p> <p>予習：事前に必要な情報についてまとめておくこと。</p> <p>復習：学んだことを各自でまとめておくこと。</p>					
学生に対する評価	提出物 50%、講義に臨む姿勢 50%（グループワーク・ディスカッション等）					
教科書（購入必須）	<p>（保育実習指導と共通）</p> <p>『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『新しい講座 12 保育・教育実習』ミネルヴァ書房</p> <p>小櫃 智子編著・田中 君枝他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社</p>					
参考書（購入任意）						



科 目 名	教育実習		担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美		
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	<p>1. 幼稚園、認定こども園の役割や機能を具体的に理解する。</p> <p>2. 観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。</p> <p>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。</p> <p>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</p> <p>5. 幼稚園教諭、保育教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</p>					
授業の概要	実習を通して幼稚園、認定こども園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわることで、保育について総合的に学ぶことができる。					
授業の計画	<p>1 幼稚園、認定こども園の役割と機能 (1)幼稚園、認定こども園の生活と一日の流れ (2)幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解と保育の展開</p> <p>2 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり</p> <p>3 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育内容 (4)子どもの健康と安全</p> <p>4 保育の計画、観察、記録 (1)指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価</p> <p>5 専門職としての保育者の役割と職業倫理 (1)幼稚園教諭、保育教諭の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭、保育教諭の役割と職業倫理</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	<p>実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。</p> <p>実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（実習指導、初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。</p> <p>予習：シラバスを確認の上、必要な情報についてまとめておく。</p> <p>復習：学んだことをまとめておく。</p>					
学生に対する評価	実習先での評価 40%、実習日誌と事後レポート 30%、受講態度 30%					
教科書（購入必須）	テキスト・参考文献は、実習指導を参照					
参考書（購入任意）						

科目名	教職・保育実践演習		担当教員名	石本啓一郎・及川智博・鹿嶋桃子・菊池稔・高島裕美・棚橋裕子・傳馬淳一郎・堀川真・三国和子・三井登		
学年配当	4年	単位数	2単位		開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修		資格要件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、実践的な演習を行う科目。					
学習到達目標	1年次から4年次までの学修内容を省察することで、教員および保育者として必要な専門性を確認すると同時に、引き続き、生涯学習として取り組んでいく自分なりの課題を明確化する。					
授業の概要	<p>フィールドワークをとおして現場の実践者と語り合う会、学生主体による「シンポジウム」の開催といった多彩な演習に挑戦することで、これまでの学修内容を振り返り、自らが卒業以降も取り組んでいく・検討していくことが求められる生涯学習としての課題を発見していく。</p> <p>さらに、教員および保育者として求められる4つの事項（①教育者としての使命感や責任感 / ②社会性や対人関係能力 / ③子ども理解やクラス経営、また職員・地域・家庭との連携 / ④教科・保育内容等の指導力）について、全15回を通じて総合的に学修する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨンー4年間の学修を捉えなおす講義としてー</li> <li>2 「社会保育」を考える（1）ー領域横断講義 社会編ー</li> <li>3 「社会保育」を考える（2）ー領域横断講義 臨床編ー</li> <li>4 幼児理解のあり方を再考する</li> <li>5 家庭・地域との連携を再考する</li> <li>6 児童養護に携わる職員と語りあう</li> <li>7 保育・幼児教育に携わる職員と語りあう</li> <li>8 保育と地域とのつながりを考える（1）ーフィールドワーク事前準備ー</li> <li>9 保育と地域とのつながりを考える（2）ーフィールドワークー</li> <li>10 保育と地域とのつながりを考える（3）ーフィールドワーク総括ー</li> <li>11 4年間の学びを振りかえる（1）ーシンポジウム企画ー</li> <li>12 4年間の学びを振りかえる（2）ーシンポジウム事前準備ー</li> <li>13 4年間の学びを振りかえる（3）ー4年生最終シンポジウム 1日目ー</li> <li>14 4年間の学びを振りかえる（4）ー4年生最終シンポジウム 2日目ー</li> <li>15 活動・学修内容のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予習・復習として、ワークシート（冊子）が位置付く。予習として、各回の活動に臨むのに先立って、活動のねらいや自分なりの課題を、ワークシートへの記載をとおしてあらかじめ明確にしておく。			90分	
	復習	復習として、各回の活動をとおして新たに身に付けたことや克服した課題についてワークシートに記載し、振り返りとする。			90分	
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションやフィールドワークなどを伴うので、欠席・遅刻をしないよう十分に留意すること。</li> <li>・これまでの4年間の学修内容について、自ら振り返ろうとする主体的な受講態度が求められる。</li> </ul>					
学生に対する評価	各回の活動・学修内容まとめワークシート（80点）、グループでの活動・学習内容まとめ提出課題（各10点）					
教科書（購入必須）	指定しない。					
参考書（購入任意）	各内容に応じて、その都度指示・提示する。					

科 目 名	生涯学習論		担当教員名	大坂 祐二		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。					
授業の概要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する（＝エンパワーメント）学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」（ユネスコ「学習権宣言」）である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯学習とは何か ー保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて</li> <li>2 成人にとっての「学び」 ー自主夜間中学を例に</li> <li>3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展</li> <li>4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割</li> <li>5 生涯学習・社会教育の法と行政 ー学びの自主性をめぐって</li> <li>6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員（1）公民館</li> <li>7 生涯学習・社会教育を支える施設と職員（2）図書館・博物館</li> <li>8 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり</li> <li>9 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育</li> <li>10 子育て仲間づくりにみる学習の組織化</li> <li>11 誰が学習要求を組織するのか</li> <li>12 学習過程とその支援 ー健康学習を例に</li> <li>13 学習の構造化 ー青年・若者をめぐる社会教育実践①</li> <li>14 自分さがしと居場所づくり ー青年・若者をめぐる社会教育実践②</li> <li>15 若者自立支援と社会教育 ー青年・若者をめぐる社会教育実践③</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に配布された資料ないし指示された文献等を読む。			90分	
	復習	内容をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。			90分	
授業の留意点	感染状況等によっては遠隔授業とする。教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。					
学生に対する評価	期末レポート（70点）、提出課題または小テスト（計30点）で評価を行う。					
教科書（購入必須）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。					
参考書（購入任意）	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年					

科 目 名	児童文化		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。 5. 地域において子どもにかかわる多機関の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童文化に関する知識と実際を知り、日本の子ども文化の特性を理解する。</li> <li>・ 児童文化が保育分野に果たす役割を考えつつ、その特性や実践上の留意点について理解するとともに、地域と協働する文化活動に資する力を持つ。</li> </ul>					
授業の概要	子ども理解につなげるために、伝承あそびからおもちゃ・絵本・紙芝居等まで、児童文化にかかるものを紹介し、それがはたす役割について理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況</li> <li>2 あそびについて 「あそび」の持つ意味 と集団づくりに役立つ遊び</li> <li>3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実演</li> <li>4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、手づくりおもちゃ</li> <li>5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介</li> <li>6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様</li> <li>7 紙芝居について 発達史と上演の留意点</li> <li>8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇</li> <li>9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力</li> <li>10 絵本小史 絵本の歴史と 20 世紀初頭海外の展開</li> <li>11 絵本小史 絵本の歴史と日本戦後の展開</li> <li>12 絵本創作の背景 実作を通してみる課程と配慮</li> <li>13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫</li> <li>14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について</li> <li>15 まとめ 授業の感想と児童文化についての考察・発表</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICT 等を活用し、テーマにかかる内容の情報を収集し、ノートにまとめる。			90 分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			90 分	
授業の留意点	科目の性格上、講義科目であるが演習的要素を含むので、実技の予習復習も行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	3 回の小レポート(60 点)、レポート(40 点)					
教科書(購入必須)	その都度必要に応じてプリントを配布する。					
参考書(購入任意)	特になし。					

科 目 名	児童文化演習		担当教員名	堀川 真・石本 啓一郎																															
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習																													
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択																													
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。																																		
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目																																		
学習到達目標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面に活用することができる。																																		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、絵本読み聞かせの実演を全員に課す。</li> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、展開可能な工作指導の技術を身につける。</li> <li>・子どもに向き合うことを想定し、パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。</li> <li>・適切な作品理解のために、絵本作家による講義を通して絵本の理解を深める。</li> </ul>																																		
授業の計画	<table border="1"> <tr> <td>1 オリエンテーション (担当:堀川)</td> <td>16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)</td> <td>17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)</td> <td>18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)</td> <td>19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)</td> <td>20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)</td> <td>21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)</td> <td>22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)</td> <td>23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)</td> <td>24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)</td> <td>25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)</td> <td>26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)</td> <td>27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)</td> <td>28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)</td> <td>29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)</td> <td>30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)</td> </tr> </table>					1 オリエンテーション (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)	2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)	17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)	3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)	18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)	4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)	19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)	5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)	20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)	6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)	7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)	22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)	8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)	9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)	10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)	25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)	11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)	26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)	12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)	27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)	13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)	28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)	14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)	29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)	15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)
1 オリエンテーション (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)																																		
2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)	17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)																																		
3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)	18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)																																		
4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)	19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)																																		
5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)	20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)																																		
6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)																																		
7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)	22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)																																		
8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)																																		
9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)																																		
10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)	25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)																																		
11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)	26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)																																		
12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)	27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)																																		
13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)	28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)																																		
14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)	29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)																																		
15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)																																		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			90分																														
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。																																	
授業の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。																																		
学生に対する評価	授業における発表(50点)、制作物(50点)																																		
教科書(購入必須)	必要に応じてその都度をプリントを配布する。																																		
参考書(購入任意)	特になし																																		

科 目 名	障害児支援の基礎理論		担当教員名	未定		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、特別支援教育やインクルーシブ教育システムについて指導する科目					
学習到達目標	1 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムの概要について説明することができる。 2 発達障害や講義で取り扱った各障害の特性について説明することができる。 3 就学支援の制度や特別支援教育コーディネーターの役割について説明することができる。					
授業の概要	障害児への適切な支援をするために、特別支援教育を推進するための体制整備、インクルーシブ教育システム、発達障害等の障害特性に関する知識を習得する。					
授業の計画	1 特殊教育から特別支援教育への転換の経緯 2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システム 3 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（1）LD、ADHD 4 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（2）自閉症スペクトラム障害 5 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（3）視覚障害、聴覚障害 6 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（4）知的障害 7 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（5）肢体不自由、病弱・身体虚弱 8 特別支援学校の教育課程 9 特別支援学級と通級による指導の教育課程 10 個別の教育支援計画と個別の指導計画 11 就学支援と福祉制度 12 特別支援教育コーディネーターと校・園内支援体制 13 関係機関と連携した支援体制 14 特別支援学校の教育の実際 15 インクルーシブ教育システムと共生社会					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	特別支援教育に関する基礎的・基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、試験（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	教職をめざす人のための特別支援教育：福村出版					
参考書（購入任意）						

科目名	知的障害者の心理・生理・病理		担当教員名	奥村 香澄		
学年配当	2年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択		資格要件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	知的障害を理解する上で定型発達について理解し、発達の偏りやアンバランスについて理解できるようにする。知的障害の要因や状態、心理や社会背景などを捉えることで、多様な障害を理解する基盤を形成することを目標とする。					
授業の概要	定型発達について再確認するとともに、原因に基づいた発達の様態や表象に現れる様々な特徴を、メカニズムとして理解することが求められる。全般的な知識としてではなく、機序や構造を捉えた知的障害の理解を促すようにするため、協議機会を多く持つ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達の生理学的基礎 身体、脳、原初期の反応、社会的相互作用、学習</li> <li>2 知的障害の定義 障害の認定と教育</li> <li>3 知的障害の分類と障害の要因 知的障害の発生機序、学習や行動の特徴</li> <li>4 社会的に増悪する知的障害 社会的相互作用、評価</li> <li>5 遺伝の仕組みと異常 遺伝形質、先天性、後天性、内因、外因</li> <li>6 脳機能の発達 定型発達児の発達</li> <li>7 脳機能の障害 認知、脳波、脳血流量、認知神経心理学、生理心理学</li> <li>8 知的障害児の学習特性 ステレオタイプ、固執性、学習された無気力</li> <li>9 脳機能障害児の運動特性 操作、協調性運動発達障害</li> <li>10 知的障害児の言語発達 他者意図理解、共同注意、自閉症</li> <li>11 知的障害児の社会性の発達 経験、学習</li> <li>12 知的障害児の行動問題の理解と支援 自傷行動、他害行動、応用行動分析</li> <li>13 ダウン症候群 染色体異常、行動特性、学習特性</li> <li>14 Williams 症候群 染色体異常、行動特性、学習特性</li> <li>15 その他の染色体異常 コーネリア・デ・ランゲ、フェニールケトン尿症、レット症候群、ソトス症候群</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や知的障害に関わる文献を読む。			90分	
	復習	講義内容の振り返り。			90分	
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版					

科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理		担当教員名	田中 肇		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員と医療型障害児入所施設の院長である医師が、肢体不自由児の心理・生理・病理及び支援について指導する科目					
学習到達目標	1 肢体不自由の主な起因疾患について説明することができる。 2 肢体不自由児の障害特性や健康管理について説明することができる。 3 肢体不自由児の支援について自分の考えを述べるることができる。					
授業の概要	肢体不自由児への適切な支援をするために、肢体不自由児の障害特性や健康管理、肢体不自由の起因疾患、脳性麻痺等の病態に関する知識を習得する。					
授業の計画	1 肢体不自由とは 2 運動発達の仕組み 3 運動発達と障害 4 肢体不自由の起因疾患 5 脳性麻痺の病態と支援 6 神経・筋疾患の病態と支援 二分脊椎と筋ジストロフィー 7 療育支援の考え方 生活支援の重要性 8 肢体不自由児の障害特性（1） 視知覚と知能 9 肢体不自由児の障害特性（2） 行動特性と障害受容 10 肢体不自由児の健康管理 11 肢体不自由児のリハビリテーション 12 肢体不自由児の社会性 13 肢体不自由児のコミュニケーション 14 肢体不自由児の就学 15 肢体不自由児の支援					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	肢体不自由児に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、2回のレポート（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会					



科 目 名	病弱者の心理・生理・病理		担当教員名	中澤 幸子・下村 遼太郎		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験、医療機関における医師としての実務経験を基に、現場経験を通して得られてきている知見を活用した実践的な講義内容。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。</li> <li>・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。</li> <li>・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち (中澤担当)</li> <li>2 健康、病気、障害の概念 (中澤担当)</li> <li>3 病気・障害の受容とセルフケア (中澤担当)</li> <li>4 病弱者・障害者の心理的特性 (中澤担当)</li> <li>5 病弱者・障害者と家族の支援 (中澤担当)</li> <li>6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 (中澤担当)</li> <li>7 小児科の立場からみた正常発達、新生児疾患、先天異常 (下村担当)</li> <li>8 子どもの病気：感染症、予防接種 (下村担当)</li> <li>9 子どもの病気：循環器疾患、免疫・アレルギー性疾患 (下村担当)</li> <li>10 子どもの病気：消化器疾患、呼吸器疾患 (下村担当)</li> <li>11 子どもの病気：血液・腫瘍性疾患、代謝内分泌疾患 (下村担当)</li> <li>12 子どもの病気：腎泌尿器疾患、神経筋疾患 (下村担当)</li> <li>13 小児科の立場からみた発達障害、小児精神疾患、児童虐待 (下村担当)</li> <li>14 病弱者の支援における今日的課題 (中澤担当)</li> <li>15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと (中澤担当)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図る。			90分	
	復習	授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組む。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ等、授業内で提示された参考文献等を活用して、ノートを整理し、知識の定着を図る。			90分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害、等）についても理解を深めておきましょう。					
学 生 対 する 評 価	下村授業担当分 50点（定期試験 40点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 10点）、中澤担当授業分 50点（授業のまとめシート 15点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 15点、課題レポート 20点）、として、2名の教員の総合点（満点は100点）によって評価します。					
教 科 書 (購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。					
参 考 書 (購入任意)	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著：特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理 ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623061532					

科 目 名	知的障害者教育課程論		担当教員名	郡司 竜平		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育課程編成の実際や仕組みを体系的に指導する科目					
学習到達目標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。					
授業の概要	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションやインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害とは（イントロダクション） 認知、学習、生活、自立</li> <li>2 障害児教育の概要(1) 特別支援学校の教育の実際</li> <li>3 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際</li> <li>4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に</li> <li>5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級）</li> <li>6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準</li> <li>7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備</li> <li>8 教育課程の開発と編成 個別の教育支援計画、個別の指導計画</li> <li>9 各教科の指導</li> <li>10 領域の指導 自立活動</li> <li>11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習</li> <li>12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価</li> <li>13 チームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発</li> <li>14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編制</li> <li>15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考にテキストの関係箇所を読み、基礎的事項を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料やテキストを基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	講義におけるリアクションペーパー（30点）、試験（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019					
参考書（購入任意）	橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）					

科 目 名	知的障害者教育方法論		担当教員名	郡司 竜平		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育内容を方法について体系的に指導する科目					
学習到達目標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-Check-Action）の意義と具体的な指導について理解を深める。					
授業の概要	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の仕組みや授業や教材の工夫について学修する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害のある子どもの理解と教育</li> <li>2 行動観察とアセスメント</li> <li>3 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について①</li> <li>4 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について②</li> <li>5 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について③</li> <li>6 応用行動分析学に基づく支援（1）行動分析の理論、行動の形成と強化</li> <li>7 応用行動分析学に基づく支援（2）課題分析と連鎖化</li> <li>8 自立活動と個別の指導計画の作成（1）</li> <li>9 自立活動と個別の指導計画の作成（2）</li> <li>10 授業の工夫と改善（1）各強化の指導</li> <li>11 授業の工夫と改善（2）各教科等を合わせた指導</li> <li>12 知的障害教育における ICT の活用について</li> <li>13 自閉スペクトラム症のある人の事例で学ぶ</li> <li>14 ダウン症のある人の事例で学ぶ</li> <li>15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考にテキストの関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料やテキストを基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	毎回の講義におけるリアクションペーパー（30点）と期末レポート課題の結果（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019					
参考書（購入任意）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 郡司竜平著『特別支援教育 ONE テーマブック ICT活用新しいはじめの一步』学事出版 2019					

科 目 名	肢体不自由者教育課程論		担当教員名	未定		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員が、肢体不自由教育の教育内容や方法、教育課程の基本について指導する科目					
学習到達目標	1 肢体不自由教育の歴史の変遷を説明することができる。 2 肢体不自由教育の教育課程の特徴を説明することができる。 3 肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を説明することができる。 4 肢体不自由教育に必要な専門性について自分の考えを述べるができる。					
授業の概要	肢体不自由教育の意義を理解するために、肢体不自由教育の歴史や制度、教育課程に関する知識を習得し、肢体不自由児への指導や支援の基礎について学ぶ。					
授業の計画	1 肢体不自由の定義 肢体不自由と教育 2 肢体不自由教育の歴史 肢体不自由教育の萌芽と発展 3 肢体不自由教育の現状 学習の場と対象 4 肢体不自由児の障害特性 障害特性と実態把握 5 肢体不自由教育の教育課程（1） 教育課程編成の基本 6 肢体不自由教育の教育課程（2） 教育課程に関する法令等の規定 7 肢体不自由教育の教育課程（3） 特別支援学校における教育課程編成 8 肢体不自由教育の教育課程（4） 小・中学校における教育課程編成 9 肢体不自由教育の教育課程（5） 自立活動 10 重度・重複障害の教育（1） 授業の実際① 11 重度・重複障害の教育（2） 授業の実際② 12 重度・重複障害の教育（3） 医療的ケア 13 肢体不自由児のキャリア教育 キャリア教育と進路指導 14 肢体不自由児の家族支援 肢体不自由児と家族への支援 15 肢体不自由教育の今後の課題 教師の専門性					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	復習では、講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	肢体不自由教育に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）					
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会					

科 目 名	肢体不自由者教育方法論		担当教員名	未定		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員が、肢体不自由児の実態把握、指導や支援、授業実践について指導する科目					
学習到達目標	1 個別の教育支援計画や個別の指導計画について説明することができる。 2 自立活動の意義について説明することができる。 3 肢体不自由児を対象とした学習指導案の作成をすることができる。					
授業の概要	肢体不自由教育の実践をするために必要な個別の諸計画を踏まえた指導内容や指導方法に関する知識を習得し、肢体不自由児への適切な指導について学ぶ。					
授業の計画	1 肢体不自由教育の実際 肢体不自由児の事例 2 肢体不自由児の実態把握 運動、コミュニケーション、社会性のアセスメント 3 個別の教育支援計画 他機関との連携 4 個別の指導計画 諸計画との関連性 5 自立活動（1） 自立活動の意義と目標や内容 6 自立活動（2） 指導の進め方 7 各教科の指導（1） 学習支援の方法 8 各教科の指導（2） 指導の工夫と留意点 9 各教科等を合わせた指導（1） 日常生活の指導、遊びの指導 10 各教科等を合わせた指導（2） 生活単元学習、作業学習 11 学習指導案の作成（1） 単元設定の理由、目標設定 12 学習指導案の作成（2） 学習内容 13 学習指導案の作成（3） 授業評価 14 授業改善 授業研究 15 肢体不自由教育のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	肢体不自由児に対する適切な指導及び必要な支援に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会					
参考書（購入任意）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）					

科 目 名	病弱者教育論		担当教員名	高橋 和明		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学習到達目標	病弱者教育の歴史と意義について理解し、病弱者教育の対象者に応じた教育の特徴について概要を把握するとともに病弱者教育の現代的課題について見通すことを目的とする。					
授業の概要	病弱者教育の歴史から病弱者教育が果たしてきた役割について学び、病弱者教育の意義と課題について学ぶ。病弱者教育の対象である主な疾患とその特徴、教育を行うに当たって配慮すべきことを考察する。病弱者教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨN 授業の進め方、学習マップ1</li> <li>2 病弱者教育の歴史の変遷と定義 療育から教育へ</li> <li>3 病弱者教育の意義と目的 学ぶ権利の保障、教育課程の整備</li> <li>4 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、内分泌疾患</li> <li>5 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 腎・泌尿器疾患</li> <li>6 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 心疾患、筋疾患</li> <li>7 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(4) 重症心身障害</li> <li>8 死について考える ターミナル期にある子どもの教育</li> <li>9 自分自身を振り返る 命の選択</li> <li>10 病気とともに生きるということ グループワークの協議を通して</li> <li>11 拡大する病弱者教育の対象 不登校、被虐待、ネグレクト、精神疾患</li> <li>12 病弱者教育の設置基準と教育の場 特別支援学校、学級、院内学級</li> <li>13 病状に合わせた指導計画 集団の形成、授業時数の設定</li> <li>14 医療機関と教育の関係と連携、家庭との連携 連携のあり方、連絡帳、病状ノート</li> <li>15 病弱者教育の現代的課題 医療の高度化、病気の多様化</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	講義中の協議課題 (20 点)、課題の取組状況 (30 点)、レポート (50 点) により評価する。					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)	病気の子どもの教育入門：クリエイツかもがわ 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説 (総則等編) 特別支援学校学習指導要領解説 (自立活動編) 特別支援教育の指導法：教育出版					

科 目 名	重複障害・発達障害の評価		担当教員名	奥村 香澄		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・特支：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容						
学 習 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。					
授 業 の 概 要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に基づいた正確なアセスメントが求められてくる。多様な評価について学び、実際のアセスメントの知識と技術を身につける。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アセスメントとは 評価、心理、社会、生活</li> <li>2 アセスメントの方法 観察、解釈、記録、聴き取り、定量的評価、定性的評価</li> <li>3 重複障害の評価 反応形成、フィードバック</li> <li>4 医療的数値 脳波、脳血流量、血中酸素、その他の数値</li> <li>5 心理検査の理解① 認知理論、心理検査の発展過程</li> <li>6 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義</li> <li>7 心理検査の理解③ WISC-IV、KABC-II、DN-CAS</li> <li>8 心理検査の実際① WISC-IV</li> <li>9 心理検査の実際② 田中ビネー式知能検査 V、新版 K 式発達検査</li> <li>10 心理検査の解釈① WISC-IV</li> <li>11 心理検査の解釈② 田中ビネー式知能検査 V、新版 K 式発達検査</li> <li>12 心理検査の解釈③ 総合的な解釈、検査レポート、倫理的責任、支援計画</li> <li>13 保護者支援 障害受容、療育の見通し、家族との調整</li> <li>14 自立支援 本人受容、将来設計</li> <li>15 支援の実際 アセスメント、支援計画、介入、コンサルテーション</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連する文献を読む。			90分	
	復習	授業の振り返り。			90分	
授業の留意点	実際の心理検査などを行うため、グループワークの際は欠席などの無いようにすること。					
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版					

科 目 名	重複障害・発達障害の教育	担当教員名	奥村 香澄
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	選択
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態とを正しく把握することができ、適正な支援の方法と障害のある幼児、児童、生徒の社会的自立の見通しを立てることができるようにする。		
授業の概要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。障害の重複を具体的に捉え、自己決定を保障する方法を学ぶと共に、6.5%といわれる発達障害の概要を理解し、多様なニーズに応えられる知識と技能を身につける。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 重複障害とは 障害の重複、困難の重複、複合的な相互作用</li> <li>2 重複障害の教育 教育課程、指導法、自立活動</li> <li>3 重複障害の予後 施設、病院、家庭、社会参加</li> <li>4 発達障害とは LD、注意欠如/多動症(AD/HD)、自閉スペクトラム症</li> <li>5 発達障害の困難 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、コミュニケーション</li> <li>6 発達障害の教育 通常学級、通級による指導、適応教室、不登校</li> <li>7 発達障害の教育課程における位置づけ 特別支援教育、自立活動</li> <li>8 学習やコミュニケーションの困難の機序 感覚、知覚、認知</li> <li>9 LD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害</li> <li>10 AD/HD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害</li> <li>11 自閉症スペクトラムの指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害、アスペルガー症候群</li> <li>12 発達障害の社会的自立 障害認定、適応</li> <li>13 社会における発達障害 定義、啓発、受容</li> <li>14 発達障害に関わる制度の変遷 教育、福祉、就労</li> <li>15 重複障害・発達障害のまとめ 自己認識、社会的相互作用、社会的背景</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	参考書や関連図書を読む。	90分
	復習	授業内容を振り返る。	90分
授業の留意点	実際の発達障害支援の実務者の活動を取り混ぜる予定である。		
学生に対する評価	講義における小レポート(20点)、課題の取組状況(30点)、レポート(50点)等で評価する。		
教科書(購入必須)			
参考書(購入任意)	特別支援教育における障害の理解：教育出版		



科 目 名	視覚障害者教育総論	担当教員名	星 祐子
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	選択
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容			
学習到達目標	視覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに共生社会形成の基礎となる特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。		
授業の概要	<p>本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材を使用しながら授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害の概要（生理・病理）及び視覚管理</li> <li>2. 視覚障害教育の歴史及び制度</li> <li>3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画</li> <li>4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 視覚障害の生理及び病理と視覚管理① 視覚障害の定義、視覚器の構造と視覚障害</li> <li>2 視覚障害の生理及び病理と視覚管理② 視機能と視覚障害、眼疾患と教育的配慮</li> <li>3 視覚障害の心理特性、発達を規定する要因と発達の特徴、アセスメント、観察評価</li> <li>4 視覚障害教育の歴史と制度、交流及び共同学習</li> <li>5 教育課程と指導計画① 教育課程の意義、教育課程の編成と指導計画の作成</li> <li>6 教育課程と指導計画② 学習指導要領</li> <li>7 指導内容及び指導方法① 視覚障害教育における指導上の配慮事項、盲児の触知覚の特性、点字の読み書きの指導、空間概念の指導、歩行指導、言葉と事物・事象の対応の指導</li> <li>8 指導内容及び指導方法② 弱視児の視知覚の特性 重複障害児の指導、教材教具</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	視覚障害の疑似体験や演習なども行うため、積極的に講義に参加すること。		
学生に対する評価	提示課題の取り組み状況（30点）、レポート課題（70点）により評価する。		
教科書（購入必須）	適宜、プリントを配布する。		
参考書（購入任意）	視覚障害教育入門 ジアース教育新社 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）		

科 目 名	聴覚障害者教育総論		担当教員名	庄司 和史		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（聴覚障害）教諭として実務経験のある教員が、子どもの実態把握に基づいた具体的な指導法について扱う科目					
学習到達目標	聴覚障害の概要について生理・病理の観点から学習し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などに関する基本的な事柄を理解することができる。また、聴覚障害者の発達や心理的特性に関する知識を習得し、実際の指導場面を想定した模擬授業案を作成することができる。					
授業の概要	聴覚障害の心理的特徴や学習上の困難を理解するために、簡単な疑似体験を行い、ディスカッションを通して学習する。また、ことばの指導に関するいくつかの方法について、実際の教材などを使いながら体験的に学習する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害の生理及び病理① 聴覚障害の定義、聴覚の構造と障害</li> <li>2 聴覚障害の生理及び病理② 聴覚機能と聴覚障害、疾患と教育的配慮</li> <li>3 聴覚障害の心理特性と発達 コミュニケーション、社会性、学習</li> <li>4 障害の早期発見と早期療育 心理的支援、保護者支援、補聴器、人工内耳</li> <li>5 聴覚障害教育の歴史と制度 聾啞学校、ろう学校、口話、手話</li> <li>6 聴覚障害教育における教育課程と指導計画① 各教科の指導</li> <li>7 聴覚障害教育における教育課程と指導計画② 各領域の指導、自立活動</li> <li>8 授業の実際 「個別の指導計画」、学習指導案、まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	(1～4 に関して) 生活の中で音や言葉が聞こえないときに起こる困難を具体的に考え、聴くことの重要性についてまとめる。 (5～8 に関して) 幼児の様々な遊びの活動において言葉がどのように使われているか、また言葉が聞こえない幼児への代替手段を考える。			6時間 6時間	
	復習	(1～2 に関して) 耳の構造の略図を描き、主要な部位の名称を覚える。 (3～4 に関して) 難聴の早期発見・早期療育の意義をまとめる。 (5～8 に関して) 聴覚障害教育における自立活動（言語指導）の意義を確認し、学習指導案の作成に取り組む。			3時間 3時間 6時間	
授業の留意点	聴覚障害の疑似体験なども行うため、積極的に参加すること。 授業資料を事前に配付するので授業日前に目を通し、流れをつかんでおくこと。 全体の復習（まとめ）として授業の中で提示する視覚教材（絵話教材）を使い、それぞれ授業計画案を立てて、レポートとして提出すること。					
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、提示課題の取り組み状況（20点）、レポート課題（60点）により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	宇田二良他編「特別支援教育免許シリーズ 聞こえの困難への対応」建帛社 2021					

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導		担当教員名	郡司 竜平・奥村 香澄		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主として展開する科目					
学習到達目標	1 教育実習の意義や目的について説明することができる。 2 教育実習の内容を理解し、自らの課題を設定することができる。 3 学習指導案を作成することができる。 4 教育実習の総括と自己評価をし、新たな課題を設定することができる。					
授業の概要	教育実習に取り組むために、教育実習の意義や目的、流れを理解するとともに、指導案の作成をする。また、教育実習の学びを深めるために、教育実習で学んだことを教育実習報告会において発表と協議をする。					
授業の計画	1 教育実習の意義と目的 2 教育実習の流れと内容（必要な書類や手続き） 3 幼児児童生徒の実態把握 4 個別支援と集団による授業における指導計画の立て方 5 教科における指導案の作成 6 教科における指導案の改善 7 教科等を合わせた指導の指導案の作成 8 教科等を合わせた指導の指導案の改善 9 実習前の確認事項 10 教育実習報告会① 6・7月期間の実習者 11 教育実習報告会② 8・9月期間の実習者 12 教育実習報告会③ 10月期間の実習者 13 教育実習報告会④ 11月期間の実習者 14 教育実習報告会⑤ 12月期間の実習者 15 教育実習の振り返り					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまで履修した特別支援教育に関する授業科目の内容を理解しておくこと。			20分	
	復習	実習後は報告会で発表する内容をまとめておくこと。			25分	
授業の留意点	教育実習の意義や目的を理解し、教育実習に対する意欲を高めること。欠席・遅刻は十分に留意すること。					
学生に対する評価	提出物（30点）、教育実習報告会の発表（70点）					
教科書（購入必須）	必要に応じて資料を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	障害児教育実習		担当教員名	郡司 竜平・奥村 香澄		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、教育実習生への指導経験を生かした指導をする科目					
学 習 到 達 目 標	1 特別支援学校の役割や機能について説明することができる。 2 障害児の指導方法及び保護者への支援方法を身に付けることができる。 3 特別支援学校教諭の業務内容や職業倫理について説明することができる。					
授 業 の 概 要	障害領域に対応した指導力を身に付けるために、特別支援学校での実習を通して、対象幼児児童生徒の実態把握、指導案の作成、教材研究、研究授業をする。					
授 業 の 計 画	1 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教師の専門性及び服務 2 幼稚部から高等部及び専攻科を通した教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） 3 各教科等の授業参観 4 配属学級における学級経営の視点と方法 5 幼児児童生徒の実態把握 6 個別の指導計画と学級経営を基盤とした指導計画の作成 7 各教科等の指導計画の作成と教材研究 8 実習授業 9 研究授業 10 実習のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	これまでの学習の成果を活用し、積極的な態度で取り組むこと。欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。					
学 生 に 対 す る 評 価	学習指導、生活指導、幼児児童生徒理解、実習態度について実習校担当者が評価した評価表（80点）と実習日誌の記載内容（20点）で評価する。					
教 科 書 （購入必須）						
参 考 書 （購入任意）						